

BladeSymphony BS320

Virtage ユーザーズガイド

～ 運用編 ～

マニュアルをよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近なところに保管してください。

登録商標・商標

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-Vは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、インテル、XeonはIntel Corporationの登録商標および商標です。

Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hatは、米国およびその他の国におけるRed Hat,Inc.の登録商標または商標です。

その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

発行

2011年4月(第1版)

版權

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright© Hitachi, Ltd. 2011, All rights reserved.

お知らせ

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複写することは固くお断わりします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お問い合わせ先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- この製品には、RSA Data Securityからライセンスを受けたコードが含まれています。

システム装置の信頼性について

ご購入いただきましたシステム装置は、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。高信頼性を必要とする場合には別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。

一般事務用システム装置が不適当な、高信頼性を必要とする用途例

- 化学プラント制御・医療機器制御・緊急連絡制御等

規制・対策などについて

電波障害自主規制について

電波障害自主規制については、次の説明文をお読みください。

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

電源の瞬時電圧低下対策について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。(詳しくは本文をご参照ください)

高調波電流規格: JIS C 61000-3-2準用品について

JIS C 61000-3-2準用品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部: 限度値—高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」を準用し、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

雑音耐力について

本製品の外来電磁波に対する耐力は、国際電気標準会議規格IEC61000-4-3「放射無線周波電磁界イミュニティ試験」のレベル2 に相当する規定に合致していることを確認しております。

輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明の場合は弊社担当営業にお問い合わせください。なお、この装置に付属する周辺機器やプレインストールされているソフトウェアも同じ扱いになります。

システム装置の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンやシステム装置はオフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのシステム装置の中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、そのシステム装置を譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去することが必要となります。

ところが、このハードディスクに書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ゴミ箱」に捨てる
- 「削除」処理を行う
- 「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトで初期化（フォーマット）する
- 付属のリカバリーCD を使い、工場出荷状態に戻す

などの作業をすすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。

つまり、一見消去されたように見えますが、Windows® などのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このシステム装置のハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。システム装置ユーザが、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくシステム装置を譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

ハードディスクのデータを消去するユーティリティは、『CLEAR-DA』、『CLEAR-DA RAID』などがあります。詳細は担当営業へお問い合わせください。

制限

- 『CLEAR-DA』は、CD より起動させて使用します。
- 本システム装置については、別途USB外付けCD装置が必要となります。





はじめに

このたびはBladeSymphony BS320装置をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このマニュアルは、取り扱いの注意など、使用するために必要な事柄について記載しています。

マニュアルの表記

マークについて

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。

マーク	意味
 警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。 また、オペレーションをする上での注意事項を示します。
通知	これは、装置の重大な損傷、または周囲の財物の損傷を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 制限	人身の安全や装置の重大な損傷と直接関係しない注意書きを示します。
 補足	装置を活用するためのアドバイスを示します。

オペレーティングシステム(OS)の略称について

本マニュアルでは、次のOS 名称を省略して表記します。

また、Service Pack については記載していません。

- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Standard)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Enterprise)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Datacenter)

- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Standard)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Enterprise)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Datacenter)

- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™ 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Standard without Hyper-V)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™ 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V™ 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V)

- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-bit 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Standard 32-bit)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-bit 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Enterprise 32-bit)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32-bit 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Datacenter 32-bit)

- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™ 32-bit 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 32-bit)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™ 32-bit 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32-bit)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V™ 32-bit 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V 32-bit)

- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版
(以下 Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition)
- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版
(以下 Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition)

- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition 日本語版
(以下 Windows Server 2003 R2, Standard Edition)
- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版
(以下 Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition)

- Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition 日本語版
(以下 Windows Server 2003, Standard x64 Edition)
- Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版
(以下 Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition)

- Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition 日本語版
(以下 Windows Server 2003, Standard Edition)
- Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition 日本語版
(以下 Windows Server 2003, Enterprise Edition)

なお次のとおり、省略した「OS 表記」は、「対象OS」中のすべてまたは一部を表すときに用います。

OS表記	対象OS
Windows Server 2008 R2	Windows Server 2008 R2 Standard
	Windows Server 2008 R2 Enterprise
	Windows Server 2008 R2 Datacenter
Windows Server 2008	Windows Server 2008 Standard
	Windows Server 2008 Enterprise
	Windows Server 2008 Datacenter
	Windows Server 2008 Standard without Hyper-V
	Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V
	Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V
	Windows Server 2008 Standard 32-bit
	Windows Server 2008 Enterprise 32-bit
	Windows Server 2008 Datacenter 32-bit
	Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 32-bit
	Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32-bit
	Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V 32-bit
Windows Server 2008 64bit版	Windows Server 2008 Standard
	Windows Server 2008 Enterprise
	Windows Server 2008 Datacenter
	Windows Server 2008 Standard without Hyper-V
	Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V
Windows Server 2008 32bit版	Windows Server 2008 Standard 32
	Windows Server 2008 Enterprise 32
	Windows Server 2008 Datacenter 32
	Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 32-bit
	Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32-bit
	Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V 32-bit
	Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V 32-bit
Windows Server 2003 R2	Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition
	Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition
	Windows Server 2003 R2, Standard Edition
	Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition
Windows Server 2003 R2(x64)	Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition
	Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition
Windows Server 2003 R2(32ビット)	Windows Server 2003 R2, Standard Edition
	Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition
Windows Server 2003	Windows Server 2003, Standard x64 Edition
	Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition
	Windows Server 2003, Standard Edition
	Windows Server 2003, Enterprise Edition
Windows Server 2003(x64)	Windows Server 2003, Standard x64 Edition
	Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition
Windows Server 2003(32ビット)	Windows Server 2003, Standard Edition
	Windows Server 2003, Enterprise Edition

安全にお使いいただくために

「安全にお使いいただくために」については、「[BladeSymphony BS320 ユーザーズガイド 導入編](#)」を参照してください。

目次

お知らせ	iii
重要なお知らせ	iii
システム装置の信頼性について	iii
規制・対策などについて	iii
はじめに	v
マニュアルの表記	v
安全にお使いいただくために	viii
目次	ix
1 Virtage Navigatorによる運用	1
1.1 HVMスクリーンとHVMコンソールの差異	2
1.2 HVMスクリーンの簡単移動	3
1.2.1 メニュースクリーンへの移動	3
1.2.2 スクリーンの直接移動	5
1.2.3 スクリーンの巡回移動	6
1.3 SVP情報の登録と削除	8
1.3.1 SVP情報の登録	8
1.3.2 SVP情報の削除	12
1.4 メッセージ	15
1.5 注意事項	16
1.5.1 HVMコンソールの注意事項	16
仮想COMコンソールが開かない場合	16
Code:30021335が発生する場合	16
1.5.2 IPアドレスを変更する場合の注意事項	17
HVM IPアドレスを変更する場合	17
BSM IPアドレスを変更する場合	17
HVM CLI IPアドレスを変更する場合	18
SVP IPアドレスを変更する場合	18
2 HVMスクリーンによる運用	19
2.1 HVMスクリーン操作	20
2.1.1 HVMキー	20
2.1.2 HVMスクリーン	22
全スクリーン共通	23
HVM Menu	24
Logical Partition Configuration	27
Logical Processor Configuration	37
Physical Processor Configuration	40
PCI Device Information	43
PCI Device Assignment	44
Virtual NIC Assignment	46
Shared FC Assignment	53
Allocated FC Information	56
System Configuration	57
System Service State	61
Date and Time	63

HVM Options	67
LPAR Usage.....	71
Front Panel.....	75
HVM System Logs.....	77
Firmware Version Information	79
2.2 HVMダンプの採取.....	80
2.2.1 HVMダンプの確認	80
2.2.2 HVMダンプの採取	81
2.2.3 HVMダンプの取り出し.....	83
2.3 メッセージ	84
2.3.1 HVMブートメッセージ	84
2.3.2 HVMスクリーンメッセージ	85
2.3.3 HVMシステムログメッセージ.....	90
【Errorレベル】.....	90
【Warnレベル】.....	93
【Infoレベル】.....	96
2.4 注意事項	100
2.4.1 プロセッサキャッピングについて.....	101
2.4.2 LPARメモリのフラグメントについて	101
2.4.3 メモリ割り当てについて.....	102
2.4.4 PCIデバイス割り当てについて.....	102
2.4.5 共有FC機能の使用可否について.....	103
2.4.6 ブートオプションの設定について	103
2.4.7 HVMシャットダウンについて	104
2.4.8 フラッシュメモリ障害について.....	104
2.4.9 管理バス通信のパフォーマンス低下について.....	104
2.4.10 リモートコンソールについて.....	104
2.4.11 パワーキャッピングについて	105
2.4.12 UPSについて.....	105
2.4.13 JP1/NETM/Remote Controlについて	105
2.4.14 JP1/SC/BSMについて	105
2.4.15 JP1/SC/DPMIについて.....	106
2.4.16 N+Mコールドスタンバイの運用について	107
2.4.17 N+M切り替え時の時刻ずれについて.....	107
索引	108

1 Virtage Navigatorによる運用

この章では、Virtage Navigatorによる運用について説明します。
バージョンにより画面の表示内容が異なる場合があります。

最新のVirtage Navigatorによる運用方法については、
[「BladeSymphony Virtage ユーザーズガイド LPAR設定編」](#)を参照してください。

- 1.1 HVMスクリーンとHVMコンソールの差異
- 1.2 HVMスクリーンの簡単移動
- 1.3 SVP情報の登録と削除
- 1.4 メッセージ
- 1.5 注意事項

1.1 HVMスクリーンとHVMコンソールの差異

HVMコンソールはシリアル端末ベースのHVMスクリーンと同様の情報を表示しますが、以下に示す差異があります。

フィールド	HVMスクリーン(シリアル端末)	HVMコンソール(Virtage Navigator)
Logical Partition Configuration		
LPARのActivation LPARのDeactivation LPARのReactivation	LPARのステータスフィールドから操作できます。	LPARのステータスフィールドは入力できません。 LPARのActivation/ Deactivation/ Reactivationは、ボタン操作で行います。
GB単位のメモリ指定	整数部のみ入力できます。	整数部の他に、0.00、0.25、0.50、0.75の4つの小数部の入力ができます。
仮想COM割当て	“Y”を指定できます。	“Y”を指定できません。仮想COMの番号を選択します。
Remain Mem	閉塞(※1)したLPARに割り当てていたメモリサイズが含まれます。	閉塞(※1)したLPARに割り当てていたメモリサイズが含まれません。
Physical Processor Configuration		
占有/共有のプロセッサ数	プロセッサコアのスレッドを占有/共有で別々に割当てた(推奨しない割当て)場合、両方のスレッドは占有プロセッサにカウントされます。	プロセッサコアのスレッドを占有/共有で別々に割当てた(推奨しない割当て)場合、両方のスレッドは共有プロセッサにカウントされます。
VNIC Assignment		
VLAN ID Allocation	F2ボタンで表示されます。	VNICセグメントを選択することで表示されません。
HVM Options		
Confirmation	利用できます。	利用できません。
Screen Switching Character	利用できます。	利用できません。
Copy NVRAM	利用できます。	利用できません。
スクリーン共通		
HVMシステムログの検出表示	“Error Event Detected”と表示されます。	“HVM Alert”と表示されます。
HVM System Shutdown	どのスクリーンでも操作できます。	System Service Stateだけが操作できます。

※LPARがリソースを開放しないまままで停止してしまった異常状態を“LPAR閉塞”と呼びます。

LPARが閉塞すると、HVMを再起動するまで、当該LPARに割当てたCPUやメモリが開放されません。

1.2 HVMスクリーンの簡単移動

1.2.1 メニュー画面への移動

HVMコンソールのMenuボタンをクリックすることで、メニュー画面へ移動することができます。

The screenshot shows the HVM Console interface with the 'HVM Menu' button highlighted in a red box. The main window displays the 'Logical Partition Configuration' menu, which includes a table of logical partitions and summary statistics for logical and physical information.

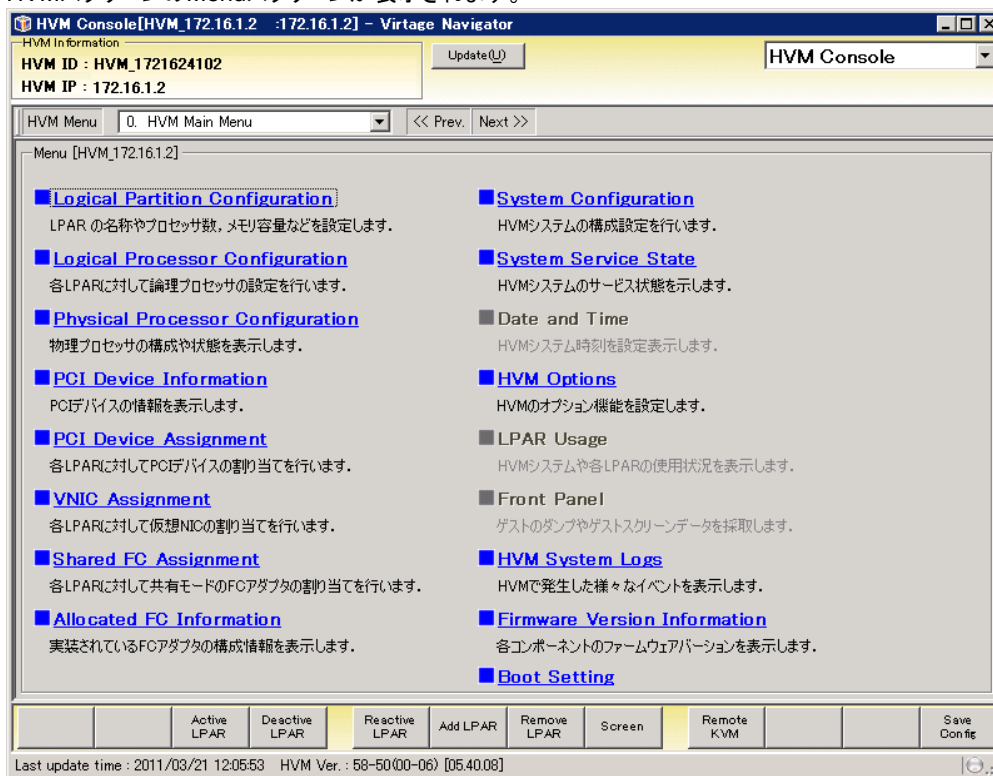
#	Name	Status	Schedule	Proc	Group#	Service Ratio	Memory	VNIC Count	Idle Detection	Auto Act	Au Cle
1	u3x86-03	Failure	S	4	3	100	768	2	Y	*	
2	u3x86-05	Act	S	4	3	100	768	2	Y	*	
3	u3x64-07	Act	S	4	3	100	768	2	Y	*	
4	u3x64-09	Deact	S	4	3	100	768	2	Y	*	
5	u4x86-04	Deact	S	4	8	100	768	2	Y	*	
6	u4x86-06	Deact	S	4	8	100	768	2	Y	*	
7	u4x64-08	Deact	S	4	8	100	768	4	Y	*	
8	u4x64-10	Deact	S	4	8	100	768	2	Y	*	
9	w3x86-11	Deact	S	4	15	100	1024	2	Y	*	
10	w3x86-12	Deact	S	4	15	100	1024	2	Y	*	
11	w8x86-13	Deact	S	4	15	100	1280	2	Y	*	
12	w8x2e-14	Deact	S	4	7	100	1024	2	Y	*	
13	w8x64-15	Deact	S	4	15	100	1536	2	Y	*	

Logical Information					Physical Information		
	Proc	Shared	Dedicate	Memory	VNIC Count		
Assign Total	62	60	2	15104 MB	38	User Memory	15104 MB
Act Total	14	12	2	3328 MB	4	Processors	14 (16)
Remain				11776 MB		Shared	12
						Dedicate	2

Buttons: Memory Allocate, Active LPAR, Deactive LPAR, Reactive LPAR, Add LPAR, Remove LPAR, Screen, Remote KVM, Cancel, Commit, Save Config

Last update time : 2011/03/21 12:05:53 HVM Ver. : 58-50/00-06 [06.40.08]

HVMスクリーンのMenuスクリーンが表示されます。



補足

- HVMスクリーンの各項目に関する説明は、「HVMスクリーンによる運用」の「HVMスクリーン操作」を参照してください。

1.2.2 スクリーンの直接移動

HVMコンソールのコンボボックスに表示されるスクリーンを選択することで、スクリーンへの直接移動ができます。

The screenshot shows the HVM Console interface with a dropdown menu open. The menu items are:

- 1. Logical Partition Configuration
- 2. Logical Processor Configuration
- 3. Physical Processor Configuration
- 4. PCI Device Information
- 5. PCI Device Assignment
- 6. VNIC Assignment
- 7. Shared FC Assignment
- 8. Allocated FC Information
- 9. System Configuration
- 10. System Service State
- 11. Date and Time
- 12. HVM Options
- 13. LPAR Usage
- 14. Front Panel
- 15. HVM System Logs
- 16. Firmware Version Information
- 17. Boot Setting

The main table displays the following data:

#	Name	Proc	Group#	Service Ratio	Memory	VNIC Count	Idle Detection	Auto Act	Au Cle
1	u3x86	4	3	100	768	2	Y	*	
2	u3x86	4	3	100	768	2	Y	*	
3	u3x64	4	3	100	768	2	Y	*	
4	u3x64	4	3	100	768	2	Y	*	
5	u4x86	4	8	100	768	2	Y	*	
6	u4x86	4	8	100	768	2	Y	*	
7	u4x64	4	8	100	768	4	Y	*	
8	u4x64-10	4	8	100	768	2	Y	*	
9	w3x86-11	4	15	100	1024	2	Y	*	
10	w3x86-12	4	15	100	1024	2	Y	*	
11	w8x86-13	4	15	100	1280	2	Y	*	
12	w8x2e-14	4	7	100	1024	2	Y	*	
13	w8x64-15	4	15	100	1536	2	Y	*	

Logical Information:

	Proc	Shared	Dedicate	Memory	VNIC Count
Assign Total	62	60	2	15104 MB	38
Act Total	14	12	2	3328 MB	4
Remain				11776 MB	

Physical Information:

User Memory	15104 MB
Processors	14 (16)
Shared	12
Dedicate	2

Buttons: Memory Allocate, Active LPAR, Deactive LPAR, Reactive LPAR, Add LPAR, Remove LPAR, Screen, Remote KVM, Cancel, Commit, Save Config.

Last update time : 2011/03/21 12:05:53 HVM Ver. : 58-50(00-06) [05.40.08]

1.2.3 スクリーンの巡回移動

HVMコンソールのNextボタンあるいはPrev.ボタンをクリックすることで、HVMスクリーンを巡回的に移動することができます。

巡回の順序は、Nextボタンの場合はコンボボックスに表示されるスクリーン番号が増す方向に移動し、Prev.ボタンの場合は減る方向に移動します。

例えば、スクリーン番号1 Logical Partition Configurationスクリーンを表示している状態でNextボタンをクリックします。

The screenshot shows the HVM Console interface for HVM ID: HVM_1721624102 and HVM IP: 172.16.1.2. The current screen is '1. Logical Partition Configuration'. The 'Next >>' button is highlighted with a red box. Below the title bar is a table of logical partitions.

#	Name	Status	Schedule	Proc	Group#	Service Ratio	Memory	VNIC Count	Idle Detection	Auto Act	Au Cle
1	u3x86-03	Failure	S	4	3	100	768	2	Y	*	
2	u3x86-05	Act	S	4	3	100	768	2	Y	*	
3	u3x64-07	Act	S	4	3	100	768	2	Y	*	
4	u3x64-09	Deact	S	4	3	100	768	2	Y	*	
5	u4x86-04	Deact	S	4	8	100	768	2	Y	*	
6	u4x86-06	Deact	S	4	8	100	768	2	Y	*	
7	u4x64-08	Deact	S	4	8	100	768	4	Y	*	
8	u4x64-10	Deact	S	4	8	100	768	2	Y	*	
9	w3x86-11	Deact	S	4	15	100	1024	2	Y	*	
10	w3x86-12	Deact	S	4	15	100	1024	2	Y	*	
11	w8x86-13	Deact	S	4	15	100	1280	2	Y	*	
12	w8x2e-14	Deact	S	4	7	100	1024	2	Y	*	
13	w8xf4-15	Deact	S	4	15	100	1536	2	Y	*	

Below the table are two summary sections:

Logical Information

	Proc	Shared	Dedicate	Memory	VNIC Count
Assign Total	62	60	2	15104 MB	38
Act Total	14	12	2	3328 MB	4
Remain				11776 MB	

Physical Information

User Memory	15104 MB
Processors	14 (16)
Shared	12
Dedicate	2

At the bottom of the interface is a row of buttons: Memory Allocate, Active LPAR, Deactive LPAR, Reactive LPAR, Add LPAR, Remove LPAR, Screen, Remote KVM, Cancel, Commit, Save Confg.

Last update time : 2011/03/21 12:05:53 HVM Ver. : 58-50(00-06) [05.40.08]

スクリーン番号2のLogical Processor Configurationが表示されます。

HVM Console[HVM_172.16.1.2 :172.16.1.2] - Viratge Navigator

HVM Information
 HVM ID : HVM_1721624102
 HVM IP : 172.16.1.2

HVM Menu | 2. Logical Processor Configuration | << Prev. Next >>

Logical Processor Configuration
 View Data[ALL]

#	Name	Status	Schedule	Proc	Group#	Logical Processor Number							
						0	1	2	3	4	5	6	7
1	u3x86-03	Failure	S	4	3	A	A	A	A	*	*	*	
2	u3x86-05	Act	S	4	3	A	A	A	A	*	*	*	
3	u3x64-07	Act	S	4	3	A	A	A	A	*	*	*	
4	u3x64-09	Deact	S	4	3	A	A	A	A	*	*	*	
5	u4x86-04	Deact	S	4	8	A	A	A	A	*	*	*	
6	u4x86-06	Deact	S	4	8	A	A	A	A	*	*	*	
7	u4x64-08	Deact	S	4	8	A	A	A	A	*	*	*	
8	u4x64-10	Deact	S	4	8	A	A	A	A	*	*	*	
9	w3x86-11	Deact	S	4	15	A	A	A	A	*	*	*	
10	w3x86-12	Deact	S	4	15	A	A	A	A	*	*	*	
11	w8x86-13	Deact	S	4	15	A	A	A	A	*	*	*	
12	w8x2e-14	Deact	S	4	7	A	A	A	A	*	*	*	
13	w8x64-15	Deact	S	4	15	A	A	A	A	*	*	*	
14	w8x2e-16	Deact	S	4	7	A	A	A	A	*	*	*	
15	w8x2e-17	Deact	S	4	7	A	A	A	A	*	*	*	
16	w8x2e-18	Failure	D	2	7	A	A	A	A	*	*	*	

Cancel Commit Save Config

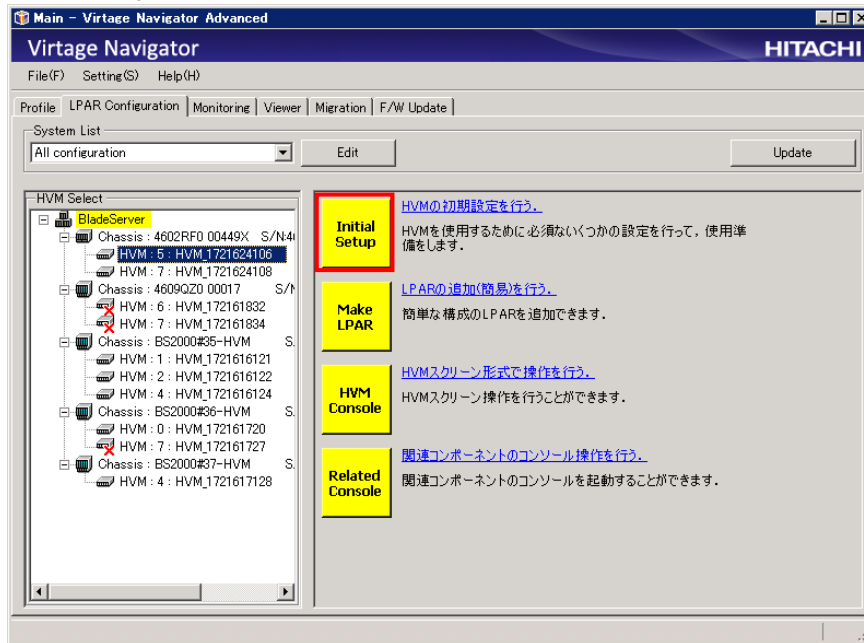
Last update time : 2011/03/21 12:05:53 HVM Ver. : 58-50(00-06) [0540.08]

1.3 SVP情報の登録と削除

Initial Setupの機能を使用することで、SVP情報の登録と削除ができます。SVP情報を登録しておくこと、HVMの起動やSVPシステムコンソールの呼び出しが簡単になります。

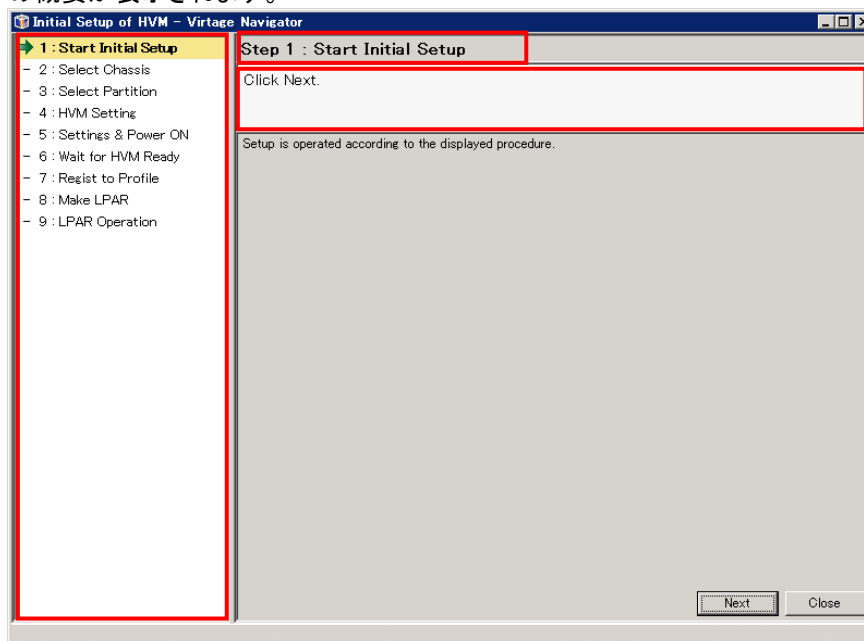
1.3.1 SVP情報の登録

- 1 LPAR Configurationメニューの画面右のInitial Setupボタンをクリックします。

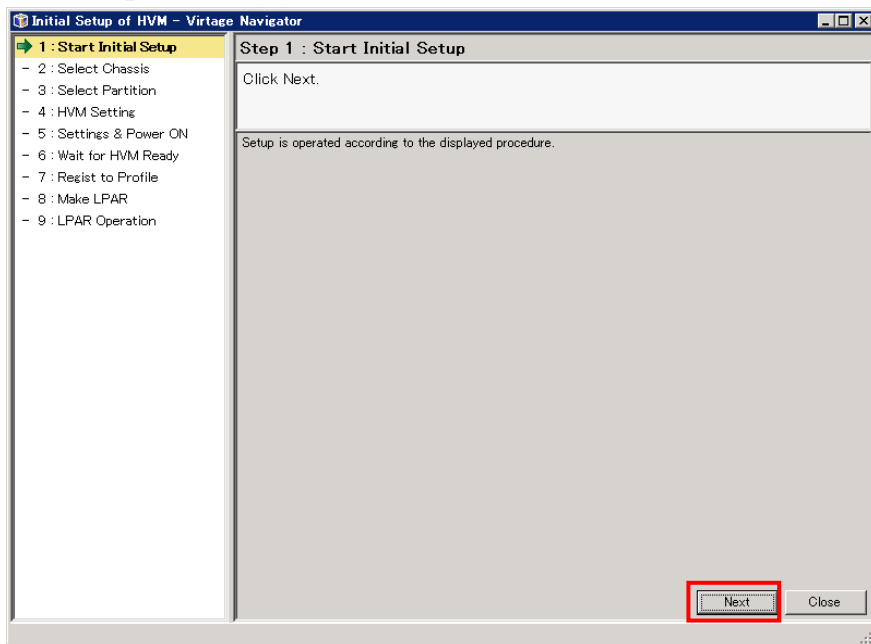


Initial Setup of HVMウインドウが表示されます。

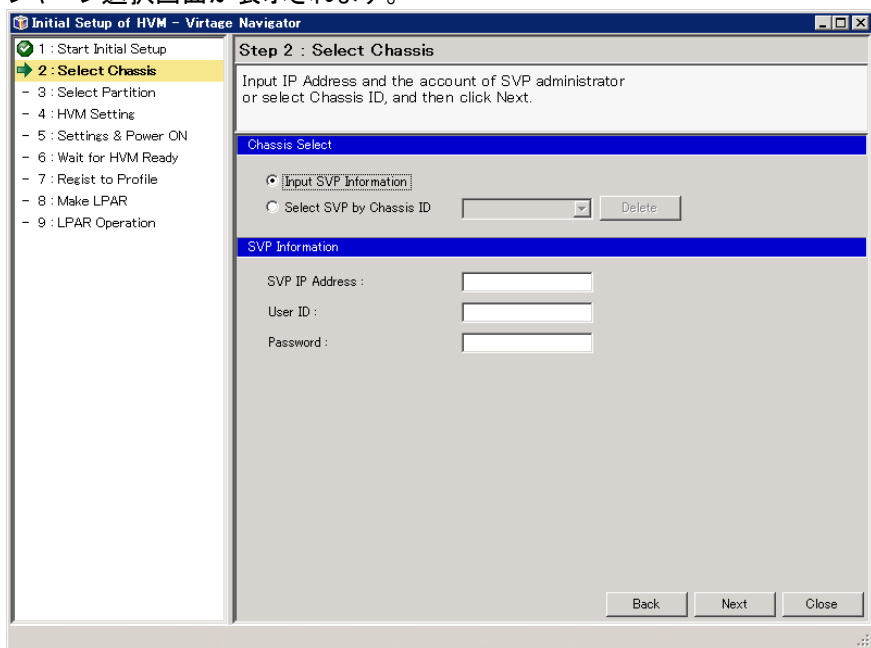
画面左には、Initial Setupの全体ステップ、画面中央の上部には、設定ステップ名称と設定ステップの概要が表示されます。



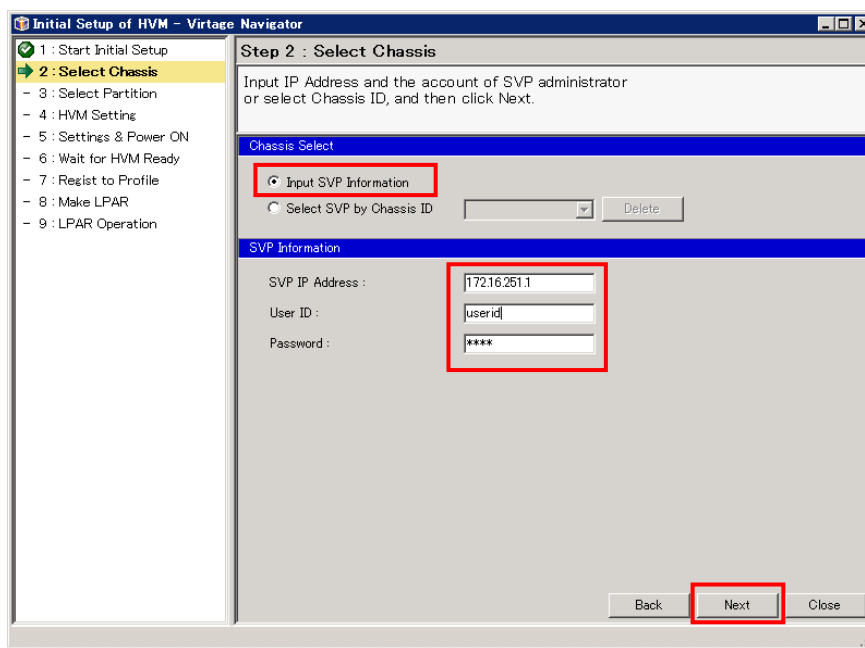
2 Nextボタンをクリックします。



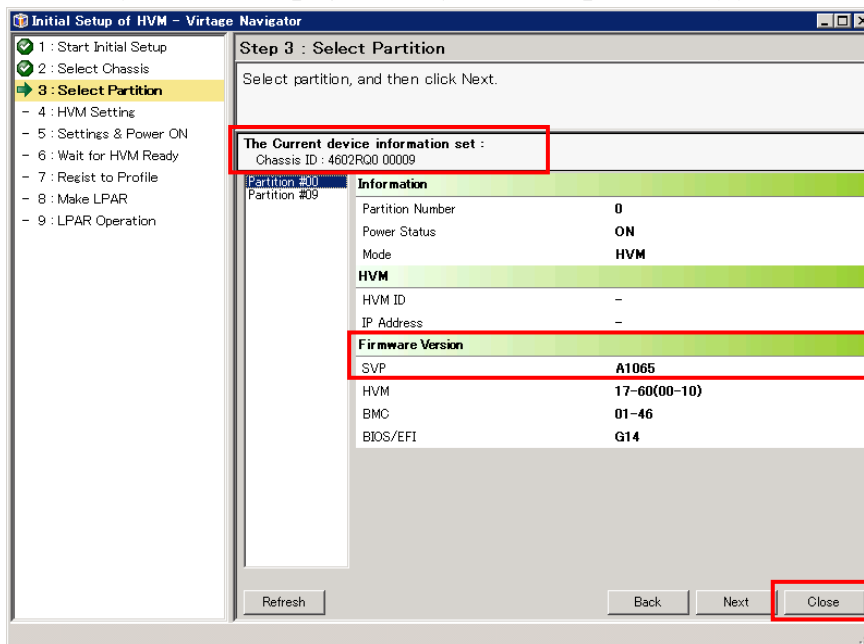
シャーシ選択画面が表示されます。



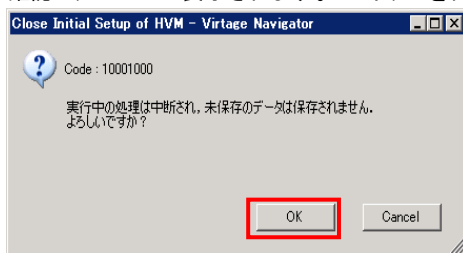
- 3 シャーシに対応付けられているSVP IPアドレスとSVPログインID(ユーザIDとパスワード)を入力し、Nextボタンをクリックします。



4 シャーシID、SVPバージョンを確認できたら、Closeボタンをクリックします。

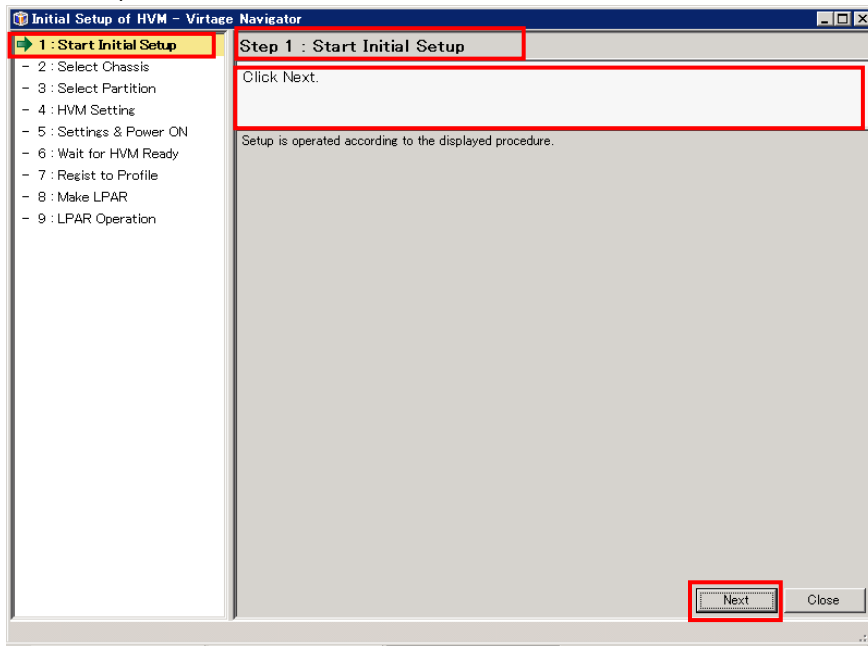


5 確認メッセージが表示されます。OKボタンをクリックします。

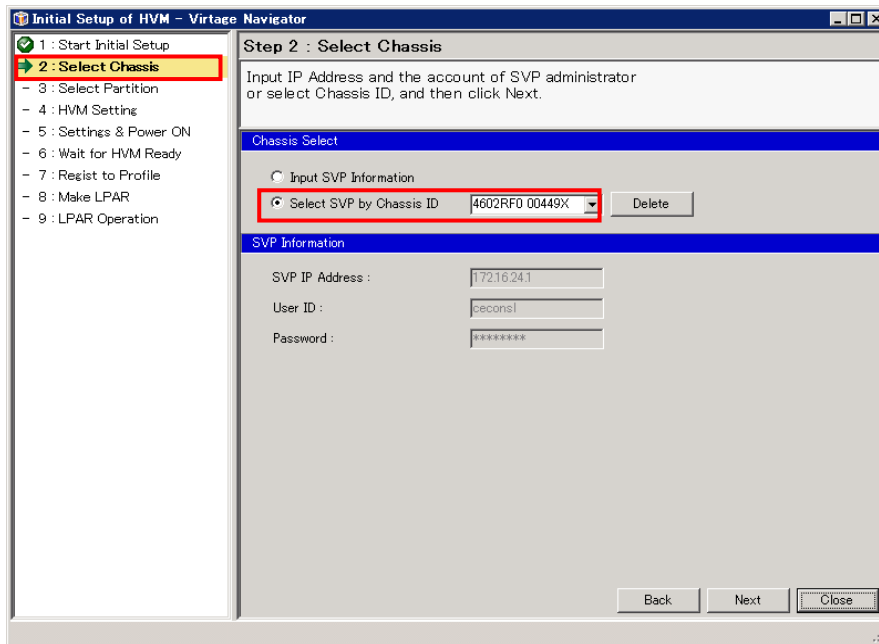


1.3.2 SVP情報の削除

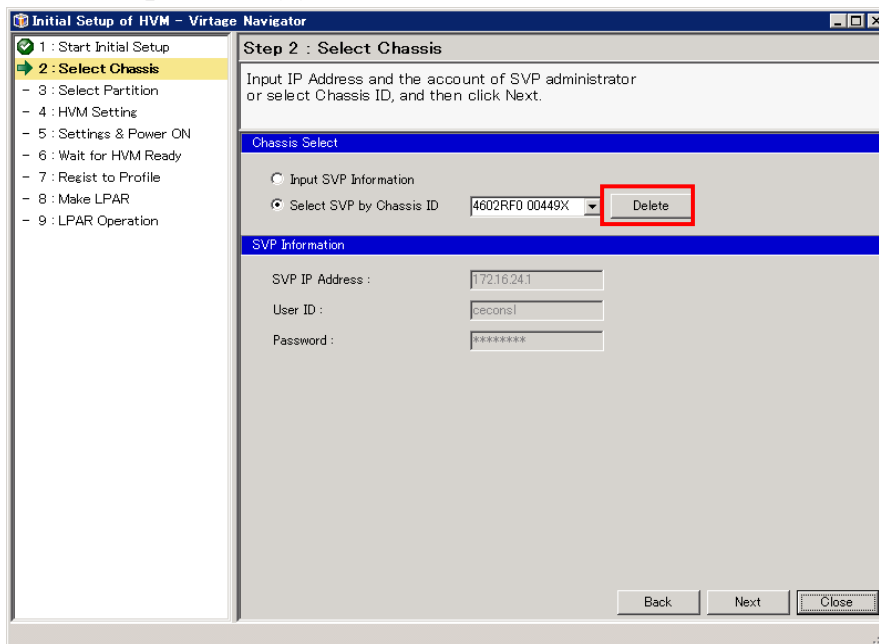
- 1 Initial Setupを起動し、Nextボタンをクリックします。



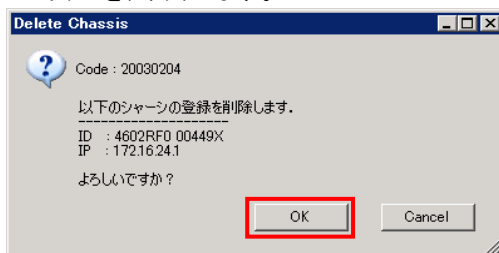
- 2 削除対象SVPIに対応付けられているChassis IDを選択します。



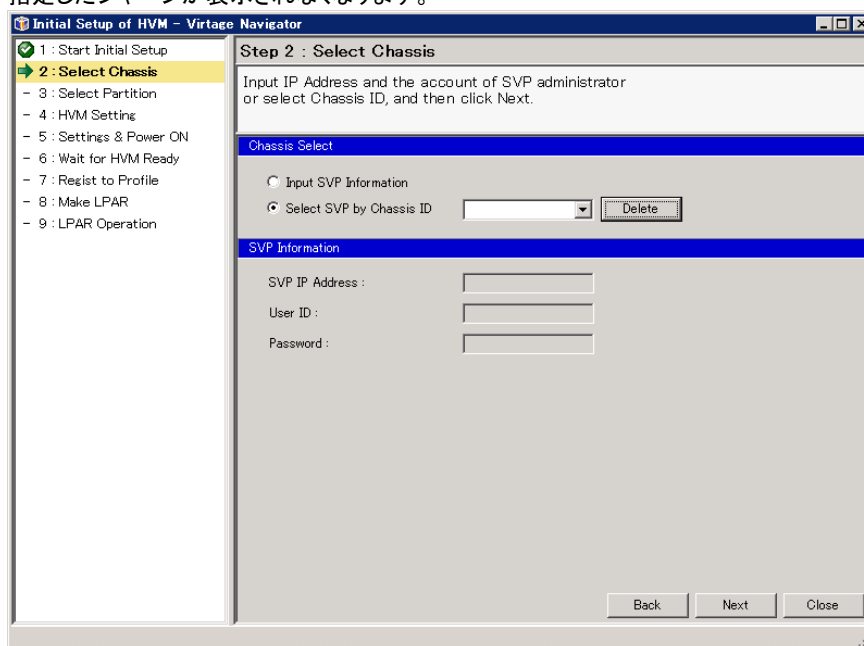
3 Deleteボタンをクリックします。



4 OKボタンをクリックします。



指定したシャーシが表示されなくなります。



1.4 メッセージ

「BladeSymphony Virtage Navigator ユーザーズガイド 操作リファレンス編」の「メッセージ一覧」を参照してください。
「HVMスクリーンによる運用」の「メッセージ」も併せて参照してください。

1.5 注意事項

「HVMスクリーンによる運用」の「注意事項」も併せて参照してください。

1.5.1 HVMコンソールの注意事項

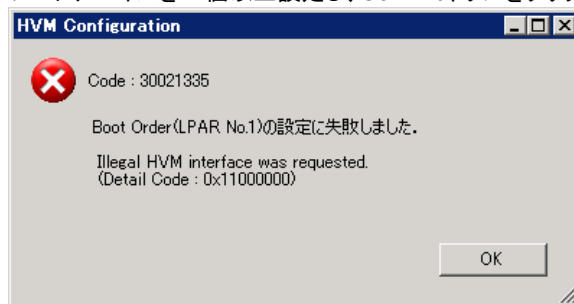
仮想COMコンソールが開かない場合

- HVM ConsoleウインドウのScreenボタンからLPARの仮想COMコンソールが開かない場合、以下に示す条件に一致していないか確認してください。

条件	対処
LPARの仮想COMスクリーンが既に使用されている。	既に使用しているLPARの仮想COMスクリーンを閉じてください。

Code:30021335が発生する場合

- 以下の場合にBoot SettingウインドウでCode:30021335が発生し、Commitがエラーになる場合があります。
 - ブートデバイスを17個以上設定し、Commitボタンをクリックした場合



上記エラーが発生した場合は、ブートデバイスを16個以下にしてCommitボタンをクリックしてください。

1.5.2 IPアドレスを変更する場合の注意事項

- Virtage Navigatorは、他のコンポーネントとIPアドレスベースで通信しています。そのため、IPアドレスを変更すると、Virtage Navigatorが通信エラーやタイムアウトを検出する場合があります。IPアドレスを変更した際には、IPアドレスの再登録などを実施してください。

IPアドレス	コンソール種		影響範囲
	HVMコンソール HVMスクリーン	SVPシステム コンソール	
HVM	変更可能	変更不可	LPAR Configuration Monitoring Viewer Migration F/W Update
BSM	変更可能	変更可能	Profile LPAR Configuration Monitoring Viewer Migration F/W Update
HVM CLI	変更可能	変更不可	Profile LPAR Configuration Monitoring Viewer Migration F/W Update
SVP	変更不可	変更可能	LPAR Configuration

HVM IPアドレスを変更する場合

- HVM IPアドレスは、以降に示す手順で変更してください。
 - (1) 開いている LPAR Configuration のウインドウを閉じてください。
このとき、LPAR Configurationの操作が行なわれていないことを確認してください。
 - (2) 開いている Migration のウインドウを閉じてください。
このとき、Migrationの操作が行なわれていないことを確認してください。
 - (3) 開いている Viewer のウインドウを閉じてください。
このとき、Viewerの操作が行なわれていないことを確認してください。
 - (4) 開いている Monitoring のウインドウを閉じてください。
実行しているモニタリングを停止する必要はありません。
 - (5) HVM IP アドレスを変更してください。
 - (6) 変更後の HVM IP アドレスを HVM Profile に追加してください。
 - (7) 変更後の HVM IP アドレスを Monitoring 対象にすることができます。

BSM IPアドレスを変更する場合

- 変更対象のBSM IPアドレスが管理サーバで使用されているものである場合は、以降に示す手順で変更してください。
 - (1) 変更前の BSM IP アドレスを使用している Virtage Navigator では、全てのウインドウを閉じてください。
 - (2) JP1/SC や JP1/PFM、あるいは HvmSh コマンドを使用するアプリケーションがあれば、すべて終了させてください。
 - (3) BSM IP アドレスを変更してください。
BSM IPアドレスはHVMとSVPでそれぞれ設定できるため、両方変更してください。
 - (4) 変更後の BSM IP アドレスを使用できる管理サーバ上で、Virtage Navigator を起動してください。
 - (5) 終了させたアプリケーションを起動してください。

変更対象のBSM IPアドレスが管理サーバで使用されていないものである場合は、注意事項はありません。

HVM CLI IPアドレスを変更する場合

- 変更対象のHVM CLI IPアドレスが管理サーバで使用されている場合は、以降に示す手順で変更してください。

- (1) 変更前の HVM CLI IP アドレスを使用している Virtage Navigator では、全てのウィンドウを閉じてください。
- (2) JP1/PFM や HvmSh コマンドを使用するアプリケーションがあれば、すべて終了させてください。
- (3) HVM CLI IP アドレスを変更してください。
- (4) 変更後の HVM CLI IP アドレスを使用できる管理サーバ上で、Virtage Navigator を起動してください。
- (5) 終了させたアプリケーションを起動してください。

変更対象のHVM CLI IPアドレスが管理サーバで使用されていない場合は、注意事項はありません。

SVP IPアドレスを変更する場合

- 変更対象のSVP IPアドレスがInitial Setupで登録したSVP IPアドレスの場合は、以降に示す手順で変更してください。

- (1) SVP IP アドレスを変更してください。
- (2) 「SVP情報の削除」に示す手順を参考に、登録済みSVPを削除してください。
- (3) 「SVP情報の登録」に示す手順を参考に、変更後SVP IPアドレスを使ってSVPを登録してください。

2 HVMスクリーンによる運用

この章では、HVMスクリーンによる運用について説明します。
バージョンにより画面の表示内容が異なる場合があります。

- 2.1 HVMスクリーン操作
- 2.2 HVMダンプの採取
- 2.3 メッセージ
- 2.4 注意事項

2.1 HVMスクリーン操作

2.1.1 HVMキー

HVMスクリーン上でカーソル表示のある項目(選択されている項目)に対して[Enter]を押すことで、選択項目に対する変更や、対応動作を実行します。カーソルは矢印キーなどを使用して移動します。

主に使用するキーとその役割を以下に示します。

キー	動作・役割	使用スクリーン
矢印([↑],[↓],[←],[→])	カーソルが移動できる項目に移動します。	全スクリーン
[Tab]	カーソルが移動できる項目に移動します。	全スクリーン
[Enter]	カーソルが選択している項目を実行または変更します。 値を選択(設定)するサブスクリーンで値を決定し、サブスクリーンを閉じます。	全スクリーン
[Esc]	HVM Menuスクリーン以外のHVMスクリーンで[Esc]を押すと、HVM Menuスクリーンを表示します。 HVM Menuスクリーンで[Esc]を押しても何も起きません。 値を選択(設定)するサブスクリーンで選択をキャンセルし、サブスクリーンを閉じます。	HVM Menuスクリーンを除く、 全スクリーン
[PageUp]	ページを上へスクロールしてスクリーンを表示します。 値を選択するサブスクリーンで最大値を選択します。	上下移動のあるスクリーン 値を選択するサブスクリーン
[PageDown]	ページを下へスクロールしてスクリーンを表示します。 値を選択するサブスクリーンで最小値を選択します。	上下移動のあるスクリーン 値を選択するサブスクリーン
[F1]	LPARに割り当てるメモリ容量をGB単位の数値で指定します。	Logical Partition Configuration のサブスクリーン
	【HVMファームウェアバージョン 17-6X以降】 VC番号の選択、およびVC番号/TCPポートの割り当て状況を表示します。	Logical Partition Configuration、 Logical Partition Configuration のサブスクリーン
	【HVMファームウェアバージョン 17-6X以降】 プロセッサグループを追加します。	Physical Processor Configuration
[F2]	メモリの割り当て状況を表示します。 VLAN IDの割り当て/プロミスキャスモード設定一覧を表示します。	Logical Partition Configuration NIC Assignment
	【HVMファームウェアバージョン 17-6X以降】 プロセッサグループを削除します。	Physical Processor Configuration
[F3]	LPARをActivate(電源を入れる)します。	HVM Menu、 Logical Partition Configuration
[F4]	LPARをDeactivate(電源を切る)します。	HVM Menu、 Logical Partition Configuration
[F5]	LPARをReactivate(再起動)します。	HVM Menu、 Logical Partition Configuration
	PCIデバイス使用先を変更します。	PCI Device Assignment
	プロミスキャスモードを変更します。	VNIC Assignment
[F6]	LPARを追加します。	HVM Menu、 Logical Partition Configuration
	MAC Addressを変更します。	VNIC Assignment
	HVMシステム時刻を変更します。	Date and Time
[F7]	LPARを削除します。	HVM Menu、 Logical Partition Configuration
	VLANモードを変更します。	VNIC Assignment
	HVMシステム時刻ゾーンを変更します。	Date and Time
[F8]	HVMスクリーンからゲストスクリーンに表示を切り替えます。	HVM Menu、 Logical Partition Configuration
	【HVMファームウェアバージョン 17-4X以降】 LPAR間通信パケットフィルタを変更します。	VNIC Assignment
[F9]	構成情報をマネジメントモジュールの不揮発記憶装置に保存します。	HVM Menu、 Logical Partition Configuration
[F10]	PCIデバイスのスケジューリングモードの変更をHVMに反映します。 HVM ID、VNIC System Numberなどの変更をHVMに反映します。	PCI Device Assignment System Configuration
[F11]	ページを左へスクロールしてスクリーン表示します。	左右移動のあるスクリーン
[F12]	ページを右へスクロールしてスクリーン表示します。	左右移動のあるスクリーン
[Alt] + t	HVMスクリーンをリフレッシュ(再表示)します。	全スクリーン
[Alt] + r	HVMをシャットダウンします。 シャットダウン処理終了後、サーバブレードの電源が切断されます。	全スクリーン

キー	動作・役割	使用スクリーン
[Ctrl] + l	ゲストスクリーンからHVMスクリーンに表示を切り替えます。 切り替え文字のデフォルトは'l(エル)に設定されています。	全スクリーン
[Ctrl] + b	マネジメントモジュールのシステムコンソールに戻ります。	全スクリーン
[Ctrl] + c	自動Activateをキャンセルします。	HVM Menu、 Logical Partition Configuration

2.1.2 HVMスクリーン

HVMスクリーンの主な用途を以下に示します。

スクリーン名	主な用途
HVM Menu	ほかのHVMスクリーンを表示するためのメニュースクリーンです。
Logical Partition Configuration	プロセッサ数、メモリサイズなどを設定します。 また、各LPARのゲストスクリーンへの切り替えや、Activate(電源を入れる)、Deactivate(電源を切る)などを実行します。
Logical Processor Configuration	各LPARに対して論理プロセッサの設定を行います。 定義されているLPARの名称やステータスを表示します。
Physical Processor Configuration	物理プロセッサの構成や状態を表示します。 プロセッサグループの追加、削除、変更を行います。
PCI Device Information	PCIデバイスの情報を表示します。
PCI Device Assignment	各LPARに対してPCIデバイスの割り当てを行います。 定義されているLPARの名称やステータスを表示します。
Virtual NIC Assignment	各LPARに対して共有NICおよび仮想NICの割り当てを行います。 定義されているLPARの名称やステータスを表示します。
Shared FC Assignment	各LPARに対して共有FCの割り当てを行います。 定義されているLPARの名称やステータスを表示します。
Allocated FC Information	実装されているFCアダプタの構成情報(WWN)を表示します。
System Configuration	HVMの構成設定を行います。
System Service State	HVMのサービス状態を表示します。
Date and Time	時刻、タイムゾーンなどを設定します。 定義されているLPARの名称やステータスを表示します。
HVM Options	HVMのオプション機能を設定します。
LPAR Usage	HVMや各LPARの使用状況を表示します。
Front Panel	ゲストOSのダンプやゲストスクリーンデータを採取します。 定義されているLPARの名称やステータスを表示します。
HVM System Logs	HVMで発生した様々なイベントを表示します。
Firmware Version Information	各コンポーネントのファームウェアバージョンを表示します。

このほか、各種設定項目を選択した([Enter]を押した)場合、設定操作に応じたサブスクリーンを表示します。

⚠ 注意

- HVM使用中、HVMスクリーンで以下の現象が発生した場合には、スクリーンの再表示操作([Alt] + t)を実行してください。
 - スクリーンに過去の表示が残る、表示の一部が欠ける場合。
 - 選択できる項目があるにもかかわらず、カーソルがスクリーン右下の「Esc:Menu」に位置し、矢印キーによるカーソル移動ができない場合。
 - カーソルが選択できない項目に位置し、他に選択できる項目があるにもかかわらず、矢印キーによるカーソル移動ができない場合。
 - 選択項目があるにもかかわらず、カーソル表示がない場合。
- HVMスクリーンで矢印キー、ファンクションキーを連続押しすると、まれにスクリーンが切り替わる([Esc]押下時と同様の動作となる)ことがあります。このような動作が発生した際は、再度、使用するスクリーンを表示し、操作を継続してください。
- JP1/SC/BSMより一斉にLPARをActivateまたはDeactivateした場合、一時的にHVMスクリーン操作ができなくなり、スクリーンがフリーズしたかのように見える場合があります。この場合は、1~2分待ってからスクリーン操作を行ってください。

全スクリーン共通

全スクリーン共通の項目を以下に示します。

```
+-----+ ① Error Event Detected ---+
|+- Menu [HVM_192168020] ----- yyyy/mm/dd hh:mm:ss -+ |
||                                     | |
```

全スクリーン共通の項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明
①	Error Event Detected	エラーレベルのHVMシステムログを検出したことを示します。 HVM System LogsスクリーンでHVMシステムログの内容を確認してください。 本表示は、表示されたスクリーンで[Esc]を押すか、HVM System Logsスクリーンを開いた時に消えます。

HVM Menu

HVM Menuスクリーンを以下に示します。

```

+-----+
|+① Menu②[HVM_192168020] -----③ yyyy/mm/dd hh:mm:ss -+|
||
|| Logical Partition Configuration      System Configuration
|| Logical Processor Configuration     System Service State
|| Physical Processor Configuration    Date and Time
|| PCI Device Information               HVM Options
|| PCI Device Assignment                LPAR Usage
|| VNIC Assignment                     Front Panel
|| Shared FC Assignment                 HVM System Logs
|| Allocated FC Information             Firmware Version Information
||
+-----+
|+④ Tips -----+
|| F3 : Activate           F8 : LPAR Screen
|| F4 : Deactivate        F9 : Save Configuration
|| F5 : Reactivate
|| F6 : Add Definition    Alt + t : Screen Refresh
|| F7 : Remove            Alt + r : HVM System Shutdown
||
+-----+
|⑤Configure logical partitioning of processors and memory
+-----+
| :Move Cursor  Enter:Select                ⑥ HVM Ver. : VV-RR (TT-KK)
+-----+

```

本スクリーンの各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明
①	Menu	HVMで表示できるスクリーンのタイトルを表示します。 また、カーソルを上下左右に移動し、各スクリーンのタイトルにカーソルが位置する状態で[Enter]を押すと、そのスクリーンに表示が切り替わります。
②	HVM識別子	System Configurationスクリーンで設定されているHVMを識別するIDを表示します。
③	システム時刻	Date and Timeスクリーンで設定されているHVMシステム時刻を表示します。 本表示は、スクリーンを操作した場合、またはHVM内部でスクリーンのリフレッシュが必要になった場合に更新され、定期的な更新はされません。目安の時刻として使用してください。
④	Tips	本スクリーンで機能するファンクションキーおよび組み合わせキーを示します。 F3 : LPARをActivateするときに使用します。 F4 : LPARをDeactivateするときに使用します。 F5 : LPARをReactivateするときに使用します。 F6 : LPARを追加するときに使用します。 F7 : LPARを削除するときに使用します。 F8 : HVMスクリーンからゲストスクリーンへ切り替えるときに使用します。 F9 : 構成情報を保存するときに使用します。 Alt + t : HVMスクリーンを再表示するときに使用します。 Alt + r : HVMのシャットダウンを行うときに使用します。 ※LPARマイグレーションに失敗したLPARではF3、F5、F6、F7は使用できません。
⑤	Comment	選択した項目に関する簡単な説明を表示します。
⑥	HVMファームウェアバージョン	HVMファームウェアバージョンとHVMファームウェアの内部バージョンを表示します。

(1) 各 HVM スクリーンから HVM Menu に戻るには？

各HVMスクリーンで[Esc]を押します。また、表示したスクリーンで設定できる項目がない場合、カーソルは常に「Esc: Menu」の上に位置し、そのまま[Enter]を押すとHVM Menuスクリーンに戻ります。

(2) LPAR を Activate(電源を入れる)するには？

LPARのActivate操作は、Deactivate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

本スクリーンで[F3] (Activate)を押すと、サブスクリーンが表示されます。ActivateするLPARを選択して[Enter]を押します。

(3) LPAR を Deactivate(電源を切る)するには？



注意

- LPAR の Deactivate 操作は、LPAR の電源切断に相当するため、この操作を行う場合は注意が必要です。特に、ゲスト OS 起動中などデータアクセス中に当該操作を行うとディスク破損の恐れがあるため、Deactivate 操作の代わりに OS のシャットダウン操作を行ってください。

LPARのDeactivate操作は、Activate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

本スクリーンで[F4] (Deactivate)を押すと、サブスクリーンが表示されます。DeactivateするLPARを選択して[Enter]を押します。

(4) LPAR を Reactivate(再起動)するには？



注意

- LPAR の Reactivate 操作は、サーバの再起動に相当するため、この操作を行う場合は注意が必要です。特に、ゲスト OS 起動中などデータアクセス中に当該操作を行うとディスク破損の恐れがあるため、Reactivate 操作の代わりに OS の再起動操作を行ってください。

LPARのReactivate操作は、Activate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

本スクリーンで[F5] (Reactivate)を押すと、サブスクリーンが表示されます。ReactivateするLPARを選択して[Enter]を押します。

(5) LPAR を追加するには？

本スクリーンで[F6] (Add Definition)を押すと、サブスクリーンが表示されます。追加するLPARを選択して[Enter]を押します。

(6) LPAR を削除するには？

LPARの削除は、Deactivate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

LPARを削除すると、そのLPARに割り当てられていたすべての資源は未割り当て状態になります。

本スクリーンで[F7] (Remove)を押すと、サブスクリーンが表示されます。削除するLPARを選択して[Enter]を押します。

(7) HVM スクリーンからゲストスクリーンに切り替えるには？



- ゲストスクリーンを使用する場合は、以下のようにシリアルコンソールの設定をする必要があります。

【Windows Server 2003を使用する場合】

- コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行します。
bootcfg /ems EDIT /port COM1
bootcfg /ems ON /baud 9600 /id 1

【Windows Server 2008を使用する場合】

- コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行します。
bcdedit /ems ON
bcdedit /emssettings EMSPORT:1 EMSBAUDRATE:9600

【Linuxを使用する場合】

- /boot/grub/grub.conf の設定
 - (1) splashimage=(hd0,0)/grub/splash.xpm.gz 行をコメントアウト
 - (2) hiddenmenu 行と title 行の間に以下の 2 行を追加
serial --unit=0 --speed=9600
terminal --timeout=10 serial console
 - (3) kernel 行の末尾に console=tty0 console=ttyS0,9600 を追加
- /etc/inittab の設定
最終行に co:2345:respawn:/sbin/agetty 9600 ttyS0 vt100 を追加
- /etc/securetty の設定
最終行に ttyS0 を追加
- /etc/sysconfig/kudzu の設定
SAFE=no を SAFE=yes に変更
- /etc/sysconfig/init の設定
BOOTUP=color を BOOTUP=serial に変更

ゲストスクリーンへの移動は、Activate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

本スクリーンで[F8] (LPAR Screen)を押すと、サブスクリーンが表示されます。移動するLPARを選択して[Enter]を押します。

(8) 構成情報を保存するには？

本スクリーンで[F9] (Save Configuration)を押します。

Logical Partition Configuration

Logical Partition Configurationスクリーンを以下に示します。
HVMファームウェアバージョンにより画面操作が異なります。

【HVMファームウェアバージョン 17-4X以前】

```
+-- Logical Partition(LPAR) Configuration -----+
|| # Name      Sta Pro Shr Ded Srv   Mem VN ID AA AC PC VC PB   || | | | | | | | | | | | |
|| 1 LPAR1    Dea  2  2  0 100  2048 2 Y * N N N BIOS  ||
|| 2 LPAR2    Dea  2  0  2 100  2048 0 Y * N * N BIOS  ||
|| 3 ②         ③  ④  ⑤  ⑥  ⑨   ⑩  ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰   ||
|| 4          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| 5          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| 6          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| 7          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| 8          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| 9          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| 10         ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| ①          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
||          ⑱ [PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down ||
+-----+-----+
|| Logical Information -----++ Physical Information -----+
||          Pro Shr Ded      Mem VN |⑳User Memory : 11008 MB || |
||⑲Assign Total    4  2  2      4096 2 |㉑Processors  : 16(16) ||
||⑳Act Total      0  0  0        0  0 || Shared      : 0      ||
||㉑Remain          11008          || Dedicate    : 0      ||
+-----+-----+
||㉒Logical partition name ||
+-----+-----+
||㉓F2:Mem Alloc Dsp F3:Act F4:Deact F5:React F6:Add F7:Remove Esc:Menu ||
+-----+-----+
```

【HVMファームウェアバージョン 17-6X以降】

```
+-- Logical Partition(LPAR) Configuration -----+
|| # Name      Sta Scd Pro Grp Srv   Mem VN ID AA AC PC VC PB   || | | | | | | | | | | | |
|| 1 LPAR1     Dea  S  2  0 100  2048 2 Y * N N N BIOS  ||
|| 2 LPAR2     Dea  D  2  0 100  2048 0 Y * N * N BIOS  ||
|| 3 ②         ③  ⑦  ④  ⑧  ⑨   ⑩  ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰   ||
|| 4          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| 5          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| 6          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| 7          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| 8          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| 9          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| 10         ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
|| ①          ||          ||          ||          ||          ||          ||          ||
||          ⑱ [PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down ||
+-----+-----+
|| Logical Information -----++ Physical Information -----+
||          Pro Shr Ded      Mem VN |⑳User Memory : 11008 MB || |
||⑲Assign Total    4  2  2      4096 2 |㉑Processors  : 16(16) ||
||⑳Act Total      0  0  0        0  0 || Shared      : 0      ||
||㉑Remain          11008          || Dedicate    : 0      ||
+-----+-----+
||㉒Logical partition name ||
+-----+-----+
||㉓F1:VCAssign F2:MemAllocDsp F3:Act F4:Deact F5:React F6:Add F7:Remove Esc:Menu ||
+-----+-----+
```

本スクリーンの各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明	初期値	サポートバージョン
①	#	LPAR番号を表示します。	-	17-2X~
②	Name	LPAR名称を設定します。 LPAR名称は最大で31文字まで設定できます。異なるLPARIに同一の名前をつけることはできません。 LPAR名称が8文字を超える場合は、8文字目が'~'となり、9文字以降は省略されて表示されます。 使用できる文字は、'0'~'9'、'a'~'z'、'A'~'Z'、'-'、'_'ですが、先頭に使える文字は、'a'~'z'、'A'~'Z'です。	NO_NAME	17-2X~
③	Sta	LPARの状態を表示します。 Act(Activate) : 電源が入っている状態です。 Dea(DeActivate) : 電源が切れている状態です。 Fai(Failure) : 回復不能な障害により、使用ができない状態です。 この状態の場合は、HVMを再起動してください。 LPARをActivate、Deactivate、Reactivateします。	Dea	17-2X~
④	Pro	論理プロセッサ数を表示します。 論理プロセッサ数を設定します。 プロセッサ数は1~16まで設定できます。	1	~17-4X 17-6X~
⑤	Shr	共有モードの論理プロセッサ数を設定します。 プロセッサ数は1~16まで設定できます。	0	~17-4X
⑥	Ded	占有モードの論理プロセッサ数を設定します。 プロセッサ数は1~16まで設定できます。	1	~17-4X
⑦	Scd	スケジューリングモードを設定します。 S : 共有モード D : 占有モード	D	17-6X~
⑧	Grp	プロセッサグループ番号を設定します。 プロセッサグループ番号は0~1(Essentialモデル)、0~7(Advancedモデル)まで設定できます。	0	17-6X~
⑨	Srv	LPARが物理プロセッサを使用する時間(サービス時間)の相対的な配分を設定します。 サービス時間は1~999まで設定できます。 ※この値は共有モードのLPARに対してのみ意味を持ちます。占有モードのLPARに対しては意味を持たず、また指定することはできません。	100	17-2X~
⑩	Mem	メモリサイズを256MBの倍数で設定します。	1024	17-2X~
⑪	VN	LPARIに割り当てられた共有NICおよび仮想NICの総数を表示します。	0	17-2X~
⑫	ID	論理プロセッサのアイドル状態を検出する機能の有効/無効を設定します。 Y : アイドル検出を有効にします。 N : アイドル検出を無効にします。	Y	未サポート
⑬	AA	HVM起動時にLPARの自動Activateを指定します。 * : 自動Activateをしません。 1~99 : 自動Activateをします。数字はActivateする順番を示します。 (数値の小さい方が優先されます)	*	17-2X~
⑭	AC	論理SELの自動クリア機能の有効/無効を設定します。 Y : 自動クリア機能を有効にします。 N : 自動クリア機能を無効にします。	N	17-2X~
⑮	PC	プロセッサキャッピング機能の有効/無効を指定します。 Y : プロセッサキャッピング機能を有効にします。 N : プロセッサキャッピング機能を無効にします。 * : プロセッサキャッピング機能が無効であることを示します。 ※この値は共有モードのLPARに対してのみ意味を持ちます。占有モードのLPARに対しては意味を持たず、また指定することはできません。	*	17-2X~
⑯	VC	仮想COMコンソール機能の有効/無効を指定します。 仮想COMコンソールの最大同時接続数は16です。 Y : 仮想COMコンソールを有効にします。 N : 仮想COMコンソールを無効にします。 仮想COMコンソール機能の有効/無効、またはVC番号を指定します。 仮想COMコンソールの最大同時接続数は16です。 Y : 仮想COMコンソールを有効にします。 N : 仮想COMコンソールを無効にします。 1~16 : 仮想COMコンソールのVC番号を指定します。	N	~17-4X 17-6X~
⑰	PB	Pre-bootファームウェアを指定します。 BIOS : LPARのActivateで論理BIOSを起動します。	BIOS	17-2X~
⑱	[PageUp] / [PageDown]	本スクリーンで使用できるページキーを表示します。 Page Up : ページを上へスクロールしてスクリーンを表示します。 Page Down : ページを下へスクロールしてスクリーンを表示します。	-	17-2X~

No.	項目	説明	初期値	サポートバージョン
⑲	Assign Total	LPARに割り当てられている各資源総量を表示します。 Pro : 論理プロセッサ総数を表示します。 Shr : 共有モードの論理プロセッサ総数を表示します。 Ded : 占有モードの論理プロセッサ総数を表示します。 Mem : メモリの総量をMB単位で表示します。 VN : 共有NICおよび仮想NICの総数を表示します。	-	17-2X~
⑳	Act Total	LPARが使用している(Activate状態)の各資源総量を表示します。 Pro : 論理プロセッサの総数を表示します。 Shr : 共有モードの論理プロセッサ総数を表示します。 Ded : 占有モードの論理プロセッサ総数を表示します。 Mem : メモリの総量をMB単位で表示します。 VN : 共有NICおよび仮想NICの総数を表示します。	-	17-2X~
㉑	Remain	LPARが使用できるメモリの残容量(LPARIに割り当てできるメモリの総量 - LPARが使用しているメモリの総量)をMB単位で表示します。	-	17-2X~
㉒	User Memory	LPARに割り当てできるメモリの総量をMB単位で表示します。 サーバブレードに搭載されているメモリ容量からHVMが使用する分を引いた値を表示します。	-	17-2X~
㉓	Processors	物理プロセッサの総数を表示します。フォーマットは「n (m)」です。 n : 正常に稼働している物理プロセッサの総数を表示します。 m : サーバブレードに搭載されている物理プロセッサの総数を表示します。 また、物理プロセッサのモードごとの総数を表示します。 Shared : 共有モードの物理プロセッサの総数を表示します。 Dedicate : 占有モードの物理プロセッサの総数を表示します。 ※ハイパースレッドがEnableの場合は、スレッド数を示します。 ハイパースレッドがDisableの場合は、コア数を示します。	-	17-2X~
㉔	Comment	選択した項目に関する簡単な説明を表示します。	-	17-2X~
㉕	Function Key	本スクリーンで使用できるファンクションキーを表示します。 F1 : メモリのサイズをGB単位の数値で指定するときに使用します。 また、VC番号の選択、およびVC番号/TCPポートの割り当て状況を表示するときに使用します。 F2 : メモリの割り当て状況を表示するときに使用します。 F3 : LPARをActivateするときに使用します。 F4 : LPARをDeactivateするときに使用します。 F5 : LPARをReactivateするときに使用します。 F6 : LPARを追加するときに使用します。 F7 : LPARを削除するときに使用します。 また、表示スペースの都合で表示されていませんが、以下に示すファンクションキーも本スクリーンで使用できます。 F8 : HVMスクリーンからゲストスクリーンへ切り替えるときに使用します。 F9 : HVM構成情報を保存するときに使用します。 ※LPARマイグレーションに失敗したLPARではF3、F5、F6、F7は使用できません。	-	17-2X~

LPARの状態に対するHVMスクリーン操作を以下に示します。

項目	LPARの状態			備考	サポートバージョン
	Activate	Deactivate	Failure		
Name	×	○	×	-	17-2X~
Sta	○	○	×	-	17-2X~
Pro	×	×	×	表示のみ	~17-4X
	×	○	×	-	17-6X~
Shr	×	○	×	-	17-2X~
Ded	×	○	×	-	17-2X~
Scd	○	○	×	-	17-6X~
Grp	△	○	×	-	17-6X~
	(共有モードのみ)				
Srv	△	△	×	-	17-2X~
	(共有モードのみ)	(共有モードのみ)			
Mem	×	○	×	-	17-2X~
VN	×	×	×	表示のみ	17-2X~
ID	○	○	×	-	未サポート
AA	×	○	×	-	17-2X~
AC	×	○	×	-	17-2X~
PC	△	△	×	-	17-2X~
	(共有モードのみ)	(共有モードのみ)			
VC	○	○	×	-	17-2X~
PB	×	○	×	-	17-2X~

○:変更可能、×:変更不可、△:条件付きで変更可能

(1) LPAR 名称を変更するには？

LPAR名称の変更は、Deactivate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

当該LPARのName列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。LPAR名称を入力して[Enter]を押します。

(2) LPAR を Activate(電源を入れる)するには？

LPARのActivate操作は、Deactivate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

本スクリーンで[F3] (Act)を押すと、サブスクリーンが表示されます。ActivateするLPARを選択して[Enter]を押します。

また、ActivateするLPAR行のSta列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されず。Activateを選択して[Enter]を押すことでもActivateができます。

(3) LPAR を Deactivate(電源を切る)するには？



注意

- LPAR の Deactivate 操作は、LPAR の 電源切断に相当するため、この操作を行う場合は注意が必要です。特に、ゲスト OS 起動中などデータアクセス中に当該操作を行うとディスク破損の恐れがあるため、Deactivate 操作の代わりに OS のシャットダウン操作を行ってください。

LPARのDeactivate操作は、Activate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

本スクリーンで[F4] (Deact)を押すと、サブスクリーンが表示されます。DeactivateするLPARを選択して[Enter]を押します。

また、DeactivateするLPAR行のSta列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されず。Deactivateを選択して[Enter]を押すことでもDeactivateができます。

(4) LPAR を Reactivate(再起動)するには？



注意

- LPAR の Reactivate 操作は、サーバの再起動に相当するため、この操作を行う場合は注意が必要です。特に、ゲスト OS 起動中などデータアクセス中に当該操作を行うとディスク破損の恐れがあるため、Reactivate 操作の代わりに OS の再起動操作を行ってください。

LPARのReactivate操作は、Activate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

本スクリーンで[F5] (React)を押すと、サブスクリーンが表示されます。ReactivateするLPARを選択して[Enter]を押します。

また、ReactivateするLPAR行のSta列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Reactivateを選択して[Enter]を押すことでもReactivateができます。

(5) 共有モードの論理プロセッサ数を変更するには？



注意

- スケジューリングモードが共有モードの場合、論理プロセッサ数が物理プロセッサよりも多いとき、処理性能が極端に低下することがあります。

【HVMファームウェアバージョン 17-4X以前】

プロセッサ数の変更は、Deactivate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

Windows Server 2008 R2を使用する場合は、LPARに割り当てるプロセッサ数を2以上に設定してください。

LPAR行のShr列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。プロセッサ数を入力して[Enter]を押します。

(6) 占有モードの論理プロセッサ数を変更するには？

【HVMファームウェアバージョン 17-4X以前】

プロセッサ数の変更は、Deactivate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

Windows Server 2008 R2を使用する場合は、LPARに割り当てるプロセッサ数を2以上に設定してください。

LPAR行のDed列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。プロセッサ数を入力して[Enter]を押します。

(7) スケジューリングモードを変更するには？

【HVMファームウェアバージョン 17-6X以降】

スケジューリングモードは、占有モードと共有モードのLPARをDeactivateすることなく動的に変更することができます。ただし、以下のいずれかの条件を満たす場合は、スクリーンメッセージを表示してエラー終了します。

- (a) 共有モードから占有モードへの動的変更の際、LPAR に設定されているグループに、すべての論理プロセッサを占有モードで割り当てるだけの物理プロセッサが存在しない。
- (b) 共有モードから占有モードへの動的変更の際、Logical Processor Configuration スクリーンの物理プロセッサ割り当てに、LPAR に設定されているグループに属さない物理プロセッサが含まれている。

LPAR行のScd列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。スケジューリングモードを選択して[Enter]を押します。

(8) 論理プロセッサ数を変更するには？



- スケジューリングモードが共有モードの場合、論理プロセッサ数が、LPAR に割り当てられたプロセッサグループの物理プロセッサよりも多いとき、処理性能が極端に低下することがあります。

【HVMファームウェアバージョン 17-6X以降】

プロセッサ数の変更は、Deactivate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

Windows Server 2008 R2を使用する場合は、LPARに割り当てるプロセッサ数を2以上に設定してください。

LPAR行のPro列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。プロセッサ数を入力して[Enter]を押します。

(9) プロセッサグループ番号を変更するには？



- LPARマイグレーション完了後は、デフォルトプロセッサグループ(プロセッサグループ0)へ移動します。

【HVMファームウェアバージョン 17-6X以降】

プロセッサグループ番号は、LPARがDeactivate状態の場合、またはLPARが共有モードでActivate状態の場合に変更することができます。ただし、以下のいずれかの条件を満たす場合は、スクリーンメッセージを表示してエラー終了します。

- (a) LPAR のスケジューリングモードが占有モードで Activate 状態である。
- (b) 変更先のグループに、共有モードの物理プロセッサが存在しない。

LPAR行のGrp列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。プロセッサグループ番号を選択して[Enter]を押します。

(10) サービス時間の配分を変更するには？

LPAR行のSrv列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。サービス時間を入力して[Enter]を押します。

(11) メモリ容量を変更するには？

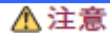


- サブスクリーンで[F1] (Input number in GB)を押して、LPAR に割り当てるメモリ容量を GB 単位の数値で指定することもできます。

メモリ容量の変更は、Deactivate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

LPAR行のMem列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。矢印キー([↑]、[↓]、[←]、[→])でメモリ容量を増減して[Enter]を押します。

(12) LPAR を自動的に Activate するには？



- HVM Options スクリーンで「Pre-State Auto Activation」を設定している場合は、自動 Activate の設定は無視されます。

自動Activateを設定するLPARはDeactivate状態である必要があります。

HVM起動時に、HVMは自動Activateに設定されている値が小さいLPARから順に自動Activateを行います。もし、AAIに同じ値が設定されている場合は、LPAR番号の小さい方から自動Activateを実行します。自動Activateを利用する場合、各LPARのEFIの設定を「Activate後にゲストOSを自動的に起動する」ようにあらかじめ設定が必要です。

また、何らかの原因で(割り当てメモリが確保できないなど)、あるLPARの自動Activateが失敗した場合、以降のLPARの自動Activateは実行しません。

自動Activate 開始前に15秒間、自動Activateのキャンセルを受け付ける状態になります。自動Activateをキャンセルしたい場合は、このときに[Ctrl] + cを押してください。なお、自動Activateを開始するとキャンセルはできません。

LPAR行のAA列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。1から99までの値を入力して[Enter]を押します。自動Activateしないようにするには、「*」を入力します。

(13) 論理 SEL 自動クリア機能を変更するには？

論理SEL自動クリア機能の変更は、Deactivate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

LPAR行のAC列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Yes/Noを選択して[Enter]を押します。

(14) プロセッサキャッピング機能を変更するには？

LPAR行のPC列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Yes/Noを選択して[Enter]を押します。

(15) 仮想 COM コンソール機能を有効にするには？

補足

- 仮想 COM コンソール機能を有効にしてゲストスクリーンに Telnet で接続している場合も、HVM スクリーンの[F8]によるゲストスクリーン接続は今まで通り使用できます。この場合、HVM スクリーンで表示したゲストスクリーンが優先になります。

LPAR行のVC列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Yesを選択して[Enter]を押します。

ゲストスクリーンへの接続は、LPARごとに割り当てられたTCPポートを指定してHVM IPアドレスにTelnetで接続します。接続時に指定するTCPポートは、LPAR行のVC列にカーソルを合わせた時のComment、またはLPAR行のVC列にカーソルを合わせて[Enter]を押した時のサブスクリーンで確認ができます。

```
+-----+
|+- Logical Partition(LPAR) Configuration -----+
|| # Name   Sta  Scd  Pro  Grp  Srv   Mem  VN  ID  AA  AC  PC  VC  PB   || | |
|| 1 LPAR1  Dea  S   2    0  100   2048  2  Y  *  N  N  N  BIOS ||
|| 2 LPAR2  Dea  D   2    0  100   2048  0  Y  *  N  *  N  BIOS ||
|| 3                                             ||
|| 4                                             ||
|| 5                                             ||
|| 6                                             ||
|| 7               +-----+                ||
|| 8               | LPAR1 Virtual Console |    ||
|| 9               | (TCP Port=Unassigned) |    ||
|| 10              | Yes                    |    ||
||                 | No                    |    ||
||                 | p / [PageDown]:Page Down | ||
+-----+
|+- Logical Information --| Virtual Console Disable |- Physical Information --+
||                               +-----+          ||
|| Assign Total      Pro  S+-----+          ||
|| Act Total         0  0  0          0  0 ||
|| Remain                               11008 ||
||                               +-----+          ||
| Virtual Console (TCP Port=Unassigned) |
+-----+
|F1:VCAssign F2:MemAllocDsp F3:Act F4:Deact F5:React F6:Add F7:Remove Esc:Menu|
+-----+
```


(16) メモリアロケートを表示するには？

本スクリーンで[F2] (Mem)を押すと、メモリの割り当て状況がアドレスの昇順に表示されます。

```

+-----+
|+- Logical Partition(LPAR) Configuration -----+
|| # Name      Sta  Scd  Pro  Grp  Srv      Mem  VN  ID  AA  AC  PC  VC  PB      ||
|| 1 LPAR1     Act   S   2    0  100     2048  2  Y  *  N  N  N  BIOS    ||
|| 2 LPAR2     Dea   D   2    0  100     2048  0  Y  *  N  *  N  BIOS    ||
|| 3                                     ||
|| 4                                     ||
|| 5                                     ||
|| 6                                     ||
||      +-----+ Memory Allocation Display -----+
|| 7      | ① ②                                     | ③ ④ |
|| 8      | # Mem Org Addr (Hex)      Mem Size  Name      |
|| 9      | 1 00000000 00000000          768MB  SYS2      |
||10      | 2 00000000 30000000          2048MB  LPAR1      |
||      | 3 00000000 b0000000          256MB  SYS1      |
||      | 4 00000001 00000000          8960MB  ***** |
||+- Logical Inf| 5 00000003 30000000          256MB  SYS1      |formation -+
|| Assign Total| 6 ----- END ----- |          : 11008
|| Act Total   |                                     |          : 16(16)
|| Remain      |                                     |          : 16
||                                     |          : 8960 || Dedicate : 0
+-----+
| The power status: 'Dea' (Deactivated:power-off), or 'Act' (Activated:power-on)
+-----+
|F1:VCAssign F2:MemAllocDsp F3:Act F4:Deact F5:React F6:Add F7:Remove Esc:Menu|
+-----+

```

本サブスクリーンの各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明
①	#	表示するメモリブロックの通し番号を示します。
②	Mem Org Addr (Hex)	割り当てられたメモリの開始アドレスを16進数で表示します。 アドレスは昇順に並べられ、メモリアロケート表示内容がなくなったとき、 ----- END ----- が表示されます。 ※表示内容が1スクリーンを超える場合、[PageUp]/[PageDown]で表示内容を切り替える ことができます。
③	Mem Size	MB単位のメモリサイズを10進数で表示します。
④	Name	Mem Org Addrで示されるアドレスから、Mem Sizeで示されるメモリ領域を使用している システム名称を示します。 SYS1 : HVMのカーネル部が使用していることを示します。 SYS2 : HVMの通信部およびサービス制御部が使用していることを示します。 LPARx : 番号xのLPARが使用していることを示します。 Activate状態のLPARのみ表示し、LPAR名称では表示しません。 ***** : 未割り当て領域を示します。

※ゲストメモリ領域は最大で4つのブロックに分けて割り当てられる場合があります、その場合は表示も4つの
ブロックに分けて表示します。

(17) LPAR を追加するには？

本スクリーンで[F6] (Add)を押すと、サブスクリーンが表示されます。追加するLPARを選択して[Enter]を
押します。

(18) LPAR を削除するには？

LPARの削除は、Deactivate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。
LPARを削除すると、そのLPARに割り当てられていたすべての資源は未割り当て状態になります。

本スクリーンで[F7] (Remove)を押すと、サブスクリーンが表示されます。削除するLPARを選択して
[Enter]を押します。

(19) HVM スクリーンからゲストスクリーンに切り替えるには？

ゲストスクリーンへの移動は、Activate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

本スクリーンで[F8] (LPAR Screen)を押すと、サブスクリーンが表示されます。移動するLPARを選択して
[Enter]を押します。

(20) 構成情報を保存するには？

本スクリーンで[F9] (Save Configuration)を押します。

本スクリーンの各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明	初期値	サポートバージョン
①	#	LPAR番号を表示します。	-	17-2X~
②	Name	LPAR名称を表示します。	NO_NAME	17-2X~
③	Sta	LPARの状態を表示します。 Act(Activate) : 電源が入っている状態です。 Dea(DeActivate) : 電源が切れている状態です。 Fai(Failure) : 回復不能な障害により、使用ができない状態です。 この状態の場合は、HVMを再起動してください。	Dea	17-2X~
④	Scd	スケジューリングモードを表示します。 S : 共有モード D : 占有モード	D	17-6X~
⑤	Pro	論理プロセッサ数を表示します。	1	17-2X~
⑥	Grp	プロセッサグループ番号を表示します。	0	17-6X~
⑦	Logical Processor Number	論理プロセッサ番号を表示します。	-	17-2X~
⑧	Logical Processor Assignment	各LPARに対して論理プロセッサの割り当てを設定します。 * : 未割り当て状態であることを示します。 S : 共有モードで割り当てられていることを示します。 D : 占有モードで割り当てられていることを示します。 (ただし、LPARがDeactivate状態のとき) 数字 : 数字で示される物理プロセッサが割り当てられていることを示します。 (ただし、占有モードのLPARがActivate状態または、Deactivate状態で物理プロセッサ番号を設定しているとき)	*	~17-4X
		各LPARに対して論理プロセッサの割り当てを設定します。 * : 未割り当て状態であることを示します。 A : 共有モードおよび占有モードでLPARをActivateしたときに、物理プロセッサを自動的に選択して割り当てて示します。 数字 : 占有モードのLPARがActivate状態のときは、数字で示される物理プロセッサが割り当てられていることを示します。それ以外の状態のときは、次回占有モードでActivateするときに、数字で示される物理プロセッサを割り当てて示します。	A	17-6X~
⑨	[Page Up] / [Page Down]	本スクリーンで使用できるページキーを表示します。 Page Up : ページを上へスクロールしてスクリーンを表示します。 Page Down : ページを下へスクロールしてスクリーンを表示します。	-	17-2X~
⑩	Function Key	本スクリーンで使用できるファンクションキーを表示します。 F11 : ページを左へスクロールしてスクリーンを表示します。 F12 : ページを右へスクロールしてスクリーンを表示します。	-	17-2X~

LPARの状態に対するHVMスクリーン操作を以下に示します。

項目	LPARの状態			備考	サポートバージョン
	Activate	Deactivate	Failure		
Name	×	×	×	表示のみ	17-2X~
Sta	×	×	×	表示のみ	17-2X~
Scd	×	×	×	表示のみ	17-6X~
Pro	×	×	×	表示のみ	17-2X~
Grp	×	×	×	表示のみ	17-6X~
Logical Processor Number	×	×	×	表示のみ	17-2X~
Logical Processor Assignment	×	△ (占有モードのみ)	×	-	~17-4X
	△ (共有モードのみ)	○	×	-	17-6X~

○: 変更可能、×: 変更不可、△: 条件付きで変更可能

(1) 論理プロセッサに物理プロセッサを割り当てるには？

【HVM ファームウェアバージョン 17-4X以前】

論理プロセッサに任意の物理プロセッサを割り当てる場合、当該LPARは占有モードでDeactivate状態である必要があります。

【HVM ファームウェアバージョン 17-6X以降】

論理プロセッサに任意の物理プロセッサを割り当てる場合、当該LPARはDeactivate状態または共有モードでActivate状態である必要があります。

LPAR行の論理プロセッサ番号列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。物理プロセッサの番号を入力して[Enter]を押します。本機能による物理プロセッサ番号の設定を行わない場合、当該LPARのActivate時に割り当てる物理プロセッサをHVMが決定します。

本スクリーン の各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明	初期値	サポートバージョン
①	Processor#	物理プロセッサ番号を表示します。	-	17-2X~
②	Blade#	サーバブレード番号を表示します。	-	17-2X~
③	Die# Socket#	ダイ番号、ソケット番号を表示します。	-	17-2X~
④	Core#	コア番号を表示します。	-	17-2X~
⑤	Thread#	スレッド番号を表示します。	-	17-2X~
⑥	State	コアのステータスを表示します。 Act(Activate) : 通常動作状態のコア	-	17-6X~
⑦	Status	物理プロセッサのステータスを表示します。 HIG : 当該物理プロセッサは最高速度で動作している状態です。 MXX : 当該物理プロセッサは中間速度で動作している状態です。 ※M01、M02、M03…の順に速度が遅くなります。 LOW : 当該物理プロセッサは最低速度で動作している状態です。 FAI : 当該物理プロセッサはFAULT状態です。 ERR : 当該物理プロセッサはERROR状態です。 OFF : 当該物理プロセッサはOFFLINE状態です。	-	17-2X~
⑧	Group#	プロセッサグループ番号を設定します。	0	17-6X~
⑨	Schedule	当該物理プロセッサのスケジューリングモードを表示します。 D : 占有モード S : 共有モード	D	17-2X~
⑩	Freq(GHz)	物理プロセッサの現在の動作周波数を示し、プロセッサのTurbo Mode機能をEnableにした場合、動的に変化します。	-	17-2X~
⑪	Group#	プロセッサグループ番号を表示します。	0	17-6X~
⑫	Name	プロセッサグループ名称を設定します。 プロセッサグループ名称は最大で31文字まで設定できます。異なるプロセッサグループに同一の名前をつけることはできません。 プロセッサグループ名称が7文字を超える場合は7文字目が'~'となり、8文字以降は省略されて表示されます。 使用できる文字は、'0'~'9'、'a'~'z'、'A'~'Z'、'-'、'_'ですが、先頭に使える文字は、'a'~'z'、'A'~'Z'です。	NO_NAME	17-6X~
⑬	Total Core	コア数の総数を表示します。	-	17-6X~
⑭	Shr Core	共有モードのコア数を表示します。	-	17-6X~
⑮	Ded Core	占有モードのコア数を表示します。	-	17-6X~
⑯	Function Key	本スクリーンで使用できるファンクションキーを表示します。 F1 : プロセッサグループを追加するときに使用します。 F2 : プロセッサグループを削除するときに使用します。 F11 : ページを左へスクロールしてスクリーンを表示します。 F12 : ページを右へスクロールしてスクリーンを表示します。	-	17-2X~

注意

- 物理プロセッサに回復不能な障害が発生すると、以下の影響が発生する場合があります。
 - 一時的に共有NICおよび仮想NICが使用できなくなり、マネジメントモジュールおよび外部ネットワークとの通信が切れます。
 - 占有モードの場合、障害が発生した物理プロセッサを占有モードで使用しているLPARに障害が発生します。ほかのLPARは影響を受けません。
 - 共有モードの場合、障害が発生した時点で物理プロセッサを共有モードで使用しているLPARに障害が発生します。また、ほかの共有モードのLPARの動作が遅くなる場合があります。この場合、動作が遅くなったLPARをDeactivateし、再度Activateすることにより回復させることができます。

(1) プロセッサグループ番号を変更するには？

【HVM ファームウェアバージョン 17-6X以降】

プロセッサグループ番号の変更は、ActivateあるいはWarning状態のコアに対して任意の時点で実行できます。ただし、以下のいずれかの条件を満たす場合は、スクリーンメッセージを表示してエラー終了します。

- (a) 対象コア上で占有モードの LPAR が Activate 中である。
- (b) 対象コア上で共有モードの LPAR が Activate 中(変更元グループに共有モードの LPAR が Activate 中)であり、対象コアのグループ番号を変更することで、変更元グループに共有モードの物理プロセッサが存在しなくなる。

Group行のプロセッサ列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。プロセッサグループ番号を選択して[Enter]を押します。

(2) プロセッサグループ名称を変更するには？

【HVM ファームウェアバージョン 17-6X以降】

Name行のプロセッサグループ列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。プロセッサグループ名称を入力して[Enter]を押します。

(3) プロセッサグループを追加するには？

【HVM ファームウェアバージョン 17-6X以降】

本スクリーンで[F1] (Add)を押すと、サブスクリーンが表示されます。追加するプロセッサグループ番号を選択して[Enter]を押します。

(4) プロセッサグループを削除するには？

【HVM ファームウェアバージョン 17-6X以降】

デフォルトプロセッサグループであるプロセッサグループ0を削除することはできません。

本スクリーンで[F2] (Remove)を押すと、サブスクリーンが表示されます。削除するプロセッサグループ番号を選択して[Enter]を押します。

PCI Device Assignment

PCI Device Assignmentスクリーンを以下に示します。

```

+-----+
|+ PCI Device Assignment -----+
||
||      ④ PCI Device#: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
||      ⑤ Type:      U U N N F N
||      ⑥ Schd:     E E S S+ S+ S+
|| # Name  Sta
|| 1 LPAR1  Act   R R - - - -
|| 2 LPAR2  Act   A A - - - -
|| 3 ②      ③      ⑦
|| 4
|| 5
|| 6
|| 7
|| 8
|| 9
|| 10
|| ①
||
||      ⑧ [PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down
+-----+
|⑨ Selected PCI Device Information-----|
|| # Vendor      Device Name          Slot#  Bus#  Dev#  Func# ||
|| 0 Intel Corp.  USB Controller                    UK8    0    1a    0  ||
+-----+
|⑩ F5:Attach/Detach  F10:Update PCI Dev Schd  F11:Left  F12:Right  Esc:Menu |
+-----+

```

本スクリーンの各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明	初期値
①	#	LPAR番号を表示します。	-
②	Name	LPAR名称を表示します。	NO_NAME
③	Sta	LPARの状態を表示します。 Act(Activate) : 電源が入っている状態です。 Dea(DeActivate) : 電源が切れている状態です。 Fai(Failure) : 回復不能な障害により、使用ができない状態です。 この状態の場合は、HVMを再起動してください。	Dea
④	PCI Device#	PCIデバイスを識別するためにHVMが付加した番号を表示します。	-
⑤	Type	PCIデバイスの種類を表示します。 U : USB controller N : NIC(Network interface Card) F : FC(Fibre Channel)	-
⑥	Schd	スケジューリングモードを設定します。 D : LPARに占有モードで割り当てます。 E : LPARに排他共有モードで割り当てます。 S : LPARに共有モードで割り当てます。	-
⑦	PCI Device Assignment	PCIデバイスの割り当てを設定します。 * : 未割り当て状態 A : 割り当て(未使用)状態 R : 割り当て(使用中)状態 - : 割り当て不可	-
⑧	[PageUp] / [PageDown]	本スクリーンで使用できるページキーを表示します。 Page Up : ページを上へスクロールしてスクリーンを表示します。 Page Down : ページを下へスクロールしてスクリーンを表示します。	-
⑨	Selected PCI Device Information	カーソルで選択されているPCIデバイスの情報を表示します。 # : PCIデバイスを識別するためにHVMが付加した番号を表示します。 Vendor : ベンダ名称(最大15文字まで)を表示します。 Device Name : デバイス名称(最大31文字まで)を表示します。 Slot# : スロット番号を表示します。 Bus# : PCIコンフィギュレーション空間のバス番号を表示します。 Dev# : PCIコンフィギュレーション空間のデバイス番号を表示します。 Func# : PCI コンフィギュレーション空間のファンクション番号を表示します。	-

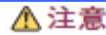
No.	項目	説明	初期値
⑩	Function Key	<p>本スクリーンで使用できるファンクションキーを表示します。</p> <p>F5 : PCIデバイスの割り当て先を変更する際に使用します。</p> <p>F10 : PCIデバイスのスケジューリングモードを変更したとき、その内容をHVMに反映させる際に使用します。</p> <p>F11 : ページを左へスクロールしてスクリーンを表示します。</p> <p>F12 : ページを右へスクロールしてスクリーンを表示します。</p>	-

LPARの状態に対するHVMスクリーン操作を以下に示します。

項目	LPARの状態			備考
	Activate	Deactivate	Failure	
Name	×	×	×	表示のみ
Sta	×	×	×	表示のみ
PCI Device#	×	×	×	表示のみ
Type	×	×	×	表示のみ
Schd	×	○	×	-
PCI Device Assignment	×	△ (占有モードのみ)	×	-

○: 変更可能、×: 変更不可、△: 条件付きで変更可能

(1) PCI デバイスのスケジューリングモード(Schd)を変更するには？



- [F10] (Update PCI Dev Schd)による操作は、Activate 中の LPAR がないときに行ってください。Activate 中の LPAR があるときに本操作を行った場合、LPAR のネットワーク通信が数分間途絶えます。また、JP1/SC/BSMに表示されるHVMの状態は、非活性化状態になり、この間、障害通知が行われません。

スケジューリングモードを変更するには、すべてのLPARをDeactivate状態にする必要があります。PCIデバイスのスケジューリングモード(Schd)の変更は、共有モードに対応しているNIC、およびFCに対して行うことができます。スケジューリングモードの変更ができるPCIデバイスは、スケジューリングモード表示の右側に「+」が表示されます。

Schd行のPCIデバイス番号列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。スケジューリングモードを選択して[Enter]を押します。

Schdの変更内容は、[F10] (Update PCI Dev Schd)を押して、設定確認サブスクリーンでYesを選択するとHVMに反映します。Yesを選択した場合、変更が終了するのに2～3分かかり、その間HVMの操作はできません。

Schdの変更をやめたい場合は、[F10] (Update PCI Dev Schd)を押して、設定確認サブスクリーンでNoを選択します。変更した内容はすべてもとに戻ります。

Schdの変更をHVMに反映し終わるまでには時間を要するため、変更処理が確実に終わるまでは、ほかの変更ができないよう、Schd以外の変更や他スクリーンへの移動を抑制しています。もし、Schd以外の変更や他スクリーンへの移動を行いたい場合は、[F10] (Update PCI Dev Schd)でYesを選択して反映を完了させるか、もしくはNoを選択して変更をキャンセルしてください。

(2) LPAR に PCI デバイスを割り当てるには？

本設定を行う場合、当該LPARは占有モードでDeactivate状態である必要があります。

LPAR行のPCIデバイス番号列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。「A」を選択して[Enter]を押します。割り当てを解除する場合は、「*」を選択します。

(3) PCI デバイスの使用先を変更するには？

本スクリーンで[F5] (Attach/Detach)を押すと、サブスクリーンが表示されます。変更するLPARを選択して[Enter]を押します。

Virtual NIC Assignment

VNIC Assignmentスクリーンを以下に示します。

```

+-----+
|+- Virtual NIC Assignment -----+
||
||
||                               ⑤ Virtual NIC Number
|| # Name   Sta #VNIC   0 1 2 3 4 5 6 7
|| 1 LPAR1  Dea   2   1a 1b * * * * * *
|| 2 LPAR2  Dea   0   * * * * * * * *
|| 3 ②     ③     ④     ⑥
|| 4
|| 5
|| 6
|| 7
|| 8
|| 9
|| 10
|| ①                               ⑦ [PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down
+-----+
|⑧VNIC Information-----+
|| No: 0  MAC Address: 00.00.87.62.c7.00  Shared NIC#: 1  Tag: Undef  Prm: T
||                               Inter-LPAR Packet Filtering: Disable
|| VLANID:
+-----+
|⑨F2:Disp  F5:Set Prom. Mode  F6:Change MAC Addr  F7:Select VLAN
| F8:Packet Filter
|                               Esc:Menu
+-----+

```

本スクリーンの各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明	初期値
①	#	LPAR番号を表示します。	-
②	Name	LPAR名称を表示します。	NO_NAME
③	Sta	LPARの状態を表示します。 Act(Activate) : 電源が入っている状態です。 Dea(DeActivate) : 電源が切れている状態です。 Fai(Failure) : 回復不能な障害により、使用ができない状態です。 この状態の場合は、HVMを再起動してください。	Dea
④	#VNIC	共有NICおよび仮想NICの総数を表示します。	0
⑤	Virtual NIC Number	共有NICおよび仮想NICの番号を表示します。	-
⑥	VNIC Assignment	各LPARに対して共有NICおよび仮想NICの割り当てを設定します。 * : 未割り当てを表します。 1a,1b~6a,6b : 共有NICのネットワークセグメントの識別子を表します。 Va~Vd : 仮想NICのネットワークセグメントの識別子を表します。	*
⑦	[PageUp] / [PageDown]	本スクリーンで使用できるページキーを表示します。 Page Up : ページを上へスクロールしてスクリーンを表示します。 Page Down : ページを下へスクロールしてスクリーンを表示します。	-

No.	項目	説明	初期値						
⑧	VNIC Information	<p>カーソルで選択されている共有NICおよび仮想NIC情報を表示します。</p> <p>No : 共有NICおよび仮想NIC番号を表示します。 MAC Address : MACアドレスを表示します。 Shared NIC# : 共有NIC番号を表示します。 Tag : VLANモードを表示します。 Undef : VLANモードは未定義です。 Tag : Taggedポートに定義されています。 Untag : UnTaggedポートに定義されています。 Prm : プロミスキャスモードを表示します。 R : MACと一致したものを受け付けます。 T : すべてのパケットを受け付けます。 VLANID : VLAN IDを表示します。 ただし、VLAN ID: 4093はシステム予約済みのため使用できません。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>VLANモード</th> <th>VLAN ID</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Tagged</td> <td>1~4094の範囲内で最大16個。 または、All(全ID)</td> </tr> <tr> <td>Untagged</td> <td>1~4094の範囲内で1つ</td> </tr> </tbody> </table> <p>【HVMファームウェアバージョン 17-4X以降】 Inter-LPAR Packet Filtering : LPAR間通信パケットフィルタを表示します。 Disable : LPAR間通信パケットをHVM内部に送信します。 LPAR間通信パケットをHVM外部に送信しません。 Enable : LPAR間通信パケットをHVM内部に送信しません。 LPAR間通信パケットをHVM外部に送信します。</p> <p>【HVMファームウェアバージョン 17-42以降】 Disable(ALL) : LPAR間通信パケットをHVM内部およびHVM外部に送信します。</p>	VLANモード	VLAN ID	Tagged	1~4094の範囲内で最大16個。 または、All(全ID)	Untagged	1~4094の範囲内で1つ	<p>Tag: Undef Prm: T Inter-LPAR Packet Filtering: Disable 上記以外:-</p>
VLANモード	VLAN ID								
Tagged	1~4094の範囲内で最大16個。 または、All(全ID)								
Untagged	1~4094の範囲内で1つ								
⑨	Function Key	<p>本スクリーンで使用できるファンクションキーを表示します。</p> <p>F2 : VLAN IDの割り当て一覧を表示します。 F5 : プロミスキャスモードを設定するときに使用します。 F6 : MACアドレスを変更するときに使用します。 F7 : VLANモードを設定するときに使用します。</p> <p>【HVMファームウェアバージョン 17-4X以降】 F8 : LPAR間通信パケットフィルタを設定するときに使用します。</p>	-						

LPARの状態に対するHVMスクリーン操作を以下に示します。

項目	LPARの状態			備考
	Activate	Deactivate	Failure	
Name	×	×	×	表示のみ
Sta	×	×	×	表示のみ
#VNIC	×	×	×	表示のみ
VNIC Number	×	×	×	表示のみ
VNIC Assignment	×	○	×	-
VNIC Information				
MAC Address	×	○	×	-
Tag	○	○	×	-
Prm	○	○	×	-
VLANID	○	○	×	-
Inter-LPAR Packet Filtering	○	○	×	-

○: 変更可能、×: 変更不可

(1) 共有 NIC および仮想 NIC の割り当てを変更するには？

共有NICおよび仮想NICの割り当てを変更するには、当該LPARをDeactivate状態にする必要があります。

仮想NICのネットワークセグメント識別子(Va~Vd)は、1つのLPAR上で複数回繰り返して定義することができますが、共有NICのネットワークセグメント識別子(1a, 1b~6a, 6b)は、1つのLPAR上で複数回繰り返して定義することはできません。ただし、異なる共有NICのネットワークセグメント識別子(例: 1aと2a)は、同一のLPAR内で共存できます。

LPAR行のVirtual NIC Number列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。変更するネットワークセグメントを選択して[Enter]を押します。

(2) VLAN ID 割り当て/プロミスキヤスモード設定一覧を表示するには？

本スクリーンで[F2] (Disp)を押すと、本スクリーン上でカーソルが位置するネットワークセグメント識別子に定義されているVLAN ID割り当て/プロミスキヤスモード設定一覧が表示されます。

もし、ネットワークセグメント識別子が定義されていない箇所にカーソルがある場合、[F2] (Disp)を押しても何も表示しません。

別のネットワークセグメント識別子に定義されているVLAN ID割り当て/プロミスキヤスモード設定一覧を表示したい場合は、[Esc]で現在の表示を閉じてから、カーソル位置を変えて再び[F2] (Disp)を押します。

VLAN ID割り当て/プロミスキヤスモード設定一覧の表示例を以下に示します。

```

+-----+
|+- Virtual NIC Assignment -----+
||
||                               Virtual NIC Number
|| # Name      Sta #VNIC   0  1  2  3  4  5  6  7
|| 1 LPAR1     Dea   2   1a 1b * * * * * *
|| 2 LPAR2     Dea   0   * * * * * * * *
|| 3
|| 4
|| 5
|| 6   +-----+
|| 7   | VLAN ID Allocation / Prom. Mode Setting Display
|| 8   | ①Segment: 1a
|| 9   | ② ③ ④ ⑤ ⑥
||10   | LPAR# VNIC# Prm Mode VLAN ID
||     |   1   0   T   Tag   1,  2,  3,  4,  5,  6,
||     |
||     |
||-----+
|+- VNIC Information-----+
|| No: 0 MAC Address: 00.00.87.62.c7.00 Shared NIC#: 1 Tag: Tag Prm: T
|| Inter-LPAR Packet Filtering: Disable
|| VLANID: 1, 2, 3, 4, 5, 6,
||
||-----+
| F2:Disp F5:Set Prom. Mode F6:Change MAC Addr F7:Select VLAN
| F8:Packet Filter Esc:Menu
+-----+

```

VLAN ID割り当て/プロミスキヤスモード設定一覧の説明を示します。

No.	項目	説明
①	Segment	ネットワークセグメント識別子を表示します。
②	LPAR#	LPAR番号を昇順で下方向に表示します。
③	VNIC#	Virtual NIC Numberを昇順で下方向に表示します。
④	Prm	プロミスキヤスモードを表示します。
⑤	Mode	VLANモードを表示します。
⑥	VLAN ID	VLAN IDを昇順で右方向に表示します。 定義されているVLAN IDが9個以上の場合、2段に分けて表示します。 VLAN IDがALLで定義されている場合、'ALL'のみを表示します。
⑦	[PageUp] / [PageDown]	表示内容がスクリーンで収まらない場合、[PageUp] / [PageDown]による表示内容の切り替えがあることを示すために表示します。 もし、スクリーン切り替えの必要がない場合は表示されません。

※カーソルで指定したネットワークセグメント識別子にVLAN IDが定義されていないときに[F2] (Disp)を押すと、「VLAN ID is not set.」のメッセージが出力されます。

(3) プロミスキヤスモードを変更するには？

LPAR行のVirtual NIC Number列にカーソルを合わせて[F5] (Set Prom. Mode)を押すと、サブスクリーンが表示されます。プロミスキヤスモードを選択して[Enter]を押します。

プロミスキヤス設定		パケットの受け付け
ゲストOS	HVMスクリーン	
Disable	Restricted/Through	パケットの宛先が当該NICのMACと一致したものを受け付けます。
Enable	Restricted	パケットの宛先が当該NICのMACと一致したものを受け付けます。
	Through	仮想ネットワークセグメント上の全てのパケットを受け付けます。

```

+-----+
|+- Virtual NIC Assignment -----+
|
|
|          Virtual NIC Number
| # Name   Sta #VNIC  0  1  2  3  4  5  6  7
| 1 LPAR1  Dea   2  1a 1b * * * * * *
| 2 LPAR2  Dea   0   * * * * * * * *
| 3
| 4
| 5
| 6          +-----+
| 7          | Promiscuous Mode Setting |
| 8          |           Restricted           |
| 9          |           Through            |
| 10         +-----+
|
|                                     [PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down
+-----+
|+-VNIC Information-----+
| No: 0  MAC Address: 00.00.87.62.c7.00  Shared NIC#: 1  Tag: Undef  Prm: T
| Inter-LPAR Packet Filtering: Disable
| VLANID:
|
| F2:Disp  F5:Set Prom. Mode  F6:Change MAC Addr  F7:Select VLAN
| F8:Packet Filter
|                                     Esc:Menu
+-----+

```

(4) MAC アドレスを変更するには？



- MAC アドレスの変更は推奨しません。万一、MAC アドレスを変更する場合は、ネットワーク上に同一MAC アドレスが存在しないことを確認してください。同一MAC アドレスが存在した場合、ネットワークに重大な障害を引き起こす場合があります。

MACアドレスの変更は、Deactivate状態にあるLPARに対してのみ実行できます。

00:00:00:00:00:00~FF:FF:FF:FF:FF:FFまで設定できますが、HVMにより予約している値は設定できません。また、マルチキャストアドレス、ブロードキャストアドレスは設定しないでください。

LPAR行のVirtual NIC Number列にカーソルを合わせて[F6] (Change MAC Addr)を押すと、サブスクリーンが表示されます。MACアドレスを入力して[Enter]を押します。

(5) VLAN モードを変更するには？

LPAR行のVirtual NIC Number列にカーソルを合わせて[F7] (Select VLAN Mode)を押すと、サブスクリーンが表示されます。VLANモードを選択して[Enter]を押します。

```
+-----+
|+- Virtual NIC Assignment -----+
|
|
|          Virtual NIC Number
| # Name   Sta #VNIC  0  1  2  3  4  5  6  7
| 1 LPAR1  Dea   2  1a 1b *  *  *  *  *  *
| 2 LPAR2  Dea   0  *  *  *  *  *  *  *
| 3
| 4
| 5          +-----+
| 6          | Select VLAN mode |
| 7          |
| 8          | UNDEFINE
| 9          | TAGGED
| 10         | UNTAGGED
|          +-----+
|          | Cancel VLAN mode | e Up / [PageDown]:Page Down
+-----+
|+-VNIC Information-----+
| No: 0 MAC Address: 00.00.87.62.c7.00 Shared NIC#: 1 Tag: Undef Prm: T
| Inter-LPAR Packet Filtering: Disable
| VLANID:
+-----+
| F2:Disp F5:Set Prom. Mode F6:Change MAC Addr F7:Select VLAN
| F8:Packet Filter Esc:Menu
+-----+
```

VLANモードにTaggedまたはUntaggedを選択した場合、サブスクリーンが表示されます。VLAN IDを入力して[Enter]を押します。入力したVLAN IDに入力ミスがある場合は、エラーメッセージを表示したサブスクリーンを表示します。入力ミスを修正してください。

ただし、VLAN ID: 4093はシステム予約済みのため使用できません。

```
+-----+
|+- Virtual NIC Assignment -----+
|
|
|          Virtual NIC Number
| # Name   Sta #VNIC  0  1  2  3  4  5  6  7
| 1 LPAR1  Dea   2  1a 1b *  *  *  *  *  *
| 2 LPAR2  Dea   0  *  *  *  *  *  *  *
| 3
| 4
+-----+
|          VLAN ID Setting (a limit input : 1 to 4094 or 'All')
|
|          1, 2, 3
+-----+
|+-VNIC Information-----+
| No: 0 MAC Address: 00.00.87.62.c7.00 Shared NIC#: 1 Tag: Undef Prm: T
| Inter-LPAR Packet Filtering: Disable
| VLANID:
+-----+
| F2:Disp F5:Set Prom. Mode F6:Change MAC Addr F7:Select VLAN
| F8:Packet Filter Esc:Menu
+-----+
```

VLANモードにTaggedを選択した場合で、VLAN IDの設定数が16未満の場合は、さらにサブスクリーンが表示されます。続けてVLAN IDを設定する場合はYes、VLAN IDの設定を終了する場合はNoを選択して[Enter]を押します。

```

+-----+
|+- Virtual NIC Assignment -----+
||
||                               Virtual NIC Number
|| # Name   Sta #VNIC   0  1  2  3  4  5  6  7
|| 1 LPAR1  Dea   2   1a 1b * * * * * * *
|| 2 LPAR2  Dea   0   * * * * * * * *
|| 3
|| 4
|| 5
|| 6
|| 7
|| 8
|| 9
|| 10
||
||                               +-----+
||                               | VLAN ID count is less than 16. |
||                               | Do you continue?                 |
||                               |                                 |
||                               |   Yes                             |
||                               |   No                             |
||                               +-----+
||                               +-----+ [PageDown]:Page Down
+-----+
|+-VNIC Information-----+
|| No: 0 MAC Address: 00.00.87.62.c7.00 Shared NIC#: 1 Tag: Undef Prm: T
|| Inter-LPAR Packet Filtering: Disable
|| VLANID:
+-----+
| F2:Disp F5:Set Prom. Mode F6:Change MAC Addr F7:Select VLAN
| F8:Packet Filter Esc:Menu
+-----+

```

Yesを選択した場合、さらにサブスクリーンを表示します。VLAN IDを入力して[Enter]を押します。入力したVLAN IDに入カミスがある場合は、エラーメッセージを表示したサブスクリーンを表示します。入カミスを修正してください。

```

+-----+
|+- Virtual NIC Assignment -----+
||
||                               Virtual NIC Number
|| # Name   Sta #VNIC   0  1  2  3  4  5  6  7
|| 1 LPAR1  Dea   2   1a 1b * * * * * * *
|| 2 LPAR2  Dea   0   * * * * * * * *
|| 3
|| 4
+-----+
||                               VLAN ID Setting (a limit input : 1 to 4094 or 'All') (cont.)
||
||                               4, 5, 6
+-----+
|+-VNIC Information-----+
|| No: 0 MAC Address: 00.00.87.62.c7.00 Shared NIC#: 1 Tag: Undef Prm: T
|| Inter-LPAR Packet Filtering: Disable
|| VLANID:
+-----+
| F2:Disp F5:Set Prom. Mode F6:Change MAC Addr F7:Select VLAN
| F8:Packet Filter Esc:Menu
+-----+

```


Shared FC Assignment

Shared FC Assignmentスクリーンを以下に示します。

```

+-----+
|+- Shared FC Assignment -----+
||      ④ Shared FC#: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ||
||      ⑤ Slot#: E80 E80 ||
||      ⑥ Port#: 0 1 ||
||      ⑦ PortStatus: A A ||
|| # Name Sta ||
|| 1 LPAR1 Dea 1 * ||
|| 2 LPAR2 Dea * * ||
|| 3 ② ③ ⑧ ||
|| 4 ||
|| 5 ||
|| 6 ||
|| 7 ||
|| 8 ||
|| 9 ||
|| 10 ||
|| ① ⑨ [PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down ||
+-----+
|⑩ Selected Virtual FC Port WWN Information-----+
|| # LPAR# WWPN WWNN Bus# Dev# Func# vfcID# ||
|| 0 1 2348000087000110 2348000087000111 5 4 0 1 ||
+-----+
|⑪ F11:Left F12:Right Esc:Menu |
+-----+

```

本スクリーンの各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明	初期値
①	#	LPAR番号を表示します。	-
②	Name	LPAR名称を表示します。	NO_NAME
③	Sta	LPARの状態を表示します。 Act(Activate) : 電源が入っている状態です。 Dea(DeActivate) : 電源が切れている状態です。 Fai(Failure) : 回復不能な障害により、使用ができない状態です。 この状態の場合は、HVMを再起動してください。	Dea
④	Shared FC#	共有FC番号を表示します。	-
⑤	Slot#	PCIスロット番号を表示します。	-
⑥	Port#	共有FCのポート番号を表示します。	-
⑦	PortStatus	共有FCポートの状態を表示します。 A(Available) : 正常に利用できます。 D(LinkDown) : ケーブルが接続されていないため利用できません。 C(ConfigCheck) : 構成上の問題で利用できません。 E(ErrorCheck) : 回復不能な障害状態であるため利用できません。	-
⑧	Shared FC Assignment	各LPARに対して共有FCポートの割り当てを設定します。 共有FCポートの割り当ては、カーソルで選択された共有FCポートに対して、サブスクリーンを開き、vfcIDを設定します。	*
⑨	[PageUp] / [PageDown]	本スクリーンで使用できるページキーを表示します。 Page Up : ページを上へスクロールしてスクリーンを表示します。 Page Down : ページを下へスクロールしてスクリーンを表示します。	-
⑩	Selected Virtual FC Port WWN Information	カーソルで選択された共有FCポートの情報を表示します。 LPAR# : 当該共有FCが割り当てられているLPAR番号を表示します。 WWPN : 当該共有FCのWWPNを表示します。 WWNN : 当該共有FCのWWNNを表示します。 Bus# / : 当該共有FCのバス番号を表示します。 Dev# : 当該共有FCのデバイス番号を表示します。 Func# : 当該共有FCのファンクション番号を表示します。 vfcID# : 当該共有FCに設定されているvfcIDを表示します。	-
⑪	Function Key	本スクリーンで使用できるファンクションキーを表示します。 F11 : ページを左へスクロールしてスクリーンを表示します。 F12 : ページを右へスクロールしてスクリーンを表示します。	-

LPARの状態に対するHVMスクリーン操作を以下に示します。

項目	LPARの状態			備考
	Activate	Deactivate	Failure	
Name	×	×	×	表示のみ
Sta	×	×	×	表示のみ
Slot#	×	×	×	表示のみ
Port#	×	×	×	表示のみ
PortStatus	×	×	×	表示のみ
Shared FC Assignment	×	○	×	-
Selected Virtual FC Port WWN Information	×	×	×	表示のみ

○:変更可能、×:変更不可

(1) FCの共有割り当てを変更するには？

FCの共有割り当てを変更するには、当該LPARをDeactivate状態にする必要があります。

LPAR行の共有FC番号列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。

```

+-----+
| +- Shared FC Assignment -----+
| || Shared FC#: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ||
| || Slot#: E80 E80 ||
| || Port#: 0 1 ||
| || PortStatus: A A ||
| || # Name Sta ||
| || 1 LPAR1 Dea 1 * ||
| || 2 LPAR2 Dea * * ||
| || 3 ||
| || 4 ||
| || 5 ||
| || 6 ||
| || 7 ||
| || 8 ||
| || 9 ||
| || 10 ||
| || |
| || [PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down ||
+-----+
| +- Selected Virtual FC Port WWN Information -----+
| || # LPAR# WWPN WWN Bus# Dev# Func# vfcID# ||
| || 0 1 2348000087000110 2348000087000111 5 4 0 1 ||
+-----+
| F11:Left F12:Right Esc:Menu |
+-----+

```

サブスクリーン内に表示されたvfcIDを選択して[Enter]を押します。

vfcIDは共有FCのポートあたり1～15の範囲内で選択できますが、複数のLPARに同一のvfcIDを定義することはできません。

また、搭載するFCアダプタにより表示内容が異なる場合があります。

```

+-----+
| +- Shared FC Assignment -----+
| || Shared FC#: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ||
| || Slot#: E80 E80 ||
| || Port#: 0 1 ||
| || PortStatus+-----+
| || # Name Sta | Shared FC vfcWWNid Assignment | | |
| || 1 LPAR1 Dea | | | |
| || 2 LPAR2 Dea | | | |
| || 3 | | | |
| || 4 | | | |
| || 5 | | | |
| || 6 | | | |
| || 7 | | | |
| || 8 | | | |
| || 9 | | | |
| || 10 | | | |
| || |
| || | [PageDown]:Page Down |
+-----+
| +- Selected Virtual FC Port WWN Information -----+
| || # LPAR# WWPN WWN Bus# Dev# Func# vfcID# ||
| || 0 1 2348000087000110 2348000087000111 5 4 0 1 ||
+-----+
| F11:Left F12:Right Esc:Menu |
+-----+

```


LPAR1、共有FC番号=0に対して、vfcID=2を設定した例を以下に示します。

```

+-----+
|+- Shared FC Assignment-----|
||      Shared FC#:  0  1  2  3  4  5  6  7  8  9  ||
||      Slot#:      E80 E80 ||
||      Port#:      0  1  ||
||      PortStatus:  A  A  ||
|| # Name  Sta      ||
|| 1 LPAR1 Dea      2  *  ||
|| 2 LPAR2 Dea      *  *  ||
|| 3 ||
|| 4 ||
|| 5 ||
|| 6 ||
|| 7 ||
|| 8 ||
|| 9 ||
|| 10 ||
||                                     [PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down ||
+-----+
|+- Selected Virtual FC Port WWN Information-----|
|| # LPAR# WWPN      WWNN      Bus# Dev# Func# vfcID# ||
|| 0  1    2348000087000120 2348000087000121 5  4  0  2  ||
+-----+
| F11:Left F12:Right | Esc:Menu |
+-----+

```

(2) 共有 FC の WWN について

共有FCで使用するWWNをvfcWWNと呼びます。vfcWWNはShared FC Assignmentスクリーンで割り当てられたvfcIDの値により自動生成されます。生成されたvfcWWNは、Shared FC AssignmentスクリーンでSelected Virtual FC Port WWN Information内に表示されます。

また、Allocated FC Informationスクリーンでは、HVM内に実装されている占有/共有FCのWWN情報を一覧表示します。

(3) PortStatus について

PortStatusが「A(Available): 正常に利用可能である」以外である場合には、次を確認してください。

- PortStatus が「D(LinkDown): ケーブルが接続されていないため利用できない」である場合
 - FC アダプタに接続されている FC ケーブルが確実に挿入されているか？
 - FC アダプタを接続している FC スイッチなどは電源が入っていて、正常に動作しているか？
 - FC ケーブルを交換しても同様の現象となるか？(可能であれば実施)

- PortStatus が「C(ConfigCheck): 構成上の問題で利用できない」である場合
 - 4Gbps Fibre Channel アダプタを使用している場合、N_Port ID Virtualization(NPIV)をサポートしている FC スイッチを接続しているか？(接続先 FC スイッチの Port は NPIV が有効化されているか?)
 - 4Gbps Fibre Channel アダプタを使用している場合、FC スイッチとの接続は Auto 接続であるか？
 - 8Gbps Fibre Channel アダプタをストレージに直結している場合、ストレージとの接続は Loop 接続であるか？
 - 8Gbps Fibre Channel アダプタを NPIV 未サポートの FC スイッチに接続している場合、FC スイッチとの接続は Loop 接続であるか？(接続先 FC スイッチの Port の NPIV が無効化されている場合も同様)

- PortStatus が「E(ErrorCheck): 回復不能な障害状態」である場合
 - お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

Allocated FC Information

Allocated FC Informationスクリーンを以下に示します。

```

+-----+
|+- Allocated FC Information -----+
| ① ② ③ ④ ⑤ Vfc Seed Info. 1 << 1/ 1>> |
| Lpar# Slot# Port# SchMd vfcID WWPN ⑥ WWNN ⑦ |
| 1 E80 0 S 1 2348000087000110 2348000087000111 |
| -- E80 0 S 2 2348000087000120 2348000087000121 |
| -- E80 0 S 3 2348000087000130 2348000087000131 |
| -- E80 0 S 4 2348000087000140 2348000087000141 |
| -- E80 0 S 5 2348000087000150 2348000087000151 |
| -- E80 0 S 6 2348000087000160 2348000087000161 |
| -- E80 0 S 7 2348000087000170 2348000087000171 |
| -- E80 0 S 8 2348000087000180 2348000087000181 |
| -- E80 1 S 1 2348000087000112 2348000087000113 |
| -- E80 1 S 2 2348000087000122 2348000087000123 |
| -- E80 1 S 3 2348000087000132 2348000087000133 |
| -- E80 1 S 4 2348000087000142 2348000087000143 |
| -- E80 1 S 5 2348000087000152 2348000087000153 |
| -- E80 1 S 6 2348000087000162 2348000087000163 |
| -- E80 1 S 7 2348000087000172 2348000087000173 |
| -- E80 1 S 8 2348000087000182 2348000087000183 |
| ⑩ [PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down |
+-----+
| Esc:Menu |
+-----+

```

本スクリーンの各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明	初期値
①	Lpar#	FCが割り当てられているLpar番号を昇順に表示します。 Lparに未割り当ての場合は、「-」を表示します。	-
②	Slot#	FCが挿入されている物理スロット番号を表示します。	-
③	Port#	FCのポート番号を表示します。	-
④	SchMd	FCのスケジューリングモードを表示します。 D : Lparに占有モードで割り当てられています。 S : Lparに共有モードで割り当てられています。	D
⑤	vfcID	割り当てFCが共有モードの場合は、設定されているvfcIDを表示します。 共有FC以外の場合は、「-」を表示します。	-
⑥	WWPN	FCのWorld Wide Port Nameを表示します。 日立製 FCアダプタ以外は、「?」を表示します	-
⑦	WWNN	FCのWorld Wide Node Nameを表示します。 日立製 FCアダプタ以外は、「?」を表示します。	-
⑧	Vfc Seed Info.	WWN生成に使用しているVfcシード情報を表示します。	-
⑨	Pages	ページ数を表示します。 分子 : 現在のページ数を表示します。 分母 : 総ページ数を表示します。	-
⑩	[PageUp] / [PageDown]	本スクリーンで使用できるページキーを表示します。 Page Up : ページを上へスクロールしてスクリーンを表示します。 Page Down : ページを下へスクロールしてスクリーンを表示します。	-

System Configuration

System Configurationスクリーンを以下に示します。

```

+-----+
| +- System Configuration -----+
|
| HVM ID          HVM_192168020 ① | Alert Language    Japanese ⑨ |
|                   | Virtual Console Port 20801 ⑩ |
|
| HVM IP Address  192.168.0.20 ② |
| Subnet Mask     255.255.255.0 ③ |
| Default Gateway 0.0.0.0       ④ |
|
| BSM1 IP Address 192.168.0.168 ⑤ | HVM CLI1 IP Address 0.0.0.0 ⑪ |
| BSM2 IP Address 0.0.0.0         | HVM CLI2 IP Address 0.0.0.0 |
| BSM3 IP Address 0.0.0.0         | HVM CLI3 IP Address 0.0.0.0 |
| BSM4 IP Address 0.0.0.0         | HVM CLI4 IP Address 0.0.0.0 |
| BSM1 Alert Port 20079          ⑥ | HVM CLI5 IP Address 0.0.0.0 |
| BSM2 Alert Port 20079          | HVM CLI6 IP Address 0.0.0.0 |
| BSM3 Alert Port 20079          | HVM CLI7 IP Address 0.0.0.0 |
| BSM4 Alert Port 20079          | HVM CLI8 IP Address 0.0.0.0 |
|
| Management Path Default        ⑦ |
| VNIC System No: 1              ⑧ |
|
+-----+
|
| ⑫ F10:Update System Config                               Esc:Menu
|
+-----+

```

本スクリーンの各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明	初期値
①	HVM ID	HVMを識別するIDを設定します。 設定できる最大文字数は16文字です。 設定できる文字は以下のとおりです。 英数字, "~", "@", "#", "\$", "%", "^", "-"(ハイフン), "+", "=", "_"(アンダースコア), "."(ピリオド), "[", "]" 「HVM_」に続いて、HVM IP Addressから「.(ピリオド)」を省略した数字が初期値として反映されます。	HVM_0000
②	HVM IP Address	HVM IP Addressを設定します。 HVM IP Addressを初期値から変更しないとHVMが操作できません。	0.0.0.0
③	Subnet Mask	サブネットマスクを設定します。	255.255.255.255
④	Default Gateway	Default GatewayのIP Addressを設定します。	0.0.0.0
⑤	BSM1~4 IP Address	BSM IP Addressを設定します。 JP1/SC/BSM、HvmShコマンド、HvmGetPerfコマンドなどが動作するサーバのIPアドレスを設定します。 HVM起動時はマネジメントモジュールに設定されたBSM IP Addressが初期値として反映されます。	-
⑥	BSM1~4 Alert Port	BSM Alert Portを設定します。 BSM Alert Portは0~65535まで設定できます。 HVM起動時はマネジメントモジュールに設定されたBSM Alert Portが初期値として反映されます。	-
⑦	Management Path	管理パスに使用するNICのPCIデバイス番号を設定します。 Default : プライマリーオンボードNICを管理パスに使用します。 PCIデバイス番号 : PCIデバイス番号で指定されたNICを管理パスに使用します。 ----- : PCIデバイス番号で指定されたNICが使用できないことを示します。 管理パスは、HVMが管理サーバ(JP1/SC/BSM、HvmShコマンドなどが動作するサーバ)との通信に使用するパスを示します。	Default
⑧	VNIC System No	VNIC System Noを設定します。 VNIC System Noは1~128まで設定できます。 BS1000、BS2000、BS320などを含むすべてのHVMと重複しない値を設定します。 この値は共有NICおよび仮想NICのMACアドレスの一部として使用されます。 VNIC System Noを初期値から変更しないとHVMが操作できません。	0

No.	項目	説明	初期値
⑨	Alert Language	HVMのアラートメッセージの言語を設定します。 HVM起動時はマネジメントモジュールに設定された言語モードが初期値として反映されます。 Japanese : アラートメッセージを日本語で表示します。 English : アラートメッセージを英語で表示します。	-
⑩	Virtual Console Port	ゲストコンソールにTelnet接続するTCPポートを設定します。 TCPポートは1024～65520まで設定できます。 本スクリーンではVC 1に接続するときのTCPポートのみが設定でき、VC 2以降のTCPポートはVC番号増加に伴い1ずつ増加する値となります。 HVM起動時はHVMで取得しているTCPポート(20801からの連番)が初期値として反映されます。	20801
⑪	HVM CLI1～8 IP Address	【HVMファームウェアバージョン 17-7X以降】 HVM CLI IP Addressを設定します。 HvmShコマンド、HvmGetPerfコマンドなどが動作するサーバのIPアドレスを設定します。	0.0.0.0
⑫	Function Key	本スクリーンで使用できるファンクションキーを表示します。 F10 : 変更をHVMに反映するときに使用します。	-

LPARの状態に対するHVMスクリーン操作を以下に示します。

項目	LPARの状態			サポートバージョン
	Activate	Deactivate	Failure	
HVM ID	×	○	×	17-2X～
HVM IP Address	×	○	○	17-2X～
Subnet Mask	×	○	○	17-2X～
Default Gateway	×	○	○	17-2X～
BSM1～4 IP Address	×	○	○	～17-4X
	○	○	○	17-6X～
BSM1～4 Alert Port	×	○	○	～17-4X
	○	○	○	17-6X～
Management Path	×	○	×	17-2X～
VNIC System No	×	○	×	17-2X～
Alert Language	×	○	○	17-2X～
Virtual Console Port	×	○	×	17-2X～
HVM CLI1～8 IP Address	○	○	○	17-7X～

○: 変更可能、×: 変更不可

(1) HVM ID を変更するには？

HVM IDは、すべてのLPARがDeactivateときのみ変更できます。

HVM IDは、複数のHVMが存在する場合、それぞれを識別するため設定します。例えば、JP1/SC/BSMよりHVMを操作する場合に、本HVM IDで識別します。したがって、設定する値は、BS1000、BS2000、BS320などを含むすべてのシステム装置でユニークな値としてください。
設定された値がほかのHVMに使われているか、HVMはチェックを行いません。

HVM IDにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。HVM IDを入力して[Enter]を押します。

(2) HVM IP Address を変更するには？

HVM IP Addressは初期設定で0.0.0.0に設定されていますが、HVMの最初の起動時に0.0.0.0以外の値を設定しないとHVMが操作できません。ただし、マルチキャストアドレス、ブロードキャストアドレスは設定しないでください。

HVM IP Addressにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。HVM IP Addressを入力して[Enter]を押します。

(3) Subnet Mask を変更するには？

Subnet Maskにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Subnet Maskを入力して[Enter]を押します。

(4) Default Gateway を変更するには？

Default Gatewayにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Default Gatewayを入力して[Enter]を押します。

(5) BSM IP Address を変更するには？



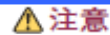
注意

- HVM ファームウェアバージョン 17-6X 以降は、変更内容を反映するのに[F10] (Update System Config)による操作は不要です。なお、変更内容が反映されるのに 10 秒程度かかる場合があります。

マルチキャストアドレス、ブロードキャストアドレスは設定しないでください。

BSM IP Addressにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。BSM IP Addressを入力して[Enter]を押します。

(6) BSM Alert Port を変更するには？



注意

- HVM ファームウェアバージョン 17-6X 以降は、変更内容を反映するのに[F10] (Update System Config)による操作は不要です。なお、変更内容が反映されるのに 10 秒程度かかる場合があります。

BSM Alert Portにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。BSM Alert Portを入力して[Enter]を押します。

(7) Management Path を変更するには？

Management Pathは、すべてのLPARがDeactivateときのみ変更できます。

Management Pathにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。NICのPCIデバイス番号を入力して[Enter]を押します。

(8) VNIC System No を変更するには？



注意

- VNIC System No は、共有 NIC および仮想 NIC の MAC アドレスの重複を防ぐため、MAC アドレス生成に使用されます。したがって、BS1000、BS2000、BS320 などを含むすべての HVM 毎にユニークな値を設定してください。

VNIC System Noは、すべてのLPARがDeactivateときのみ変更できます。

VNIC System Noは初期設定で0に設定されていますが、HVMの最初の起動時に0以外の値を設定しないとHVMが操作できません。

HVMは、設定されたVNIC System NoがほかのHVMのVNIC System Noと重複しているかチェックを行いません。

VNIC System Noにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。VNIC System Noを入力して[Enter]を押します。

(9) Alert Language を変更するには？

Alert Languageにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Alert Languageを選択して[Enter]を押します。

(10) Virtual Console Port を変更するには？

Virtual Console Portは、すべてのLPARがDeactivateときのみ変更できます。

Virtual Console Portの値を変更した場合、TCPポートが変更されますのでゲストスクリーンへの再接続が必要になります。変更したVirtual Console Portの値がほかのアプリケーションで使用しているTCPポートと衝突した場合、ゲストコンソールへの接続ができない場合があります。

Virtual Console Portにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Virtual Console Portを入力して[Enter]を押します。

(11) HVM CLI IP Address を変更するには？



注意

- 変更内容を反映するのに[F10] (Update System Config)による操作は不要です。なお、変更内容が反映されるのに 10 秒程度かかる場合があります。

【HVMファームウェアバージョン 17-7X以降】

マルチキャストアドレス、ブロードキャストアドレスは設定しないでください。

HVM CLI IP Addressにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。HVM CLI IP Addressを入力して[Enter]を押します。

(12) 変更内容を HVM に反映するには？



注意

- [F10] (Update System Config)による操作は、Activate 中の LPAR がないときに行ってください。Activate 中の LPAR があるときに本操作を行った場合、LPAR のネットワーク通信が数分間途絶えます。また、JP1/SC/BSMに表示されるHVMの状態は、非活性化状態になり、この間、障害通知が行われません。
- [F10] (Update System Config)による操作は、HVM 稼働中の一時的な変更手段を本スクリーンにて提供するものであり、HVM を再起動すると設定した内容は消えてしまいます。設定した内容を保存するためには、HVM Menu スクリーンから[F9] (Save Configuration)を実行してください。
- BSM IP Address、BSM Alert Port および Alert Language の設定を本スクリーンで変更した場合、設定された値はHVMが稼働している間だけの一時的な変更であり、[F9] (Save Configuration)では保存されません。HVM 起動時はマネジメントモジュールに設定された値が初期値として反映されます。

System Configurationスクリーンでの変更内容は、[F10] (Update System Config)を押して、設定確認サブスクリーンでYesを選択するとHVMに反映します。

Yesを選択した場合、変更が終了するのに2~3分かかり、その間HVMへの操作はできません。

変更をやめたい場合は、[F10] (Update System Config)を押して、設定確認サブスクリーンでNoを選択します。変更した内容はすべてもとに戻ります。

変更をHVMに反映し終わるまでには時間を要するため、変更処理が確実に終わるまでは、他スクリーンへの移動を抑止しています。もし、他スクリーンへの移動を行いたい場合は、[F10] (Update System Config)でYesを選択して反映を完了させるか、もしくはNoを選択して変更をキャンセルしてください。

System Service State

System Service Stateスクリーンを以下に示します。

```

+-----+
|+- System Service State -----+
|+- System Service-----+++ Virtual LAN Segment State-----+
|| ① SVP Access : RUN          || PORT#/NIC# : V 1 2 3 4 5 6 ||
|| ② BSM Access : RUN          || ⑪ a ⑫ : D A D             ||
|| ③ HA Monitor  : RUN          ||      b : D A D             ||
||                  :          ||      c : D                  ||
||                  ④ Force Recovery ||      d : D ⑬              ||
+-----+
|+- Hardware Component-----+++ Internal Path State-----+
|| ⑤ BMC          : RUN          || ⑭ Connect:Success Link:Yes  Port#:0 ||
+-----+
|+- Shared PCI Device Port State-----+
|| ⑥ TYPE        : N  N  F  N   ||
|| ⑦ NIC#        : 1*  2  -  3   ||
|| PORT#/SLOT#  : G80 G81 E80  8   ||
|| ⑧ 0 ⑨        : U  U  A  U   ||
||      1        : U  U  A  D   ||
||      2        : ⑩              ||
||      3        :                ||
+-----+
|⑮Space Key:Status Refresh                               Esc:Menu |
+-----+

```

本スクリーンの各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明	初期値
①	SVP Access	マネジメントモジュールのアクセス状態を表示します。 RUN : サービスが正常に動作しています。 STOP : サービスが停止しています。 ERROR : サービスがエラー状態にあります。 UNKNOWN : サービスパトロールからの更新が行われていない状態にあります。	STOP
②	BSM Access	BSMのアクセス状態を表示します。 RUN : サービスが正常に動作しています。 STOP : サービスが停止しています。 ERROR : サービスがエラー状態にあります。 UNKNOWN : サービスパトロールからの更新が行われていない状態にあります。	STOP
③	HA Monitor	HA Monitorの状態を表示します。 RUN : サービスが正常に動作しています。 STOP : サービスが停止しています。 ERROR : サービスがエラー状態にあります。 UNKNOWN : サービスパトロールからの更新が行われていない状態にあります。	STOP
④	Force Recovery	System Serviceが正常動作していない場合、System Serviceの回復を行う場合に実行します。	-
⑤	BMC	BMCの状態を表示します。 RUN : サービスが正常に動作しています。 ERROR : サービスがエラー状態にあります。	RUN
⑥	TYPE	共有モードのPCIデバイスの種類を表示します。 N : NIC(Network interface Card) F : FC(Fibre Channel)	-
⑦	NIC#	<ul style="list-style-type: none"> Device TypeがNの場合 共有NIC番号(1~6)を表示します。 Device TypeがFの場合 「-」を表示します。 	-
⑧	PORT#	ポート番号を表示します。	-
⑨	SLOT#	スロット番号を表示します。	-
⑩	Shared PCI Device Port State	共有モードのPCIデバイスの状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> Device TypeがNの場合 U : Link Up状態です。 D : Link Down状態です。 	D

No.	項目	説明	初期値
		E : 回復不能な障害状態であるため利用できません。 - : 状態が不明です。 空白 : 共有NICは定義されていません。 ・ Device TypeがFの場合 A(Available) : 正常で利用可能です。 D(LinkDown) : ケーブルが接続されていないため利用できません。 C(ConfigCheck) : 構成上の問題で利用できません。 E(ErrorCheck) : 回復不能な障害状態であるため利用できません。	
⑪	PORT#	ポート番号(a、b、c、d)を表示します。	-
⑫	NIC#	NIC番号(V、1～6)を表示します。	-
⑬	Virtual LAN Segment State	仮想LANセグメントの状態を表示します。 A : Active状態です。 S : Standby状態です。 D : Down状態です。 F : Fault状態です。 空白 : 共有NICではありません。	-
⑭	Internal Path State	内部パスの状態を表示します。 Connect : 内部パスの接続成否をSuccess/Failで表示します。 Link : 内部パスのリンク状態をYes/Noで表示します。 Port# : 内部パスのポート番号を示します。	-
⑮	Space Key	スペースキーを押すことにより、本スクリーンが更新されます。	-

(1) System Service を正常な状態に回復するには？



- Force Recoveryによる操作は、Activate中のLPARがないときに行ってください。Activate中のLPARがあるときに本操作を行った場合、LPARのネットワーク通信が数分間途絶えます。また、JP1/SC/BSMに表示されるHVMの状態は、非活性化状態になり、この間、障害通知が行われません。

Force Recoveryカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Yesを選択して[Enter]を押します。

Force Recoveryが終了するのに2～3分かかり、その間HVMへの操作はできません。

Date and Time

HVMが検出した物理SEL(System Event Log)を各LPARに報告するために論理SEL時刻をLPAR毎に設定します。

本スクリーンで変更した値の自動保存はしません。HVMを再起動すると設定した値は消えてしまうため、明示的にHVM Menuスクリーンから[F9] (Save Configuration)により保存する必要があります。

ただし、HVMシステム時刻については装置稼働中の一時的な変更手段を本スクリーンにて提供するものであり、[F9] (Save Configuration)では保存されません。恒久的にHVMシステム時刻を設定するためには、システム装置時刻を変更してください。

本スクリーンは1秒間隔でスクリーンを更新するため、カーソル表示が安定しません。また、時刻が更新途中の状態が表示される場合があります。

Date and Timeスクリーンを以下に示します。

```

+-----+
|+- Logical Partition(LPAR) Date and Time -----① LPAR RTC -----+|
|| # Name Sta Time Mode Date and Time Time Zone Init RTC ||
|| 1 LPAR1 Dea ----- yyyy/mm/dd hh:mm:ss ----- 0 ||
|| 2 LPAR2 Dea ----- yyyy/mm/dd hh:mm:ss ----- 0 ||
|| 3 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ||
|| 4 ||
|| 5 ||
|| 6 ||
|| 7 ||
|| 8 ||
|| 9 ||
|| 10 ||
|+-----+
|-----②-----+
|-----+
|-----⑫ [PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down -----+
|+- System Date and Time -----+
|| Date and Time yyyy/mm/dd hh:mm:ss Time Zone + 9:00 Adjust LPAR Time ||
|+-----+
|-----⑨-----+
|-----⑩-----+
|-----⑪-----+
|-----+
|⑬F6:Change System Date and Time F7:Change System Time Zone Esc:Menu |
+-----+

```

本スクリーンの各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明	初期値
①	Select Display	表示する時刻情報を指定します。初期値は現在のRTC時刻(LPAR RTC)を表示するように設定されています。 LPAR RTC : LPARの現在のRTC時刻を表示します。 LPAR SEL Time : LPARの論理SEL時刻を表示します。 Last Activated : LPARが最後にActivateされた時のRTC時刻を表示します。 Last Deactivated : LPARが最後にDeactivateされた時のRTC時刻を表示します。 RTC Last Modified : 最後にゲストが更新したLPARのRTC時刻を表示します。	LPAR RTC
②	#	LPAR番号を表示します。	-
③	Name	LPAR名称を表示します。	NO_NAME
④	Sta	LPARの状態を表示します。 Act(Activate) : 電源が入っている状態です。 Dea(DeActivate) : 電源が切れている状態です。 Fai(Failure) : 回復不能な障害により、使用ができない状態です。 この状態の場合は、HVMを再起動してください。	Dea
⑤	Time Mode	SEL時刻モードを設定します。 GMT : GMT(Greenwich Mean Time)モードです。 Local-Time : ローカルタイムモードです。 SEL時刻モードはSelect DisplayでLPAR SEL Timeを表示した場合に設定できます。	Local-Time

No.	項目	説明	初期値
⑥	Date and Time	Select Displayで選択している時刻を表示します。 フォーマットは「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」です。 YYYY : 西暦年 MM : 月 DD : 日 hh : 時間(24時間表記) mm : 分 ss : 秒 最小値は2000/01/01 00:00:00、最大値は2099/12/31 23:59:59です。 Select DisplayでLPAR SEL Timeを表示した場合はSEL時刻の設定もできません。 SEL時刻モードがローカルモードの時、SEL時刻ゾーンが加算された時刻が表示されます。 SEL時刻モードがGMTの時、SEL時刻ゾーンは加算されません。 LPARに報告する論理SELのタイムスタンプはこのSEL時刻になります。	-
⑦	Time Zone	SEL時刻ゾーンを設定します。 SEL時刻モードがローカルタイムモードのとき、この値を変更するとSEL時刻も合わせて変更されます。 1時間単位で指定でき、最小値は-12時間、最大値は+12または+14時間です。 日本国内では+9:00に設定することを推奨します。 SEL時刻モードがGMTモードのときには本フィールドは変更できません。 SEL時刻ゾーンの設定はSelect DisplayでLPAR SEL Timeを表示した場合に限ります。	HVMシステム時刻ゾーン
⑧	Init RTC	構成情報に保存されているLPAR RTC時刻のシステム時刻との差分値を10進数で表示します。この値はHVM立ち上げ直後に決まる値であり、HVM稼働中には変更されません。 初期RTC値はSelect DisplayでRTC Last Modifiedを表示した場合に表示されます。	0
⑨	Date and Time	HVMシステム時刻を設定します。 HVM起動時にシステム装置時刻が初期値として反映されます。	-
⑩	Time Zone	HVMシステム時刻ゾーンを設定します。 HVMシステム時刻とGMTの時差を示すものであり、この値を変更してもHVMシステム時刻の変更は行われません。 1時間単位で指定でき、最小値は-12時間、最大値は+12または+14時間です。 日本国内では+9:00に設定することを推奨します。 HVMシステム時刻ゾーンはLPAR作成時にSEL時刻ゾーンに設定されます。	+ 0:00
⑪	Adjust LPAR Time	LPAR単位、または全てのLPARのRTC時刻とSEL時刻をシステム装置時刻に合わせます。 このとき、変更対象のLPARの最終Activate RTC時刻、最終Deactivate RTC時刻、最終RTC更新RTC時刻も合わせてクリアされます。 All LPAR : 全てのLPARのRTC時刻、SEL時刻をシステム装置時刻に合わせます。 LPAR名称 : 指定したLPARのRTC時刻、SEL時刻をシステム装置時刻に合わせます。	-
⑫	[PageUp] / [PageDown]	本スクリーンで使用できるページキーを表示します。 Page Up : ページを上へスクロールしてスクリーンを表示します。 Page Down : ページを下へスクロールしてスクリーンを表示します。	-
⑬	Function Key	本スクリーンで使用できるファンクションキーを表示します。 F6 : HVMシステム時刻を変更するときに使用します。 F7 : HVMシステム時刻ゾーンを変更するときに使用します。	-

LPARの状態に対するHVMスクリーン操作を以下に示します。

項目	LPARの状態			備考
	Activate	Deactivate	Failure	
LPAR Date and Time				
Select Display	○	○	○	-
Name	×	×	×	表示のみ
Sta	×	×	×	表示のみ
Time Mode	×	△	×	時刻表示が「LPAR SEL Time」の場合のみ
Date and Time	×	△	×	時刻表示が「LPAR SEL Time」の場合のみ
Time Zone	×	△	×	時刻表示が「LPAR SEL Time」の場合のみ SEL時刻モードが「Local-Time」の場合のみ
Init RTC	×	×	×	表示のみ
System Date and Time				
Date and Time	○	○	○	-
Time Zone	○	○	○	-
Adjust LPAR Time	×	○	×	-

○: 変更可能、×: 変更不可、△: 条件付きで変更可能

(1) LPARの時刻を設定するには？

LPAR上のEFIあるいはOSが提供する操作環境にて設定できます。NTPサーバと連携することでLPARの時刻を設定する方法もあります。

なお、LPAR上で時刻を更新した場合、OSによっては即座にLPAR RTCの表示に反映される場合もありますが、OSのブートやシャットダウン時に反映される場合があります。

Date and TimeスクリーンでLPARのRTC時刻をシステム装置時刻に合わせることもできます。

(2) LPARのRTC時刻をシステム装置時刻に合わせるには？

LPARの時刻をシステム装置時刻に合わせる操作は、Deactivate状態にあるLPARに対してのみ操作できます。

右下のAdjust LPAR Timeにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。LPAR名称を選択して[Enter]を押します。

(3) 時刻表示を切り替えるには？

右上のSelect Displayにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。表示する時刻を選択して[Enter]を押します。

(4) LPARのSEL時刻モードを変更するには？

SEL時刻モードは、当該LPARがDeactivate状態の時のみ変更できます。

「GMT」を指定するとSEL時刻にSEL時刻ゾーンを加算しません。「Local-Time」を指定するとSEL時刻にSEL時刻ゾーンを加算します。

右上のSelect Displayにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。LPAR SEL Timeを選択して[Enter]を押します。LPARのSEL時刻が表示されます。

SEL時刻モードを変更するLPAR行のTime Mode列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。SEL時刻モードを選択して[Enter]を押します。

(5) LPARのSEL時刻を変更するには？

SEL時刻は、当該LPARがDeactivate状態の時のみ変更できます。

右上のSelect Displayにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。LPAR SEL Timeを選択して[Enter]を押します。LPARのSEL時刻が表示されます。

SEL時刻を変更するLPAR行のDate and Time列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。SEL時刻を選択して[Enter]を押します。

(6) LPAR の SEL 時刻ゾーンを変更するには？

SEL時刻ゾーンは、当該LPARがDeactivate状態の時のみ設定できます。

右上のSelect Displayにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。LPAR SEL Timeを選択して[Enter]を押します。LPARのSEL時刻が表示されます。

SEL時刻ゾーンを変更するLPAR行のTime Zone列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。SEL時刻ゾーンを選択して[Enter]を押します。

(7) HVM システム時刻を変更するには？

[F6] (Change System Date and Time)を押すと、サブスクリーンが表示されます。変更するHVMシステム時刻を入力して[Enter]を押します。

ただし、西暦の設定範囲は2000～2099の範囲内です。

(8) HVM システム時刻のゾーンを変更するには？

注意

- 使用するシステム装置時刻は、あらかじめ西暦 2000 年～2037 年の範囲内に設定してください。もし設定されていない場合、本スクリーンでの時刻設定処理の正常動作を保障することができません。また、本スクリーンでLPARのSEL時刻やHVMシステム時刻を設定する場合、西暦2000年～2099年の範囲まで設定できますが、設定後の時刻が2037年を超えた場合、HVM時刻処理の正常動作は保障できません。したがって、各種時刻設定を行う場合は、HVM運用中に2037年を超えないような値に設定してください。
- LPAR の SEL 時刻ゾーンと HVM システム時刻ゾーンは必ず一致させてください。一致していないと LPAR の SEL 時刻がずれて表示されることがあります。一致していれば特に問題ありませんが、LPARのSEL時刻ゾーンとHVMシステム時刻ゾーンは、日本国内では+9:00に設定することを推奨します。

[F7] (Change System Time Zone)を押すと、サブスクリーンが表示されます。変更するシステム時刻ゾーンを選択して[Enter]を押します。

No.	項目	説明	初期値
⑨	-	NVRAMを初期化する対象となるLPARを表示します。 Deactivate状態のLPARのみ指定することができます。LPARが定義されていないとき、またはLPARが定義されているが全LPARがActivateしているとき、「Select」と表示します。 指定しているLPARがActivate状態の場合、自動的にDeactivate状態のLPARに変更されます。	-
⑩	Copy NVRAM	⑪で指定するLPARのNVRAMの内容を⑫で指定するLPARのNVRAMにコピーします。 ⑪または⑫が「Select」と表示しているときはこの操作を実行できません。(カーソル移動ができません)	-
⑪	-	NVRAMのコピー処理にてコピー元となるLPARを表示します。 LPARが定義されていないとき「Select」と表示します。	-
⑫	-	NVRAMのコピー処理にてコピー先となるLPARを表示します。 Deactivate状態のLPARのみ指定することができます。LPARが定義されていないとき、またはLPARが定義されているが全LPARがActivateしているとき、「Select」と表示します。 指定しているLPARがActivate状態の場合、自動的にDeactivate状態のLPARに変更されます。	-
⑬	Take HVM Dump	HVMダンプを採取します。 この操作により採取するHVMダンプは障害が発生した場合の障害解析に使用します。 通常の運用ではHVMダンプを採取する必要はありません。装置に異常がみられる場合にHVMダンプを採取していただく場合があります。	Execute

(1) Pre-State Auto Activation とは？

LPARのActivate状態、Deactivate状態が確定したときにLPARの状態を保存し、電源供給に障害があった場合や、強制的にサーバブレードの電源を切断した後にHVMが再起動したときに、保存されている状態でLPARを自動Activateして、LPARを再起動前と同じ状態に復帰させる機能です。

HVMのシャットダウンを行った場合は、Pre-State Auto ActivationをYesに設定していても本機能による自動Activateは行われません。

N+Mコールドスタンバイ機能を使用する場合、交替先のパーティションでLPARを自動ActivateさせるためにPre-State Auto ActivationをYesに設定する必要があります。

Pre-State Auto Activationによる自動Activateでは、Auto Activation Orderの設定は適用しません。この自動Activateでは、LPAR 番号の小さい方から自動Activateを実行します。また、何らかの原因で(割り当てメモリが確保できないなど)、あるLPARの自動Activateが失敗した場合、以降のLPARの自動Activateは実行しません。

自動Activate開始前に15秒間当該処理のキャンセルを受け付ける状態になります。自動Activate処理をキャンセルしたい場合は、このとき[Ctrl] + cを長押ししてください。なお、自動Activate処理が開始されるとキャンセルはできません。

(2) Pre-State Auto Activation を変更するには？

Pre-State Auto Activationにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Yes/Noを選択して[Enter]を押します。

(3) HVM 自動シャットダウンを変更するには？



- UPSによるシステム装置の電源の切断を行う場合には、HVM Auto ShutdownをYesにしてください。
- LPARマイグレーション実施中は、HVM Auto Shutdownは無効になります。(Noと同じ動作になります)

HVM Auto Shutdownにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Yes/Noを選択して[Enter]を押します。

(4) 電源制御スケジュールによるシャットダウン処理を解除するには？

JP1/SC/BSMの電源制御スケジュールを使用してHVMのシャットダウンを行う場合には、シャットダウン時刻になるとシャットダウン状態がReadyからInProgressに変更され、シャットダウン処理が開始されます。このときLPARのActivate操作は抑止されます。このシャットダウン処理を解除するには、以下の手順で行います。

Shutdown Stateにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Yesを選択して[Enter]を押します。

なお、シャットダウン処理が開始されてから30分以内にすべてのLPARがDeactivate状態にならなかった場合は、シャットダウン処理がキャンセルされ、シャットダウン状態はReadyに戻ります。これにより、LPARのActivate操作の抑止も解除されます。

(5) HVM ハングアップ検出を変更するには？

HVM ErrorWatchingにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Yes/Noを選択して[Enter]を押します。

(6) Activate 時の確認サブスクリーンを表示しないためには？

Activationにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Noを選択して[Enter]を押します。確認サブスクリーンを表示するにはYesを選択してください。

あるいは、LPARのActivateを行い、確認サブスクリーンでContinue(Don't show this message)を選択して[Enter]を押すと、以降は確認サブスクリーンを表示しません。

```
+-----+
|          LPAR1 [LPAR1]          |
|  Activation means power-on.     |
|  Do you continue?               |
|                                  |
|          Continue               |
|          Cancel                 |
|  Continue(Don't show this message) |
+-----+
```

(7) Deactivate または Reactivate 時の確認サブスクリーンを表示しないためには？

Deactivation and Reactivationにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。

Noを選択して[Enter]を押します。確認サブスクリーンを表示するにはYesを選択してください。

あるいは、LPARのDeactivateを行い、確認サブスクリーンでYes(Don't ask anymore)を選択して[Enter]を押すと、以降は確認サブスクリーンを表示しません。

```
+-----+
|          LPAR1 [LPAR1]          |
|  Deactivation means power-off.   |
|  Do you continue?               |
|                                  |
|          Yes                    |
|          No                     |
|  Yes(Don't ask anymore)         |
+-----+
```

または、LPARのReactivateを行い、確認サブスクリーンでYes(Don't ask anymore)を選択して[Enter]を押すと、以降は確認サブスクリーンを表示しません。

```
+-----+
|          LPAR1 [LPAR1]          |
|  Reactivation means reset.      |
|  Do you continue?               |
|                                  |
|          Yes                    |
|          No                     |
|  Yes(Don't ask anymore)         |
+-----+
```

(8) Screen Switching Character を変更するには？

[Ctl] + Iにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。変更する文字を入力して[Enter]を押します。

LPAR Usage

本スクリーンはSampling timeで設定した間隔でスクリーンを更新するため、カーソル表示が安定しません。

LPAR Usageスクリーンを以下に示します。
HVMファームウェアバージョンにより画面操作が異なります。

【HVMファームウェアバージョン 17-4X以前】

```

+-----+
|+- LPAR Usage -----⑮(Sampling time 5 )---⑯Proc(D: 2( 2) , S:14(14) )-----+
|| # Name      Shr Ded SrvRatio Srv(%) Srv(ms) Dsp(ms) Busy(%) Dsp(%) PC ||
|| 1 LPAR1     2  -  100  14.2* 2000*  19    0.9   0.1   N  ||
|| 2 LPAR2     -  2  ---   ---   2000   17    0.8   ---   *  ||
|| 3 ②         ③ ④   ⑧   ⑨   ⑩     ⑪     ⑫     ⑬   ⑭ ||
|| 4          ||
|| 5          ||
|| 6          ||
|| 7          ||
|| 8          ||
|| 9          ||
|| 10         ||
+-----+
|⑰Ded LPAR Total      ---   ---   2000   17    0.8   ||
|⑱Shr LPAR Total     100  14.2* 2000*  19    0.9   ||
+-----+
|⑳LPAR Total          ||
|㉑SYS1                210   1.3   ||
|㉒SYS2                149   0.9   ||
+-----+
|㉓System Total        16000  395   2.4   ||
+-----+
|⑳[PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down                               Esc:Menu |
+-----+

```

【HVMファームウェアバージョン 17-6X以降】

```

+-----+
|+- LPAR Usage ⑮(Sampling time 5 )⑯Proc(D: 2( 2), S: 14( 14) )⑰Grp(All)-----+
|| # Name      Scd Pro Grp SrvRatio Srv(%) Srv(ms) Dsp(ms) Busy(%) Dsp(%) PC ||
|| 1 LPAR1     S  2  0  ---   ---   2000*  12    0.6   ---   N  ||
|| 2 LPAR2     D  2  0  ---   ---   2000   977   48.8   ---   *  ||
|| 3 ②         ⑤ ⑥ ⑦   ⑧   ⑨   ⑩     ⑪     ⑫     ⑬   ⑭ ||
|| 4          ||
|| 5          ||
|| 6          ||
|| 7          ||
|| 8          ||
|| 9          ||
|| 10         ||
+-----+
|⑰Ded LPAR Total      ---   ---   2000   977   48.8   ||
|⑱Shr LPAR Total     ---   ---   2000*  12    0.6   ||
+-----+
|⑳LPAR Total          ||
|㉑SYS1                281   1.7   ||
|㉒SYS2                178   1.1   ||
+-----+
|㉓System Total        16000  1448  9.0   ||
+-----+
|⑳[PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down                               Esc:Menu |
+-----+

```

本スクリーンの各項目に関する説明を以下に示します。

No.	項目	説明	初期値	サポートバージョン
①	#	LPAR番号を表示します。	-	17-2X~
②	Name	LPAR名称を表示します。	NO_NAME	17-2X~
③	Shr	共有モードのとき、共有プロセッサ数を表示します。 占有モードのとき、「-」を表示します。	-	~17-4X
④	Ded	占有モードのとき、占有プロセッサ数を表示します。 共有モードのとき、「-」を表示します。	-	~17-4X
⑤	Scd	スケジューリングモードを表示します。 S : 共有モード D : 占有モード	D	17-6X~
⑥	Pro	論理プロセッサ数を表示します。	-	17-6X~
⑦	Grp	プロセッサグループ番号を表示します。	-	17-6X~
⑧	SrvRatio	共有モードのとき、サービス率を表示します。 このフィールドの値はLogical Partition ConfigurationスクリーンのService Ratio(Srv)で設定した値です。 ※Grp(ALL)の場合は、「-」を表示します。 占有モードのとき、「-」を表示します。	---	17-2X~
⑨	Srv(%)	共有モードのとき、共有モードのLPARに割り当てられた正常に稼働している物理プロセッサが持つサービス時間の合計値に対する、当該LPARのサービス時間の割合を表示します。 HVM内部で計算したService Percentageが、Service Ratioの割合と一致しない場合、右横に「*」を表示します。一致する場合は、「*」を表示しません。 ※Grp(ALL)の場合は、「-」を表示します。 占有モードのとき、「-」を表示します。	---	17-2X~
⑩	Srv(ms)	当該LPARのサービス時間の合計をミリ秒単位で表示します。 占有モードのとき、本フィールドの値は、以下の計算式になります。 $Srv(ms) = \text{当該LPARの正常に稼働している物理プロセッサ数} \times 1000$ 共有モードのとき、本フィールドの値は、以下の計算式になります。 $Srv(ms) = \text{共有モードLPARに割り当てられた正常に稼働している物理プロセッサ数} \times \text{当該LPARのSrv(\%)} \times 1000$ このとき、Srv(%)が「*」表示の場合、本フィールドの右横に「*」を表示します。	---	17-2X~
⑪	Dsp(ms)	当該LPARの実行時間をミリ秒単位で表示します。 これは、当該LPARに属する論理プロセッサの実行時間の合計となります。	---	17-2X~
⑫	Busy(%)	当該LPARのビジー率を表示します。 これは当該LPARのサービス時間における実行時間の割合であり、以下の計算式になります。 $Busy(\%) = \text{当該LPARの実行時間} \div \text{当該LPARのサービス時間} \times 100$ リソース変更の目安として本フィールドの値を使用します。本フィールドの値が100%を超えている場合、そのLPARはリソース不足の状態にあることを意味します。 プロセッサキャッピング機能を有効にすると、ビジー率が100%を超えないように制御が行われます。そのため、リソース変更の目安として本フィールドの値を使用することはできません。 ※プロセッサキャッピングが有効でも、HVMのサービス率制御の誤差によって、最大で共有モードLPARに割り当てられた正常に稼働している物理プロセッサが持つサービス時間の合計値の1%分が多く割り当てられ、ビジー率が100%を超える場合があります。	---	17-2X~
⑬	Dsp(%)	共有モードのとき、共有モードのLPARに割り当てられた正常に稼働している物理プロセッサが持つサービス時間の合計値に対する当該LPARの実行時間の割合を表示します。 本フィールドの値は、以下の計算式になります。 $Dsp(\%) = \text{当該LPARの実行時間} \div \text{共有モードLPARに割り当てられた正常に稼働している物理プロセッサが持つサービス時間の合計値} \times 100$ ※Grp(ALL)の場合は、「-」を表示します。 占有モードのとき、「-」を表示します。	---	17-2X~
⑭	PC	Logical Partition Configurationスクリーンで設定されているプロセッサキャッピング機能の設定状態を表示します。 Y : プロセッサキャッピングが有効です。 N : プロセッサキャッピングが無効です。 * : 当該LPARは占有モードです。 - : 当該LPARはActivate状態ではありません。	-	17-2X~
⑮	Sampling time	本スクリーンの更新間隔を秒単位で設定します。 更新間隔は1~60まで設定できます。	5	17-2X~

No.	項目	説明	初期値	サポートバージョン
⑩	Proc	占有および共有に割り当てられている物理プロセッサ数を表示します。	---	17-2X~
		<p>D : 占有モードに割り当てられた物理プロセッサの総数を表示します。 フォーマットは「n (m)」です。 n : 正常に稼働している占有モードに割り当てられた物理プロセッサの総数を表示します。 m : 占有モードに割り当てられた全ての物理プロセッサの総数を表示します。</p> <p>S : 共有モードに割り当てられた物理プロセッサ数を表示します。 フォーマットは「n (m)」です。 n : 正常に稼働している共有モードに割り当てられた物理プロセッサの総数を表示します。 m : 共有モードに割り当てられた全ての物理プロセッサの総数を表示します。</p> <p>S = 物理プロセッサの総数 - 占有モードに割り当てられた物理プロセッサの総数</p>		
⑪	Grp	<p>表示するプロセッサグループを選択します。 All : システム全体表示 プロセッサグループ番号 : プロセッサグループ指定表示</p> <p>※プロセッサグループ番号指定の場合は、そのグループに属する情報のみを表示します。</p>	All	17-6X~
⑫	Ded LPAR Total	占有モードの各種合計値を表示します。	---	17-2X~
		SrvRatioとSrv(%)は「---」を表示します。		
		Srv(ms)には、占有モードのサービス時間の合計値を表示します。		
		Dsp(ms)には、占有モードの実行時間の合計値を表示します。		
		<p>Busy(%)には、占有モードのビジー率の合計値を表示します。 本フィールドの値は以下の計算式となります。 $Busy(\%) = \text{占有モードLPARの実行時間の合計値} \div \text{占有モードLPARのサービス時間の合計値} \times 100$</p>		
⑬	Shr LPAR Total	共有モードの各種合計値を表示します。	---	17-2X~
		SrvRatioには、共有モードのSrvRatioの合計値を表示します。		
		※Grp(ALL)の場合は、「---」を表示します。		
		Srv(%)には、共有モードのSrv(%)の合計値を表示します。共有モードLPARの中に「*」表示のSrv(%)の値が含まれる場合、本値の右横に「*」を表示します。		
		※Grp(ALL)の場合は、「---」を表示します。		
		Srv(ms)には、共有モードのサービス時間の合計値を表示します。共有モードLPARの中に「*」表示のSrv(ms)の値が含まれる場合、本値の右横に「*」を表示します。		
		Dsp(ms)には、共有モードの実行時間の合計値を表示します。		
		<p>Busy(%)には、共有モードのビジー率の合計値を表示します。 本フィールドの値は以下の計算式となります。 $Busy(\%) = \text{共有モードLPARの実行時間の合計値} \div \text{共有モードLPARのサービス時間の合計値} \times 100$</p>		
⑭	LPAR Total	すべてのLPARの各種合計値を表示します。	---	17-2X~
		Dsp(ms)には、すべてのLPARの実行時間の合計値を表示します。		
		Busy(%)には、すべてのLPARのビジー率の合計値を表示します。		
		本フィールドの値は以下の計算式となります。 $Busy(\%) = \text{すべてのLPARの実行時間の合計値} \div \text{システムサービス時間} \times 100$		
⑮	SYS1	実行時間とビジー率を表示します。 SYS1は、HVMのカーネル部の処理を意味します。	---	17-2X~
		※切り離された障害プロセッサの実行時間とビジー率はSYS1に含まれます。		
		Dsp(ms)には、SYS1の実行時間を表示します。		
		Busy(%)には、SYS1のビジー率を表示します。 本フィールドの値は以下の計算式となります。 $Busy(\%) = \text{SYS1の実行時間} \div \text{システムサービス時間} \times 100$		
⑯	SYS2	実行時間とビジー率を表示します。 SYS2は、HVMの通信部および、サービス制御部の処理を意味します。	---	17-2X~
		Dsp(ms)には、SYS2の実行時間を表示します。		
		Busy(%)には、SYS2のビジー率を表示します。 本フィールドの値は以下の計算式となります。 $Busy(\%) = \text{SYS2の実行時間} \div \text{システムサービス時間} \times 100$		
⑰	System Total	システムサービス時間、システムビジー時間、およびシステムビジー率を表示	---	17-2X~

No.	項目	説明	初期値	サポートバージョン
		<p>します。</p> <p>Srv(ms)には、システムサービス時間を表示します。 これはシステムの正常に稼働している物理プロセッサが持つサービス時間の合計値であり、本フィールドの値は以下の計算式となります。 Srv(ms) = 正常に稼働している物理プロセッサ数 × 1000</p> <p>Dsp(ms)には、システムビジー時間を表示します。 これは、すべてのLPARの実行時間の合計値とSYS1、SYS2の実行時間を加算した値を表示します。</p> <p>Busy(%)には、システムビジー率を表示します。 これはシステム全体のビジー率であり、本フィールドの値は以下の計算式となります。 Busy(%) = システムビジー時間 ÷ システムサービス時間 × 100</p>		
⑭	[PageUp] / [PageDown]	<p>本スクリーンで使用できるページキーを表示します。 Page Up : ページを上へスクロールしてスクリーンを表示します。 Page Down : ページを下へスクロールしてスクリーンを表示します。</p>	-	17-2X~

(1) Sampling time を変更するには？

左上のSampling timeにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。変更したい数字を入力して[Enter]を押します。

(2) プロセッサグループ指定表示に切り替えるには？

【HVMファームウェアバージョン 17-6X以降】

右上のGrpにカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。変更したいプロセッサグループ番号を選択して[Enter]を押します。

(1) LPAR のシステム状態を確認するには？

システム状態を確認したいLPAR行のLiquid Crystal Display列の項目を参照してください。

(2) ゲスト OS のダンプを採取するには？



- 本操作により、NMI 割り込みを LPAR に対して発行して、ゲスト OS のメモリダンプを採取します。ダンプの採取はゲスト OS にダメージを与える可能性もあるため、この操作を行う場合は注意が必要です。

ダンプ採取は、当該LPARがActivate状態のときのみ実行できます。

ダンプを採取するLPAR行のDump列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されず。Yesを選択して[Enter]を押します。

さらに操作の継続を確認するサブスクリーンを表示します。再度Yesを選択して[Enter]を押します。

(3) コンソールログデータとは？

ゲストOS実行時に出力されるスクリーンデータのことを意味します。HVMは、スクリーンデータの中で特に文字データを、内部バッファ(1500行分)に保持します。コンソールログデータが内部バッファの行数を超えた場合、古いデータから順に上書きします。

(4) コンソールログデータを採取するには？

ログ表示を開始してから終了するまで2~3分の時間を要します。この間、HVMへの操作は不可となります。本操作でスクリーン上にコンソールログデータを表示することにより、ターミナルソフトのスクロールバッファデータとしてゲストのスクリーンデータを採取し、参照することが可能となります。

なお、コンソールログ表示中に当該LPARゲストスクリーンが更新された場合、更新内容がログに反映されない場合があります。

コンソールログデータを採取するLPAR行のCLD列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Yesを選択して[Enter]を押します。

(5) コンソールログデータを消去するには？

HVM内部に持つ当該LPARのコンソールログデータをバッファ上から消去します。

コンソールログデータを消去するLPAR行のCLE列にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、サブスクリーンが表示されます。Yesを選択して[Enter]を押します。

(6) Migration Failed の LPAR を回復するには？

Migration FailedのLPARが存在している場合には、回復処理を実施してください。

回復処理手順については、「[BladeSymphony Virtage Navigator ユーザーズガイド LPAR マイグレーション編](#)」を参照してください。

2.2.3 HVMダンプの取り出し

- 1 SVPコマンドモードのDLコマンドで、HVMダンプを圧縮します。
約5～6分後に2つのファイル(erf-yyyyymmdd-hhmmss.gz、trc-yyyyymmdd-hhmmss.tar.gz)が作成されます。

```
SVP>DL [Enter]

<<Display Logs- Display and Output Logs>>

 0 . System Event Log. (frequency)
 1 . System Event Log. (history)
 2 . E-mail/Assist Log.
 4 . Detail Log.
 6 . MAR Log.
 8 . Account Log.
 9 . Collect Failure Logs for E-mail Report.
10 . Environment Log.
12 . Switch Setting Command Log.
14 . SVP Console Access Log.
15 . Power monitoring Log.
16 . SVP Log.
 Q . Quit.
(0, 1, 2, 4, 6, 8, 9, 10, 12, 14, 15, 16, [Q]) : 9 [Enter]

Please input Unit Number for collecting logs.

 0 . Partition0
 1 . Partition1
 2 . Partition2
 3 . Partition3
 4 . Partition4
 5 . Partition5
 6 . Partition6
 7 . Partition7
 8 . Partition8
 9 . Partition9
10 . Other
(0-10, [Q]) : 0 [Enter]

Collecting Log Files. Wait for several minutes.

Done.

Log files are created as follows:
erf-20110217-094312.gz and trc-20110217-094312.tar.gz
```

- 2 コマンドプロンプトからマネジメントモジュールにFTP接続して、マネジメントモジュールからHVMダンプを取り出します。アカウント・パスワードについては初期設定値を表示しています。

```
D:\Documents and Settings\Administrator>ftp 192.168.0.1 [Enter] << マネジメントモジュールのIPアドレス
Connected to 192.168.0.1.
220 (vsFTPd 1.2.0)
User (192.168.0.1:(none)): svpconf [Enter]
331 Please specify the password.
Password: confpasswd [Enter] << エコーバックされません
230 Login successful.
ftp> bin [Enter]
200 Switching to Binary mode.
ftp> get erf-20110217-094312.gz [Enter]
200 PORT command successful. Consider using PASV.
150 Opening BINARY mode data connection for erf-20110217-094312.gz (64620 bytes)
.
226 File send OK.
ftp: 64620 bytes received in 0.05Seconds 1374.89Kbytes/sec.
ftp> get trc-20110217-094312.tar.gz [Enter]
200 PORT command successful. Consider using PASV.
150 Opening BINARY mode data connection for trc-20110217-094312.tar.gz (512481 bytes)
.
226 File send OK.
ftp: 512481 bytes received in 0.17Seconds 2979.54Kbytes/sec.
ftp> bye [Enter]
221 Goodbye.
```

2.3 メッセージ

2.3.1 HVMブートメッセージ

HVM起動時に表示されるHVMブートメッセージを以下に示します。

メッセージ内容	HVM-Loader detected error of network communication. Port0:Pxe Protocol Start failure. (No Media) HVM-Loader switched NIC port0 to port1. HVM-Loader detected error of network communication. Port1:Pxe Protocol Start failure. (No Media)
説明	HVMとマネジメントモジュール間で通信障害が発生したため、HVMが起動できません。
対処方法	「BladeSymphony BS320 設定ガイド スイッチモジュール編」の「内部接続方式による設定手順」を参照し、マネジメントモジュールとLANスイッチモジュールの設定を見直してください。

メッセージ内容	HVM Loader detected flash memory access error and load configuration from SVP.
説明	フラッシュメモリの故障を検出したため、自動でリカバリを実施しましたが、フラッシュメモリへのコピーが失敗したため、マネジメントモジュールから構成情報を読み込みました。
対処方法	このHVMシステムログがHVMを起動する毎に採取される場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	HVM Loader detected invalid configuration files.[version is unmatch] (ErrorCode:XXXXXXXXXXXXXXXXX AdditionalCode:XXXXXXXXXXXXXXXXX) Please Power Off Partition.
説明	不正なHVM構成情報ファイルのため、HVMが起動できません。
対処方法	正常なHVM構成情報ファイルをリストアしてください。

メッセージ内容	HVM Loader detected invalid Virtualization Technology setting in this system. MSR INFO [0XXXXXXXXXXXXXXXXX] Please set Virtualization Technology setting to enable.
説明	Virtualization Technologyの設定がDisabledになっているため、HVMが起動できません。
対処方法	BIOSセットアップメニューにより、Virtualization Technologyの設定をEnabledにしてください。

メッセージ内容	HVM Loader detected the damage of flash memory and recovered.
説明	フラッシュメモリの故障を検出したため、自動でリカバリを実施しました。
対処方法	特にありません。

メッセージ内容	Loading configuration file Invalid HVM configuration files exist in the SVP. Please restore valid HVM configuration files.
説明	マネジメントモジュール内のHVM構成情報ファイルが不正なため、マネジメントモジュールからHVM構成情報ファイルをリストアできません。正常なHVM構成情報ファイルをリストアしてください。
対処方法	正常なHVM構成情報ファイルをリストアしてください。

上記以外のエラーメッセージが出力された場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

2.3.2 HVMスクリーンメッセージ

HVMスクリーン操作時に表示されるHVMスクリーンメッセージを以下に示します。

メッセージ内容	Active LPAR Exist
説明	設定しようとしたLPARは、Activate中なので設定できません。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	LPARをDeactivateした後で再設定を行ってください。

メッセージ内容	All groups are already added.
説明	追加できるグループはありません。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定の処理を見直してください。

メッセージ内容	All LPARs are already defined.
説明	追加定義できるLPARはありません。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定の処理を見直してください。

メッセージ内容	Auto activation for LPARx results in error.
説明	LPARxのAuto Activationが失敗しました。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	後続のメッセージに従って対処してください。

メッセージ内容	Change HVM IP Address
説明	HVM IP Addressの変更(0.0.0.0 以外に変更)が必要です。
HVM動作	HVM IP Addressが変更されるのを待ちます。
対処方法	HVM IP Addressを変更してください。

メッセージ内容	Change VNIC System No
説明	VNIC System Noの変更(0以外に変更)が必要です。
HVM動作	VNIC System Noが変更されるのを待ちます。
対処方法	VNIC System Noを変更してください。

メッセージ内容	Count Over Shared NIC Config.
説明	NICのスケジューリングモードを共有に変更したとき、すでに共有のNICが上限値である6個存在します。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定処理を再検討してください。

メッセージ内容	Device Assign error.
説明	デバイスの接続、もしくは切り離しが失敗したことを意味します。
HVM動作	LPARのactivate時には、activate動作を中止します。 デバイスの使用先の変更のときには、デバイスの接続、もしくは切り離し動作を中止します。
対処方法	対象LPARを一旦deactivateした後、そのLPARに割り当てられているデバイスの再割り当てを行い、再度LPARをactivateしてください。

メッセージ内容	Device Schedule Mode is not Exclusive Shared.
説明	操作対象デバイスのスケジューリングモードが排他共有ではありません。
HVM動作	指定の動作を中止します。
対処方法	排他共有モードのデバイス(Schd:E)を選択してください。

メッセージ内容	Error Character
説明	入力された文字に誤りがあり設定処理が失敗しました。
HVM動作	文字設定を中止します。
対処方法	入力制限を見直してください。

メッセージ内容	Failed to save HVM configuration
説明	HVM構成情報の保存に失敗しました。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	System Service StateスクリーンのInternal Path Stateを確認してください。 LinkがNo、あるいはConnectがFailになっている場合は、内蔵LANスイッチの設定を確認してください。

メッセージ内容	Go to Shared FC Assign on Type=F & Schd=S.
説明	当該デバイスは共有FCなので、Shared Assignmentスクリーンで変更をお願いします。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	Shared Assignmentスクリーンで設定を行ってください。

メッセージ内容	Go to VNIC Assign on Type=N & Schd=S.
説明	当該デバイスは共有NICなので、VNIC Assignmentスクリーンで変更をお願いします。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	VNIC Assignmentスクリーンで設定を行ってください。

メッセージ内容	Guest operating system may not remove USB device(s) safely. Force to detach.
説明	切り離しの際、ゲストOSがUSBデバイスの取り外し処理を完了できていない可能性があります。
HVM動作	USBデバイスの切り離しのみ行い、ほかのLPARへのUSBデバイス割り当て変更を中止します。
対処方法	再度USBデバイスの割り当てを行ってください。

メッセージ内容	HVM is busy with another LPAR(X) activation process.
説明	LPAR Activation処理実行時、リソース確保以外でActivationが失敗しました。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	しばらく待ってから、指定の処理を再実行してください。

メッセージ内容	HVM is not executable condition for this request. Please wait.
説明	HVMは要求された処理が実行できる状況にありません。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	しばらくしてから再実行してください。

メッセージ内容	HVM is not ready for the operation
説明	HVM構成情報の保存が実行できませんでした。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	System Service Stateスクリーンで、Force Recoveryを実行してください。

メッセージ内容	HVM is recovering specified LPAR from failed-migration state. This operation prevents some operations from performing.
説明	LPARマイグレーションにて障害状態となったLPARの回復中のため、スクリーンによる操作が禁止されています。
HVM動作	LPARマイグレーションにて障害状態となったLPARの回復が実行されています。
対処方法	特にありません。

メッセージ内容	Inhibit ICV request for the operation
説明	HVM構成情報の保存が実行できませんでした。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	しばらくしてから再実行してください。

メッセージ内容	Insufficient Processor resource
説明	占有論理プロセッサ数設定時、占有論理プロセッサ数分の物理プロセッサを確保できません。 LPAR Activate時、LPARに割り当てる物理プロセッサを確保できません。
HVM動作	LPARのActivateを中止します。
対処方法	割り当てプロセッサ数を減らすか、現在Activate中のLPARをDeactivateした後に再度LPARのActivateを実行してください。 または、Logical Processor Configurationスクリーンを確認してください。

メッセージ内容	Invalid hour data.
説明	HVMシステム時間の変更で、指定された数値が不当です。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定の数値を訂正して、再実行してください。

メッセージ内容	Invalid Input Data.
説明	新たに設定しようとしたデータは不正のため設定できません。
HVM動作	設定処理を中止します。
対処方法	別のデータを設定してください。

メッセージ内容	Invalid minute data.
説明	HVMシステム時間の変更で、指定された数値が不当です。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定の数値を訂正して、再実行してください。

メッセージ内容	Invalid month data.
説明	HVMシステム時間の変更で、指定された数値が不当です。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定の数値を訂正して、再実行してください。
メッセージ内容	Invalid second data.
説明	HVMシステム時間の変更で、指定された数値が不当です。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定の数値を訂正して、再実行してください。
メッセージ内容	Invalid separator.
説明	HVMシステム時間の変更で、指定された数値が不当です。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定の数値を訂正して、再実行してください。
メッセージ内容	Invalid year data.
説明	HVMシステム時間の変更で、指定された数値が不当です。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定の数値を訂正して、再実行してください。
メッセージ内容	LPAR activation failed.
説明	何らかの理由で、LPARのActivateができません。
HVM動作	LPARのActivateを中止します。
対処方法	LPARの設定を見直した後、Activateを実行してください。
メッセージ内容	LPAR deactivation failed.
説明	何らかの理由で、LPARのDeactivateができません。
HVM動作	LPARのDeactivateを中止します。
対処方法	LPARの設定を見直した後、Deactivateを行ってください。
メッセージ内容	LPAR start failed.
説明	対象LPARのリスタートが失敗しました。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定の処理を再実行してください。
メッセージ内容	Memory allocation failed (Fragmentation).
説明	LPAR のActivate 時に、指定された容量のメモリを確保できませんでした。
HVM動作	LPAR のActivate を中止します。
対処方法	フラグメンテーションにより、メモリが確保できませんでした。メモリの割り当て容量を減らすか、現在Activate中のLPARをDeactivateした後に再度LPARのActivateを行ってください。
メッセージ内容	Memory allocation failed (Insufficient).
説明	LPARのActivate時に、指定された容量のメモリを確保できませんでした。
HVM動作	LPARのActivateを中止します。
対処方法	メモリの割り当て容量を減らすか、現在Activate中のLPARをDeactivateした後に再度LPARのActivateを行ってください。
メッセージ内容	Memory size is zero.
説明	メモリサイズがゼロのため、LPARのActivateができません。
HVM動作	LPARのActivateを中止します。
対処方法	メモリサイズを設定した後、Activateを行ってください。
メッセージ内容	No groups can be removed.
説明	削除できるグループはありません。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定の処理を見直してください。
メッセージ内容	Not Changed!! Select Device is Management Path.
説明	NICのスケジューリングモードを変更したとき、選択したNICが管理パスの設定になっています。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定処理を再検討してください。
メッセージ内容	Over Max VLAN ID count (16).
説明	VLANIDの設定数が16を超えています。
HVM動作	入力したVLANIDが16未満に修正されるか、Escキーが押されるまでサブスクリーンを表示します。
対処方法	入力したVLANIDを16未満に修正するか、Escキーを押してVLANIDの設定をキャンセルしてください。

メッセージ内容	Over the maximum number of activated LPARs (2).
説明	EssentialモデルのActivate可能な最大LPAR数(2)を超えているため、LPARのActivateができません。
HVM動作	LPARのActivateを中止します。
対処方法	現在Activate中のLPARをDeactivateした後に再度LPARのActivateを実行してください。

メッセージ内容	Over the maximum number of activated LPARs (8).
説明	AdvancedモデルのActivate可能な最大LPAR数(8)を超えているため、LPARのActivateができません。
HVM動作	LPARのActivateを中止します。
対処方法	現在Activate中のLPARをDeactivateした後に再度LPARのActivateを実行してください。

メッセージ内容	Press any key first. Then press F10 key next.
説明	設定の変更を有効にするためには、F10キーを実行する必要があります。
HVM動作	F10キー入力を待ちます。
対処方法	何かキーを押し、出力メッセージを消去後、F10キーを押してください。

メッセージ内容	Resource lock failure.
説明	構成情報更新時のロック取得を失敗しました。 システム、LPAR操作時のロック取得を失敗しました。 NICのLRAR更新時のロック取得を失敗しました。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定の処理を再実行してください。

メッセージ内容	Sampling time Error
説明	LPAR Usageスクリーンでサンプリング時間の設定に失敗しました。
HVM動作	サンプリング時間の設定を中止します。
対処方法	1~60の範囲の値に設定してください。

メッセージ内容	Save Configuration request(F9 Key) is already accepted. Please wait.
説明	HVM構成情報の保存要求はすでに受けています。少々お待ちください。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	HVM構成情報の保存が開始されるまでお待ちください。

メッセージ内容	Select Device is Single Port NIC.Can not change Management Path.
説明	NICの管理パス設定で、選択したNICが1portです。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定処理を再検討してください。

メッセージ内容	Service Ratio must be 1-999
説明	新たに設定しようとしたサービス率は1から999の範囲にないため設定できません。
HVM動作	サービス率の設定を中止します。
対処方法	1から999の範囲でサービス率を設定してください。

メッセージ内容	Target LPAR is active.
説明	設定しようとしたLPARは、Activate中なので設定できません。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	LPARをDeactivateした後で再設定を行ってください。

メッセージ内容	Target LPAR is coming to foreground.
説明	LPARゲストスクリーンに切り替え実施中です。
HVM動作	指定の処理を続行します。
対処方法	そのまましばらくお待ちください。

メッセージ内容	Target LPAR is deactive.
説明	LPAR Deactivate時、対象LPARがすでにDeactivate状態です。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	LPARをActivate後、再実行してください。

メッセージ内容	Target LPAR is undefined.
説明	LPAR操作時、操作対象LPARが未定義です。 仮想NIC構成情報変更時、変更対象LPARが未定義です。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	指定の処理を再実行してください。

メッセージ内容	Target LPAR must be shared mode.
説明	設定しようとしたLPARは、占有モードなので設定できません。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	LPARのスケジューリングモードを共有に変更した後で再設定を行ってください。

メッセージ内容	The LPAR Migration is in progress. This LPAR Migration prevents some operations such as activation, deactivation and LPAR-reconfiguration from performing.
説明	LPARマイグレーション実行中のため、スクリーンによる操作が禁止されています。
HVM動作	LPARマイグレーションが実行されています。
対処方法	LPARマイグレーションが終了するまで、そのまましばらくお待ちください。

メッセージ内容	The name is used for other group.
説明	グループ名称設定時、同じ名前のグループが既に存在します。
HVM動作	グループ名称の変更処理を中止します。
対処方法	別の名前に変更してください。

メッセージ内容	The name is used for other LPAR.
説明	LPAR名称設定時、同じ名前のLPARがすでに存在します。
HVM動作	LPAR名称の変更処理を中止します。
対処方法	別の名前に変更してください。

メッセージ内容	The specified LPAR has corrupted in a LPAR Migration, please try to recover the LPAR.
説明	LPARマイグレーションにより障害状態となったLPARのため、操作することはできません。
HVM動作	LPARマイグレーションにより障害状態となったLPARのため、操作を禁止しました。
対処方法	LPARに対して、LPARマイグレーションのための回復を実施してください。

メッセージ内容	Updating HVM firmware, Please try again after it is finished.
説明	HVMファームウェア更新中のためHVMシャットダウンまたはF10キーを実施できません。
HVM動作	指定の処理を中止します。
対処方法	HVMファームウェアの更新が終了した後に、指定の処理を再実施してください。

メッセージ内容	Updating HVM firmware, Please wait until it is finished.
説明	HVMファームウェア更新中のためHVMシャットダウンは待機中です。
HVM動作	指定の処理を一時的に待機します。
対処方法	HVMファームウェアの更新が終了するまで、そのまましばらくお待ちください。

メッセージ内容	VLAN ID is not set.
説明	表示すべきVLAN IDが設定されていません。
HVM動作	指定の動作を中止します。
対処方法	表示すべきネットワークセグメント識別子を確認してください。

上記以外のエラーメッセージが出力された場合は、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

2.3.3 HVMシステムログメッセージ

HVM System Logsスクリーンに表示されるHVMシステムログメッセージを以下に示します。

レベル	説明
Error	障害メッセージを示します。HVMで障害が発生しました。
Warn	警告メッセージを示します。障害ではありませんが、注意すべき現象です。
Info	情報メッセージを示します。上記レベルに該当しない現象です。

【Errorレベル】

メッセージ内容	Dmar Fault occurred.
説明	DMARフォルトが発生しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	Guest, Watchdog timer has expired.
説明	ゲストウォッチドックタイマのタイムアウトを検出しました。
対処方法	他に採取されている障害を示すHVMシステムログを参照して対処してください。解決できない場合には、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	H/W Corrected MCK logging was suppressed.
説明	修正されたマシンチェックイベントの記録回数が閾値を超えて、エラー記録を抑制しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	H/W Fatal MCK occurred.
説明	致命的マシンチェックイベントが発生しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	Hardware Component BMC access error occurred.
説明	物理BMCへのアクセス障害が発生しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	HVM Assist damage occurred.
説明	HVM障害(HVM Assist障害)が発生しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	HVM Assist damage occurred. (due to H/W error)
説明	ハードウェア障害を起因としたHVM障害(HVM Assist障害)が発生しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	HVM damage occurred.
説明	HVM障害が発生しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	HVM damage occurred. (due to H/W error)
説明	ハードウェア障害を起因としたHVM障害が発生しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	HVM detected a lack of I/O interrupt vectors.
説明	I/O割り込みベクタの不足を検出しました。
対処方法	PCIデバイス構成を確認してください。製品未サポートのPCIデバイスが構成にある場合、構成から取り除いてください。解決しない場合には、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	HVM detected Activation error for Shared NIC at expansion card.
説明	共有NICの有効化失敗を検出しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	HVM detected Activation error for Shared NIC at on-board.
説明	共有NICの有効化失敗を検出しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	HVM detected Activation error for Shared NIC.
説明	共有NICの有効化失敗を検出しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected error of network communication at management path.
説明	管理パス異常を検出しました。内部LANと管理LANのセグメントが重複しています。
対処方法	HVM IPアドレスの設定を見直してください。
メッセージ内容	HVM detected error of network communication for SVP access.
説明	HVMとマネジメントモジュール間で通信障害が発生しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected Hardware error for Shared FC at expansion card.
説明	共有FCの致命的障害を検出しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected Hardware error for Shared FC.
説明	共有FCの致命的障害を検出しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected Initialization error for Shared NIC at expansion card.
説明	共有NICの初期化失敗を検出しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected Initialization error for Shared NIC at on-board.
説明	共有NICの初期化失敗を検出しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected Initialization error for Shared NIC.
説明	共有NICの初期化失敗を検出しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected Link Down error for Shared FC at expansion card.
説明	共有FCのリンクダウンを検出しました。
対処方法	共有FCへの接続を確認してください。解決しない場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected Link Down error for Shared FC.
説明	共有FCのリンクダウンを検出しました。
対処方法	共有FCへの接続を確認してください。解決しない場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected Link Down error for Shared NIC at expansion card.
説明	共有NICのリンクダウンを検出しました。
対処方法	共有NICへの接続を確認してください。解決しない場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected Link Down error for Shared NIC at on-board.
説明	共有NICのリンクダウンを検出しました。
対処方法	共有NICへの接続を確認してください。解決しない場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected Link Down error for Shared NIC.
説明	共有NICのリンクダウンを検出しました。
対処方法	共有NICへの接続を確認してください。解決しない場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected MCKINT for Shared FC at expansion card.
説明	共有FCの一時的障害を検出しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected MCKINT for Shared FC.
説明	共有FCの一時的障害を検出しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	HVM detected network communication error at SC Manager access.
説明	HVMとJP1/SC/BSM間で通信障害が発生しました。
対処方法	HVMとJP1/SC/BSM間の接続確認を確認してください。解決できない場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected PCI bus error for Shared FC at expansion card.
説明	共有FCのPCIバス障害を検出しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM flash memory access error occurred.
説明	HVM用フラッシュメモリへのアクセス障害が発生しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM-LFW detected internal error.
説明	HVM論理ファームウェアは内部エラーを検出しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	LPAR damage occurred.
説明	HVM障害(LPAR障害)が発生しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	LPAR damage occurred. (due to H/W error)
説明	ハードウェア障害を起因としたHVM障害(LPAR障害)が発生しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	Network configuration error for Shared FC at expansion card.
説明	共有FCのインタフェース障害を検出しました。
対処方法	共有FCへの接続を確認してください。解決しない場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	Network configuration error for Shared FC.
説明	共有FCのインタフェース障害を検出しました。
対処方法	共有FCへの接続を確認してください。解決しない場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	Network Segment damage occurred.
説明	LPAR間通信用またはNIC共有用のネットワークセグメントで障害が発生しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	PCI device error was detected.
説明	PCIデバイスエラーを検出しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	Physical Processor Isolation.
説明	物理CPUを縮退させました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	Shadow Command is rejected.
説明	HVM Assistへの要求を破棄しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	SVGA Initialization failed.
説明	物理SVGAの初期化に失敗しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	System Service request command failed.
説明	システムサービスへの要求コマンドが失敗しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	VNIC damage occurred.
説明	仮想NICで障害が発生しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	VNIC damage on HVM Assist occurred.
説明	仮想NIC(HVM Assist)で障害が発生しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

【Warnレベル】

メッセージ内容	Guest dump failed.
説明	ゲストメモリダンプの実行が失敗しました。
対処方法	HVM管理コマンド(HvmShコマンド)の「ゲストメモリダンプ進捗状況取得コマンド」を実行すると、ゲストメモリダンプの実行が失敗したことと失敗した要因の情報が得られます。当該コマンドが出力する「実行結果ステータスとメッセージ」の内容に応じた対処をしてください。
メッセージ内容	H/W CMC occurred.
説明	修正されたマシンチェックイベント(CMC割り込み)が発生しました。
対処方法	本HVMシステムログが複数発生している場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	H/W Corrected MCK occurred.
説明	修正されたマシンチェックイベントが発生しました。
対処方法	特にありません。 ※マシンチェックイベントの発生回数は閾値管理していますので、当メッセージ発生による対処は必要ありません。マシンチェックイベントの発生回数が閾値を越えた際は、別途メッセージが表示されます。別途メッセージの対処方法に従い、対処してください。
メッセージ内容	H/W CPE occurred
説明	修正されたマシンチェックイベント(CPE割り込み)が発生しました。
対処方法	本HVMシステムログが複数発生している場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected AP initialization timeout.
説明	ゲストOSの初期化でタイムアウトが発生しました。
対処方法	LPARへのサービス率割り当てを見直してください。
メッセージ内容	HVM detected Driver Ver Error for Shared FC at expansion card.
説明	共有FC非対応のFCドライバを検出しました。
対処方法	ドライバを共有FC対応バージョンに更新してください。
メッセージ内容	HVM detected Driver Ver Error for Shared FC.
説明	共有FC非対応のFCドライバを検出しました。
対処方法	ドライバを共有FC対応バージョンに更新してください。
メッセージ内容	HVM detected initial parameter error.
説明	初期パラメータファイルのデータ不正を検出しました。
対処方法	System Configurationスクリーンで設定を見直してください。
メッセージ内容	HVM detected PCI bus error for Shared FC.
説明	共有FCのPCIバス障害を検出しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected PCI dev assign error.
説明	PCIデバイス割り当て情報不正をHVMが検出しました。
対処方法	PCI Device AssignスクリーンでPCIデバイスを再割り当てし直してください。再びこのHVMシステムログが採取される場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM detected too many physical CPUs, some CPUs are ignored.
説明	物理搭載CPU数がHVMで認識可能なCPU数の上限を超えたため、超えた分のCPUを無視して起動しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM dump generation failed.
説明	HVMダンプの採取に失敗しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM dump is lost.
説明	HVMダンプが消失しました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	HVM dump management file access error occurred.
説明	HVMダンプ管理情報ファイルのアクセスエラーが発生しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM dump transfer failed.
説明	HVMダンプのマネジメントモジュールへの転送に失敗しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM failed deletion of the initial parameter file.
説明	初期パラメータファイルの削除に失敗しました。
対処方法	このHVM システムログが頻繁に採取される場合には、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM firmware update failed.
説明	HVMファームウェアの更新が失敗しました。
対処方法	HVMファームウェアの更新に失敗した場合は、HVMファームウェア更新失敗のWeb画面が表示されます。当該画面のエラーの対処方法にしたがい、対処を行ってください。
メッセージ内容	HVM Loader deleted the initial parameter.
説明	HVM起動のための初期パラメータファイル(InitParam.dat)を検出しましたが、ファイルを削除しました。
対処方法	初期パラメータファイルを削除した理由は以下のとおりです。HVMシステムログの詳細メッセージにより、要因を切り分けることができます。 <ul style="list-style-type: none"> ・UBRコマンドでリストアが実行された ・DCコマンドで初期化が実行された ・JP1/SC/BSMでクローニングが実行された ・N+Mコールドスタンバイが実行された ・ブレードシリアル番号が不一致
メッセージ内容	HVM Loader detected flash memory access error and load configuration from SVP.
説明	フラッシュメモリの故障を検出したため、自動でリカバリを実施しましたが、フラッシュメモリへのコピーが失敗したため、マネジメントモジュールから構成情報を読み込みました。
対処方法	このHVMシステムログがHVMを起動する毎に採取される場合には、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM Loader detected load error and recovered.
説明	構成情報の読み込みに失敗しましたが回復しました。
対処方法	HVMを起動する毎にこのHVMシステムログが採取される場合には、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM System Shutdown Failed.
説明	HVMのシャットダウンに失敗しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM-LFW detected failure of getting bootdevice.
説明	HVM論理ファームウェアはBootDeviceの取得失敗を検出しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM-LFW detected failure of setting bootorder.
説明	HVM論理ファームウェアはBootOrderの設定失敗を検出しました。
対処方法	BootOrder設定ファイルの内容を見直してください。解決出来ない場合には、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM-LFW detected internal error.
説明	HVM論理ファームウェアは内部エラーを検出しましたが、エラー回復しました。
対処方法	このHVMシステムログが頻繁に採取される場合には、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	Lock timeout was recovered.
説明	ロックタイムアウトが発生しました。
対処方法	ロックタイムアウトが発生しましたが、エラー回復しました。
メッセージ内容	SVP access initialization failed.
説明	マネジメントモジュールへのアクセスの初期化が失敗しました。
対処方法	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	Thermal error occurred.
説明	温度上昇注意のイベントが発生しました。
対処方法	システム装置の通気口のほこりを取り除いて通気を良くしてください。通気を良くしても本HVMイベントログが採取される場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

メッセージ内容	Unknown event occurred.
説明	不明なイベントが採取されました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

【Infoレベル】

メッセージ内容	Found the machine type mismatch HVM initialized the configuration files.
説明	HVM構成情報とサーバブレード構成が不一致です。
対処方法	HVM構成情報、およびサーバブレード構成を確認してください。
メッセージ内容	Guest dump completed.
説明	ゲストメモリダンプの実行が完了しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	Guest dump started.
説明	ゲストメモリダンプ開始操作により、ゲストメモリダンプの実行を開始しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	Guest dump was cancelled.
説明	ゲストメモリダンプ中止操作により、ゲストメモリダンプの実行が中止されました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	Guest, Double Fault(#DF) occurred.
説明	ゲストダブルフォルトが発生しました。
対処方法	ゲストOSの動作状態を確認してください。
メッセージ内容	Guest, INIT occurred.
説明	ゲストINIT割り込みが発生しました。
対処方法	ゲストOSの動作状態を確認してください。
メッセージ内容	Guest, NMI occurred.
説明	ゲストNMI割り込みが発生しました。
対処方法	ゲストOSの動作状態を確認してください。
メッセージ内容	Guest, Triple Fault occurred.
説明	ゲストトリプルフォルトが発生しました。
対処方法	ゲストOSの動作状態を確認してください。
メッセージ内容	H/W Corrected MCK cumulative count was logged.
説明	修正されたマシンチェックイベント発生回数の累計を記録しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	Hardware Component BMC access error was recovered.
説明	物理BMCへのアクセス障害が回復しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM activates LPAR in auto activation process.
説明	Auto Activate動作でLPARをActivateしました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM auto activation process is cancelled.
説明	Auto Activate動作をキャンセルしました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM auto activation process is ended.
説明	Auto Activate動作が完了しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM auto activation process is started.
説明	Auto Activate動作を開始しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM booted with copied configuration files.
説明	クローニングを実施したHVM構成情報で起動しました。
対処方法	特にありません。

メッセージ内容	HVM booted with initial parameter file.
説明	初期パラメータファイルの設定でHVMを起動しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM completed deletion of the initial parameter file.
説明	初期パラメータファイルの削除が完了しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM detected Link Up recovery at Shared NIC at expansion card.
説明	共有NICのリンクアップ回復を検出しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM detected Link Up recovery at Shared NIC at on-board.
説明	共有NICのリンクアップ回復を検出しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM detected Link Up recovery at Shared NIC.
説明	共有NICのリンクアップ回復を検出しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM detected MCK recovery for Shared FC at expansion card.
説明	共有FCで障害リカバリが発生しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM detected MCK recovery for Shared FC.
説明	共有FCで障害リカバリが発生しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM detected PCI Configuration unmatched and recovered.
説明	HVM構成情報でハードウェア構成が不一致のため、PCIデバイスを共有モードに変更しました。
対処方法	HVM構成情報、およびハードウェア構成を確認してください。
メッセージ内容	HVM detected PCI Configuration unmatched.
説明	HVM構成情報とPCIデバイス構成が不一致です。
対処方法	HVM構成情報、およびPCIデバイス構成を確認してください。
メッセージ内容	HVM detected recovery of network communication at SVP access.
説明	HVMとマネジメントモジュール間の通信障害が回復しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM detected Shared FC Link is Available at expansion card.
説明	共有FCのリンクが有効となりました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM detected Shared FC Link is Available.
説明	共有FCのリンクが有効となりました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM dump generation succeeded.
説明	HVMダンプの採取に成功しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM dump transfer retry.
説明	HVMダンプをマネジメントモジュールへ再転送しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM dump transfer succeeded.
説明	HVMダンプをマネジメントモジュールへ転送しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM firmware update was finished successfully.
説明	HVMファームウェアの更新が正常に終了しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM firmware update was started.
説明	HVMファームウェアの更新が開始されました。
対処方法	特にありません。

メッセージ内容	HVM Loader deleted the initial parameter.
説明	HVM起動のための初期パラメータファイル (InitParam.dat)を検出しましたが、ファイルを削除しました。
対処方法	当メッセージ発生による対処は必要ありません。当現象が発生時に対処が必要な場合は、Warnレベルの別途メッセージが表示されます。別途メッセージの対処方法に従い、対処してください。
メッセージ内容	HVM Loader detected switching NIC port.
説明	HVM起動時にNICポートが切り替わりました。
対処方法	このHVMシステムログが頻繁に採取される場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM Loader detected the damage of flash memory and recovered.
説明	フラッシュメモリの故障を検出したため、自動でリカバリを実施しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM Loader detected the initial parameter in SVP.
説明	HVM起動のための初期パラメータファイル (InitParam.dat)をマネジメントモジュールで検出しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM Loader initialized the configuration files.
説明	HVM構成情報の初期化を行いました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM Loader loaded configuration files from SVP.
説明	HVM構成情報をマネジメントモジュールより書き戻しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM logged the EFI-Driver log for Shared FC at expansion card.
説明	共有FCドライバがログをHVMに転送しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM logged the EFI-Driver log for Shared FC.
説明	共有FCドライバがログをHVMに転送しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM Shutdown State Changed to InProgress.
説明	シャットダウン状態がInProgressになりました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM Shutdown State Changed to Ready.
説明	シャットダウン状態がReadyになりました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM skipped LPAR auto activation process.
説明	Auto Activate動作でLPARのActivateをスキップしました。
対処方法	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。
メッセージ内容	HVM System Shutdown Started.
説明	HVMのシャットダウンを開始しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM updated the configuration files with XXXXXXXX.
説明	構成情報ファイルの自動保存を行いました。 XXXXXXXXには、以下の構成情報ファイル名が入ります。 ・InitParam.dat ・CloneInf.dat
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	HVM updated the configuration files.
説明	旧バージョンのHVM構成情報を新バージョンのHVM構成情報のフォーマットに変換しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	I/O interrupt vector mode was changed.
説明	I/O割り込みベクタモードが変更されました。
対処方法	特にありません。

メッセージ内容	Invalid State was recovered. (ptc.l)
説明	HVMがptc.l命令の不正状態を回復しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	LPAR Migration event occurred.
説明	LPARマイグレーション操作により、LPARマイグレーションが開始または終了しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	Physical SEL has been cleared.
説明	物理SELをクリアしました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	Shadow Command was retried.
説明	HVM Assistへの要求を再送しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	Shared FC MCK Log was logged in LPAR at expansion card.
説明	共有FCの障害情報をLPARに格納しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	Shared FC MCK Log was logged in LPAR.
説明	共有FCの障害情報をLPARに格納しました。
対処方法	特にありません。
メッセージ内容	Thermal error was restored.
説明	温度上昇注意が解除されました。
対処方法	特にありません。

2.4 注意事項

注意事項を以下に示します。

項目	注意事項
HVM操作に関する注意事項	プロセッサキャッピングについて
	LPARメモリのフラグメントについて
	メモリ割り当てについて
	PCIデバイス割り当てについて
	共有FC機能の使用可否について
	ブートオプションの設定について
	HVMシャットダウンについて
システム運用に関する注意事項	フラッシュメモリ障害について
	管理パス通信のパフォーマンス低下について
	リモートコンソールについて
	パワーキャッピングについて
	UPSについて
JP1との連携に関する注意事項	JP1/NETM/Remote Controlについて
	JP1/SC/BSMIについて
	JP1/SC/DPMIについて
N+Mコールドスタンバイに関する注意事項	N+Mコールドスタンバイの運用について
	N+M切り替え時の時刻ずれについて

2.4.1 プロセッサキャッピングについて

- HVMファームウェアバージョンが17-6X以前の場合、構成情報から読み込まれたLPARのプロセッサキャッピングが有効となっているにも関わらず、当該LPARに対してキャッピングがかからないことがあります。本現象が発生した場合は、プロセッサキャッピングを有効に再設定することで回避できます。

2.4.2 LPARメモリのフラグメントについて

- 異なるメモリサイズのLPARでディアクティブとアクティブを繰り返すと、メモリ容量が十分あるにも関わらず、「Memory allocation failed(Fragmentation).」のメッセージを出力して、LPARのアクティブに失敗する場合があります。この現象を「LPARメモリのフラグメント」と言い、物理メモリ上の不連続な空きメモリが5個以上を必要とするLPARのアクティブで発生します。代表的なケースを以下に示します。

LPARメモリのフラグメントによるLPARアクティブ失敗の例

メモリ配置(例)		メモリ配置(例)
LPAR1 3GB	操作1 LPAR番号が偶数の LPARをディアクテ ィベート	LPAR1 3GB
LPAR2 1GB		空き 1GB
LPAR3 1GB		LPAR3 1GB
LPAR4 1GB		空き 1GB
LPAR5 1GB		LPAR5 1GB
LPAR6 1GB		空き 1GB
LPAR7 1GB		LPAR7 1GB
LPAR8 1GB		空き 1GB
LPAR9 1GB		LPAR9 1GB
LPAR10 20GB		空き 20GB

操作2
メモリサイズ24GB
のLPARをアクテ
ィベート

HVMスクリーン(例)

```

+-----+
| Memory Allocation Display |
+-----+
| # Mem Org Addr (Hex) Mem Size Name |
+-----+
| 1 00000000 00000000 768MB SYS2 |
| 2 00000000 30000000 2304MB LPAR1 |
| 3 00000000 c0000000 256MB SYS1 |
| 4 00000001 00000000 768MB LPAR1 |
| 5 00000001 30000000 1024MB ***** |
| 6 00000001 70000000 1024MB LPAR3 |
| 7 00000001 b0000000 1024MB ***** |
| 8 00000001 f0000000 1024MB LPAR5 |
| 9 00000002 30000000 1024MB ***** |
| 10 00000002 70000000 1024MB LPAR7 |
| 11 00000002 b0000000 1024MB ***** |
| 12 00000002 f0000000 1024MB LPAR9 |
| 13 00000003 30000000 19712MB ***** |
| 14 00000008 00000000 512MB ***** |
+-----+
| [PageUp]:Page Up / [PageDown]:Page Down |
+-----+

```

本現象が発生した(不連続な空きメモリが5個以上ある)場合は、以下の操作を行うことでLPARをアクティブできる場合があります。物理メモリ上のLPARメモリの配置状態は、Logical Partition(LPAP) Configuration スクリーンのMemory Allocation Displayで確認できます。

- (1) アクティブしようとする LPAR のメモリサイズを、空きメモリ 4 個分に収まる大きさまで小さくする
- (2) 空きメモリに隣接するメモリを使用しているアクティブ中の LPAR を一旦ディアクティブとする
- (3) ダミーLPAR を新たに定義し、小さい空きメモリ分をダミーLPAR のメモリサイズに指定して、アクティブする

異なるメモリサイズのLPARでディアクティブとアクティブを繰り返す場合は、不連続空きメモリが4個を超えないように、Memory Allocation Displayで空きメモリの配置状態を確認しながら運用してください。

2.4.3 メモリ割り当てについて

LPARへの最小メモリ割り当て容量は256MBですが、ゲストOSが動作できる最小メモリ容量は、使用するHVMファームウェアバージョン、OSの種類、OSのバージョン、論理プロセッサ数、ミドルウェア、およびアプリケーションにより、変動する可能性があります。

2.4.4 PCIデバイス割り当てについて

- 使用先を変更できるUSBデバイスはCD/DVDドライブおよびFDドライブのみです。
- USBデバイスを使用するLPARにはあらかじめActivate前にUSBデバイスを割り当てておく必要があります。USBデバイスが割り当てられていないLPARをUSBデバイスの使用先には選択できません。
- USB デバイスを使用するLPARはActivateされている必要があります。Deactivate中もしくはFailure中のLPARをUSBデバイスの使用先には選択できません。
- USBデバイスを使用中のLPARがFailure状態になった場合、USB デバイスの使用先をほかのLPARに変更することができなくなる場合があります。
- USBデバイスの切り離し(Detach)は、LPAR上で稼働中のファームウェアやOSの状態によらず即時に実行されます。このため、USBデバイスの切り離し操作は、以下の状態であることを十分に確認した上で行ってください。以下の状態でないときに切り離し操作を行うと、データ破損、ファームウェアやOS動作が不安定になる、切り離しが正常に完了しない、OSがハングアップするなどの問題が発生する場合があります。
 - ハードウェアの安全な取り外し操作(Windowsを使用する場合)、もしくはアンマウント操作(Linuxを使用する場合)を行って、OSからUSBデバイスが切り離された状態であること。
 - OS のブートもしくはリポート中でないこと。

USBデバイスの切り離しが正常に完了しなかった場合、USB デバイスを接続(Attach)してもOS がそのデバイスを認識しないことがあります。この場合、USB ケーブルを抜き差ししてください。OSがハングアップした場合、LPARを一旦Deactivateした後に再度Activateしてください。

- HVMがLPARにUSBデバイスを接続(Attach)すると通常、LPAR上で稼働中のOSが自動的にUSBデバイスを認識しますが、OSの状態によっては自動的に認識できない場合があります。この場合、一旦USBデバイスの切り離し(Detach)を行った後に再度USBデバイスの接続(Attach)を行うことにより、OSに認識させることができます。また、それでも認識しなかった場合は、OSからUSBデバイスドライバをアンインストールしてから、再インストールしてください。
- USBデバイスの使用先変更を行った直後に、ファームウェアやOSから認識されて使用可能となる前にUSBデバイスの切り離し(Detach)操作を行った場合、切り離しが正常に完了しない場合があります。
- OSをインストールする場合は、LPARのActivate前に使用するUSBデバイスを全て接続しておいてください。LPARのActivate後に接続するとUSBデバイスが認識されない場合があります。Activate後にUSBデバイスを接続した場合は、USBデバイスを接続したままLPARを一旦Deactivateした後に再度Activateしてください。
- LinuxにおいてDetach時にエラーメッセージが表示される場合がありますが、USBがmountされていない場合であればUSBデバイスのデータやその後のOSの動作には影響ありません。
- ゲストEFIのブートオプションを登録したときに使用したUSBポートと異なるUSBポートを使用した場合、CD/DVDドライブが認識されないことがあります。その場合は、ブートオプションを再登録してください。
- HVMがサポートしていないデバイスを使用しないでください。使用した場合、LPAR上のEFIがデバイスを認識できない、あるいはゲストOSがブートに失敗するなどの現象が発生する場合があります。
- HVM起動時は、フロントUSBにGuidパーティションテーブル(GPT)のディスクを接続しないでください。フロントUSBにGPTのディスクを接続してHVMを起動した場合、HVMの起動に失敗する場合があります。フロントUSBにGPTのディスクを接続してHVMの起動に失敗した場合、フロントUSBからGPTのディスクを取り外した後、HVMを再起動してください。

2.4.5 共有FC機能の使用可否について

- 共有FC機能の使用可否を以下に示します。

接続構成			共有FC機能の使用可否	
			4Gbps Fibre Channelアダプタ	8Gbps Fibre Channelアダプタ
FCスイッチモジュール経由 でストレージと接続	FCスイッチモジュールが NPIVサポート	PtoP接続	可	可
		Loop接続	不可	可
	FCスイッチモジュールが NPIV未サポート	PtoP接続	不可	不可
		Loop接続	不可	可
ストレージと直結接続 (8Gbps Fibre Channelアダプタでのみ可能な構成)			PtoP接続	不可
			Loop接続	不可

2.4.6 ブートオプションの設定について

- 異なるブートオプションに同一のデバイスパスが重複して登録されている場合、OSのインストール/OSのブートに失敗することがあります。本現象はWindows Server 2008 Enterprise、Windows Server 2008 SP2 Enterpriseで確認されています。

異なるブートオプションに同一のデバイスパスが重複して登録されている例を以下に示します。



Boot0000選択時の画面

Boot0001選択時の画面

Boot0000とBoot0001に
同一のデバイスパスが
重複して登録されている。

本現象となる操作を以下に示します。

- (1) LPAR の Activate 後、論理 BIOS 画面で Continue を選択し、EFI Shell に入る
- (2) EFI Shell を抜けて、論理 BIOS 画面で Boot Maintenance Manager を選択し、Add Boot Option によりデバイスパスを登録

※ (1)の操作によりブートオプションにデバイスパスが自動登録されることがあります。
デバイスパスが自動登録されている場合、(2)の操作により同一のデバイスパスが重複して登録されます。

この場合は、Delete Boot Optionによりデバイスパスが重複して登録されている一方のブートオプションを削除し、OSのインストール/OSのブートを行ってください。

2.4.7 HVMシャットダウンについて

- HVMIにはHVM構成情報を保存した時刻を確認する方法がありません。HVM構成情報を保存したかご不明な場合は、HVMのシャットダウンを行う前にHVM構成情報の保存を行ってください。
HVM構成情報を保存するには、HVM Menuスクリーンで、[F9] (Save Configuration)を押します。保存する前にHVMをシャットダウンもしくは再起動した場合には、変更した値は消失します。
- マネジメントモジュールによるHVMの電源OFFを行わないでください。
上記によるHVMの電源OFFを行った場合は、その後のHVMの正常起動ができなくなる可能性があります。
HVMの電源OFFを行う場合は、すべてのLPARをDeactivateした後、HVMスクリーンから[Alt]+[r]を使用してHVMのシャットダウンを行ってください。

2.4.8 フラッシュメモリ障害について

- フラッシュメモリ障害に備え、定期的にHVM構成情報のバックアップを採取してください。
- HVMファームウェアバージョン 17-6X以降は、致命的なフラッシュメモリ障害を除き、フラッシュメモリ障害自動回復を行います。このとき、HVMシステムログに「HVM Loader detected flash memory access error and load configuration from SVP.」が採取されます。
このHVMシステムログがHVMを起動する毎に採取される場合には、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員に連絡してください。

2.4.9 管理パス通信のパフォーマンス低下について

- 共有NICの高負荷により、HVMのネットワーク通信部でプロセッサの使用率が高騰した場合に、HVM管理パスのパフォーマンスが低下し、以下の現象が発生する可能性があります。
 - HVM構成情報の保存に要する時間が長い (6分以上)
 - HVMファームウェアバージョンアップ等のアップロード時間が長い (1Gbpsのインタフェースで30分以上)
 - HvmShのコマンド応答時間が長い、あるいはタイムアウトが発生する
 - Virtage NavigatorでHVMの登録、あるいはアップデートが通信エラーで失敗する
 - JP1/SC/BSMからHVMIに対する操作が、タイムアウトで失敗する
 - HVM Webシステム(論理VGAスナップショット)が表示されない、あるいは表示の更新が遅い
 - HVMダンプ採取に要する時間が長い (5分以上)

HVMのネットワーク通信部のプロセッサ使用率は、LPAR UsageスクリーンのSYS2の値で確認が可能です。上記の問題が発生した場合は、LPAR UsageスクリーンでSYS2の値を確認してください。
SYS2のDsp(ms)値が、1800ms以上を示す状態となっている場合は、共有NICの高負荷が原因と推定されません。

本現象が発生した場合は、共有NICのネットワーク構成・共有NICへの負荷を見直してください。
高負荷状態が一時的なものであれば、負荷が緩和された後に、失敗したオペレーションを再実行してください。

2.4.10 リモートコンソールについて

- リモートコンソール接続を使用した場合、SVGAエミュレーションによりリモートコンソールの画面表示やマウス操作が遅くなります。
- サーバブレードのOSモードがHVMモードの場合、リモートコンソールによる電源操作を無効にしており、電源オン、電源オフ、リセット、NMIは実施できません。
- 論理EFI画面、もしくはゲストOSインストール過程のテキスト画面でマウス操作を行った場合、キーボードからの入力が遅れる場合があります。当該画面でのマウス操作は実施しないでください。

2.4.11 パワーキャッピングについて

- サーバブレード(P5モデル)では、SVPコマンドモードの「PSVコマンド」により、Exception handlingをWarning onlyに設定してください。



- BIOS G7/BMC 01-37 以降の組み合わせでは、本設定は不要です。

2.4.12 UPSについて

- 電源障害が発生してからサーバブレードがダウンするまでの時間は、Basicモードと比べて30秒程度長くなります。ただし、Activate中のLPAR数によっては、さらに時間がかかることがあります。

2.4.13 JP1/NETM/Remote Controlについて

- リモートコントロール機能を使用した場合、SVGAエミュレーションによりリモートコントロールの画面表示やマウス操作が遅くなります。

2.4.14 JP1/SC/BSMについて

- HVMファームウェアバージョンとJP1/SC/BSMファームウェアバージョンは、以下の組み合わせで使用してください。

HVMファームウェアバージョン	JP1/SC/BSMファームウェアバージョン
17-6X以降	09-00以降

上記以外の組み合わせを使用した場合、以下の拡張カードのスロット番号の表示例のようにHVMスクリーンとJP1/SC/BSMでスロット番号の表示が異なります。

拡張カードのスロット番号の表示例を以下に示します。

【PCI Device情報表示】および【PCI Device Scheduling Mode設定】

項目	HVMスクリーン	JP1/SC/BSM	備考
Slot Number	Ex0	E1x0	"x" の前に "1" が余分に表示

【FC情報表示】および【LPAR構成表示】

項目	HVMスクリーン	JP1/SC/BSM	備考
Slot Number	Ex0	1x0	"E" なし。"x" の前に "1" が余分に表示

x: サーバブレード番号

2.4.15 JP1/SC/DPMについて

- OSクリアインストールなどのHVM上のディスクを対象としたパーティションクリアはサポートしていません。
- JP1/SC/DPM使用時は、EFIドライバを以下のように設定し、ネットワークブート(PXEブート)に設定する必要があります。
 - (1) Boot Function = Enabled
 - (2) Select Boot Device = Enabled
 - (3) Boot Device List に対象となるストレージ側ポートの WWPN、LUN 番号
- LPARに占有NICを割り当てている環境において、Deactivate状態のLPARに対してシナリオを実行した場合、LPARのActivateが行われず(占有NICのWake on LANが未サポートのため)シナリオ実行エラーとなります。シナリオ実行状況は論理VGAスナップショットで確認してください。
- CPUブレードを自動で登録する場合に表示される「Power Down」、「Local Boot」の選択はシリアルコンソールで行い、選択状態は論理VGAスナップショットで確認してください。
- ディスク複製インストール時は、Administratorのパスワードを削除する必要があります。パスワードを削除する時は、以下の手順で実施してください。
 - (1) [Ctrl]+[Alt]+[End]を押下し、リモートデスクトップ上でパスワード変更画面を出す
 - (2) パスワードを削除する
 - (3) コントロールパネル>管理ツール>ローカルセキュリティポリシーを開き、セキュリティの設定>ローカルポリシー>セキュリティオプションの「アカウント: ローカルアカウントの空のパスワードの使用をコンソールログオンだけに制限する」を無効にする(パスワードを削除するとリモートデスクトップ接続ができなくなるため)
- DPM管理サーバのディスク複製用パラメータファイルに対応付けるMACアドレスとEFIのBootOrderの先頭に登録されているNICのMACアドレスを一致させてください。
- ディスク複製インストール時は、LPARのリポートが5回行われます(Basicと同様)。ただし、このリポート5回終わるまでに以下を実施すると自動再起動が行われなくなり、DPMは実行中の状態のまま停止してしまいます。以下の2点は実施しないようにしてください。
 - (1) HVM スクリーンからゲストコンソールに接続する
 - (2) リモートデスクトップ接続で接続する
- 配信マスタとするLPARと配信対象とするLPARのFCポート数(LUを割り当てていなくても)を同じにしてください。同じでない場合インストールに失敗する可能性があります。FCの割り当てはHVMスクリーンのPCI Device Assignmentで行います。LUサイズなど、そのほかの条件については、JP1/SC/DPMのマニュアルを参照してください。
- DPM障害発生時の障害メッセージは、DPM管理サーバで確認すると共に、論理VGAスナップショットで確認してください。障害発生時にPower Off 「p」キーあるいはReboot 「r」キーの入力を促すメッセージが表示される場合がありますので、HVMスクリーンからLPARをDeactivateあるいはReactivateしてください。
- リモートコンソールに表示される進捗状況などの文字表示が乱れることがありますが、JP1/SC/DPMの動作に影響はありません。

2.4.16 N+Mコールドスタンバイの運用について

- 通常パーティション(非予備パーティション)を予備パーティションとして使用する場合には、以下の手順で運用してください。

- (1) 通常パーティションの構成情報を SVP コマンドモードの「UBR コマンド」でバックアップする。
- (2) 通常パーティションを予備パーティションにし、N+M コールドスタンバイを構築後、運用する。

予備パーティションを通常パーティション(非予備パーティション)として使用する場合には、以下の手順で運用してください。

- (1) 予備パーティションを通常パーティションにし、N+M コールドスタンバイを解除する。
- (2) 通常パーティションを HVM モードに設定して起動する。
- (3) バックアップ済みの構成情報がある場合は、HVM を終了し、構成情報を SVP コマンドモードの「UBR コマンド」でリストアする。

注意

- 上記の手順で運用しないと、WWN や MAC アドレスが重複し、重大な障害を引き起こす恐れがあります。必ず上記の手順で運用してください。

2.4.17 N+M切り替え時の時刻ずれについて

- N+Mコールドスタンバイ環境にて、切り替えが発生するとLPARの時刻がずれることがあります。この場合は、ゲストOS上で時刻を合わせてください。

また、N+M復帰時は、以下の手順で運用してください。

- (1) 現用パーティションを起動し、セットアップメニューでシステム装置時刻を合わせます。
- (2) 予備パーティションから現用パーティションに復帰させます。
- (3) Date and Time スクリーンで Adjust LPAR Time を実行します。
- (4) HVM Menu スクリーンで[F9](Save Configuration)により、構成情報を保存します。
- (5) LPAR を Activate します。

索引

A

Allocated FC Information, 56

D

Date and Time, 63

F

Firmware Version Information, 79

Front Panel, 75

H

HVM Menu, 24

HVM Options, 67

HVM System Logs, 77

HVMキー, 20

HVMシステムログメッセージ, 90

HVMスクリーンとHVMコンソールの差異, 2

HVMスクリーンの簡単移動, 3

HVMスクリーンメッセージ, 85

HVMダンプの採取, 80

HVMブートメッセージ, 84

L

Logical Partition Configuration, 27

LPAR Usage, 71

P

PCI Device Assignment, 44

PCI Device Information, 43

Physical Processor Configuration, 40

S

Shared FC Assignment, 53

SVP情報の削除, 12

SVP情報の登録, 8

System Configuration, 57

System Service State, 61

V

Virtual NIC Assignment, 46

あ

安全にお使いいただくために, viii

き

規制・対策, iii

し

システム装置の信頼性, iii

重要なお知らせ, iii

ま

マニュアルの表記, v

Virtage ユーザーズガイド

～ 運用編 ～

2011年4月(第1版)

株式会社 日立製作所
エンタープライズサーバ事業部
〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

無断転載を禁止します。
<http://www.hitachi.co.jp>